

多摩川河川敷をおとずれる人々の住環境と
多摩川流域の利用のあり方との関係について

1981年

喜多野 薫

立花建築環境計画事務所所員

目 次

序 章	3
1. 研 究 の 目 的	3
2. 多 摩 川 の 概 況	3
3. 研 究 と 調 査 の 方 法	7
第 1 章 河 川 敷 来 訪 者 へ の ア ン ケ ー ト 調 査	8
1. 調 査 地 点 の 選 定	8
2. 調 査 の 方 法	14
3. ア ン ケ ー ト の 構 成	15
4. 調 査 結 果	16
4-1 多 摩 川 と の 接 し 方	17
4-2 多 摩 川 へ 訪 れ る 人 の 居 住 地 と 多 摩 川 へ の 評 価	25
4-3 多 摩 川 へ の 希 望	32
5. 調 査 実 施 場 所 で の 多 摩 川 の 景 観	32
5-1 S D 法 の 方 法 と 結 果	34
5-2 景 観 の 測 定	34
6. 河 川 敷 ア ン ケ ー ト 調 査 の ま と め	35
第 2 章 発 地 別 ア ン ケ ー ト 調 査	36
1. 追 跡 調 査 の 目 的	36
2. 調 査 地 点 の 選 定	37
3. 調 査 の 方 法	37
4. ア ン ケ ー ト の 構 成	37
5. 調 査 結 果	38
5-1 日 常 的 な 生 活 の 行 動 圏	38
5-2 周 辺 の 環 境	42
5-3 上 流 か ら 下 流 地 域 別 の 特 性	42
6. 居 住 地 環 境 と 多 摩 川	48
6-1 日 常 的 な 行 動 量	48
6-2 個 人 的 空 間 に 関 す る 主 観 的 環 境 評 価	49
6-3 社 会 的 空 間 に 関 す る 主 観 的 環 境 評 価	50
6-4 各 住 環 境 に お け る 多 摩 川	56

第3章 河川敷と発地別アンケートの結果から	57
1. 多摩川での評価とやすらぎ	57
2. 上流域の住環境と多摩川とのかかわり	57
3. 中流域の住環境と多摩川とのかかわり	58
4. 下流域の住環境と多摩川とのかかわり	58
第4章 結論と今後の課題	59
参 考 文 献	59
資 料 編	61

論 文 梗 概

序 章

この章では、研究と調査の目的及び方法と、調査に先だって従来の文献からの多摩川の概況について述べた。

多摩川の空間が、都市化の中でそのあり方・利用され方が、どのように存在しているのかを知るのを目的としており、その検討方法としてインタビュー形式によるアンケートと河川敷での景観測定を行う。さらにそれをふまえた上で、河川敷に訪れている居住地の側から、居住環境を詳しく知る調査を行った。

この調査の目的に沿って、従来の文献の中から大別して、多摩川の空間の利用状況と、水利用を検討した。特に中流域での水質の悪化、利用形態の相違について述べた。

第 一 章

河川敷でのアンケート調査の方法、結果、さらに景観測定の結果を述べた。

調査実施地点として、上流から永田橋、是政橋、二子橋、丸子橋の4ヶ所を選んだ。

結果として、二子橋以外はその周辺から人が集まっているが、二子橋に訪れる人は様々な所からやってきており、そのひん度は低い。これは場のづくりが半端なことが要因で「多摩川へ」という目的では人が集まることが少ないことが考えられた。

都市化との関係を探るために、人口密度を用いて多摩川での評価の様子を見た。下流域の丸子橋ではすべて高い人口密度の居住地から人が訪れており、その評価もたいへん高い所に集中するといったように、代償行動の一つとして多摩川が利用されている傾向が見られた。また、下流域では多摩川の空間の広さが重要視されていることや、上～中流域のように自然にも恵まれた場所では見られなかった都市化（人口密度）と多摩川でのいごこちの評価との関係－人口密度が高くなると評価もあがる－が、下流域ではみられたということ等から、住環境と多摩川のあり方には、都市化につれてその意味あいを変えてゆくだらうことが推測された。

第 二 章

ここでは、第一章で行った調査結果を受けて、さらに詳しい住環境や行動を知るために行った、居住地でのアンケート調査の方法・結果について述べている。

居住地の周辺環境に多摩川への行動が大きくかかわっており、又、各流域で多摩川は様々にかかわってきている。

選んだ居住地は、身近に行動できる場所の量にかなり違いがあり、たいへん場が豊富な上流では満足できる状態で利用されており、多摩川は近くにある水辺として親水性の行動の場の一つとなっている。中流では場が失われつつあり、少し出かけると在るのではあるが、その中で多摩川は最もやすらげる場として利用されている。下流域は、行動する場がほとんど身近になく、ひん度は多くはないが、多摩川への行動が中心となっている。しかし、やすらげる場とはなり得ておらず、必要であるという声だけが目立つ。ただ、行動を起こさずとも街並等といった景観に関するものへは比較的評価がよいのが、救いとなっている居住地といえる。

第 三 章

ここでは、一、二章のまとめとして、両結果から、現在のかかわり方、そして今後は何が望まれているかを考えた。

上～中流では、都市化がどんどん進み水質の悪化と、空間の削減が続いてゆくことは、多摩川の現在の利用価値をも変えることを意味しているため、現情は、少なくとも守られるべきであること、つまり、今の多摩川はやすらぎを水と自然によって与えることのできる最大の場であるから、これを変えてはならない。

下流域では、多摩川は必要ではあっても、望んでいる水辺にはなり得ていないことがわかった。日常に出かける場が失われた代償行動に足る場となる必要性も十分あることが読みとれた。例えば、丸子橋はより人工的に、二子橋は魅力のない半端な場をつくり直す必要があるのではないかと考えられる。

第 四 章

多摩川のあり方と、居住地の都市化とは大きくかかわっていることが明らかとなったが、さらに広範囲調査の必要と、景観についての都市化の中での変化予測の必要性について、今後の課題を提起している。

序 章

1. 研究の目的

「多摩川」この川は、今、東京都住民及び神奈川県住民にとって、どのようなとらえられ方をしているのだろうか。そして、どのように利用されているのだろうか。

古くから、多摩川は、東京都の西、神奈川県との境を流れ、人々に親しまれてきた。流域面積 1,240 km^2 にもおよぶ一級水系である多摩川は、自然や空間に恵まれ、その周辺に住む人や住民にとって憩いの場として利用されてきた。

しかし、多摩川は、その様相を様々に変えてきた。現在、下流域は、ゴルフ場やグラウンドをはじめとした施設が設けられ完全に人工化され、中流域は、施設と自然が両存しており、水質の悪化が進行している。

一方、東京都・神奈川県の住民の周辺環境も、姿を変えた。人口増や住宅事情の悪化を筆頭に、道路が縦横無尽に走り、大気汚染が進行し、空地や広場が姿を消してゆくなど、都市化が押し進められ、決して住みやすいとはいえない状態となっている。これらを始めとする変化は、都市化の圧力とも呼べよう。この圧力の中で生活している人々は、少しでも住みやすい住環境であるために、自ずと何らかの形で失われたもの、又は圧迫されたものの代償を必要とするであろうことが考えられる。

今回の調査では、多摩川に訪れる人々の住環境と、多摩川の接し方・利用のされ方の関係をさぐることを目的としている。

都市化の進んだ下流域に居住する人々にとって、多摩川という大きな空間・水辺を与えてくれる場はどのように利用されているのか。又、どんな形であるのを必要としているのだろうか。

都市化が進みつつある中～上流域に住む人々にとって、多摩川はどのような存在なのであろう。そして、どんなとりいれられ方をしているのだろうか。

多摩川は、現在でも自然は豊富であるし、広い空間を確保しており、都民やその周辺に住む人々にとって一大オアシスともなり得る場である。住環境との関係をさぐることによって、その利用実態を調べ、加えて景観のとらえ方も検討することによって、今後の多摩川のあり方を考えてゆきたい。

2. 多摩川の概況

多摩川は、その源を山梨県塩山市三ノ瀬地先の笠取山に発し、東南に流れ、小菅川を合わせ奥多摩川に流入し、多摩湖となり、日原川、秋川、浅川等を合流し、これより東京都と神奈川県との境界を流下し東京湾に注ぐ。流域面積 1,240 km^2 、幹線流路延長 120.9 km の一級河川である。

多摩川は、治水・利水に広く利用され、今日の社会・経済・文化の基盤となっている。多摩川について

ての文献は数多いが、その中でここでは、水利用と空間利用とに大別してその大筋を述べてみよう。

2-1 多摩川の水利用

多摩川は、昭和40年頃から急に水質が悪化し、アユなど清流でしか生息できない魚類は次々に姿を消し、洗剤の泡が堰に現われ、匂いもひどくなった。即ち、羽村堰で河川の水量の殆んどが上水道用水として取水されてしまっていること要因の他に、家庭、工場及びし尿処理排水が多量に流入するため極度に汚濁され、平井川・秋川等清流の流入でやや回復はするが、それより下流では兩岸からの下水・し尿処理水の流入で本流は汚濁され、強汚濁河川となって東京湾に注ぐ。図0-2-1^{☆1)}で見ると昭和40年を境に急に水質は悪化し、そのあと水質悪化が問題となり良化の傾向にはある。しかし図0-2-2^{☆2)}の下方の本流からの取水・流水、そしてグラフから見てもわかるように中流域での水質は悪化の傾向をたどっている。経年で、上流・中流・下流の変化をみると、上流域は横ばいないしはやや悪化しており、中流は悪化、そして下流は昭和50年頃までは良化したが、その後は横ばい状態である。これは、中流域よりの家庭排水が増えていることを示すものであり、都市化が進んでいることを示すものでもあろう。

2-2 多摩川の空間利用

多摩川の上流（羽村堰）から下流（大師橋）までの平日平均の人出はほぼ1万人、そして休日には3倍～6倍もの人出となる。季節としては春・夏・秋の順に人が多く訪れる。^{☆3)}

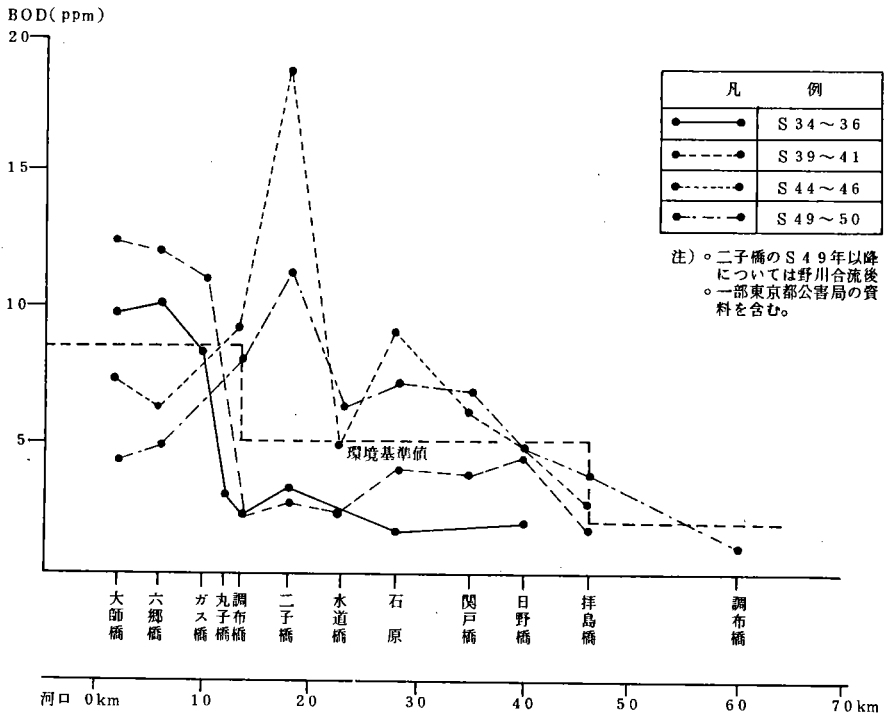


図0-2-1 水質(BOD)の変化

多摩川の河川敷は様々な計画そして自然保全がなされており、下流域は完全に施設化された河川敷で、公園・グラウンド・ゴルフ場等が設けてある。中流域は施設と自然が両存する形に造られてあり、草地が広がる所もあちこちにある。上流域は川幅が狭いこともありグラウンドのような大きな施設は全くなく護岸も自然に近い形で残っており、草地に木々も混ってくる。当然利用者の目的も異っており図0-2-3^{☆4)}で見ると、下流域では施設を必要とする野球や、芝を植えた公園化した所での休憩が多く、中流域では様々な目的の人が集まり、上流域では主に水遊び、釣りといった川の水と親しむ利用のされ方をしている。

以上触れてきたことから、多摩川は多くの人々が利用している空間であるが、利用のされ方は下流域の人工化が川本来のレクリエーションの場を与えているかどうかには疑問が残るし、中流域もこれからは水質の悪化が高まってくるとどうなるか、又、上流域の状態は現在のままでよいのか、以下の調査で満足感や住環境の現状から考えてみようと思う。

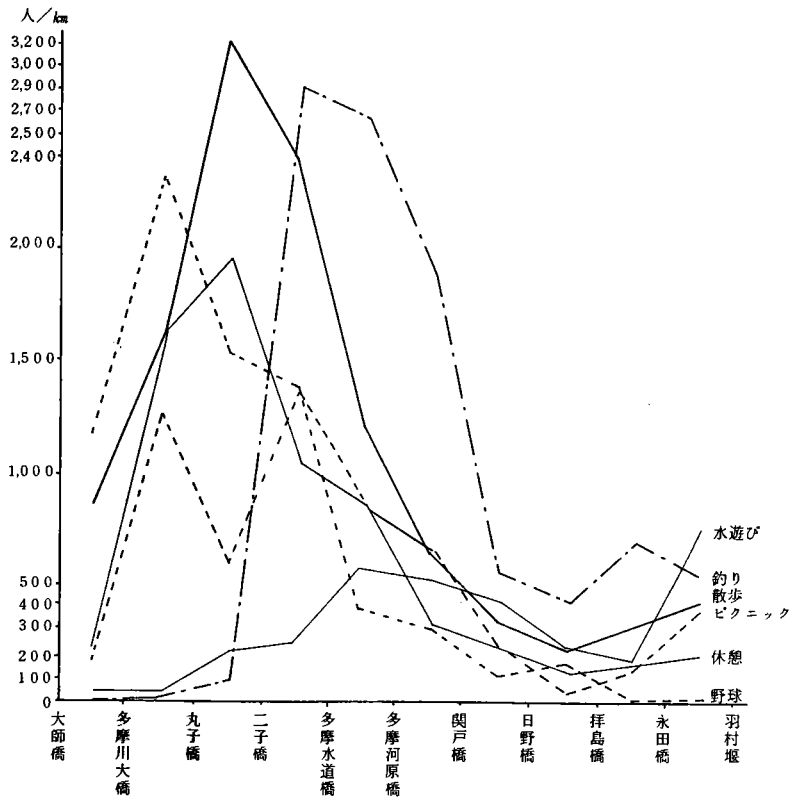


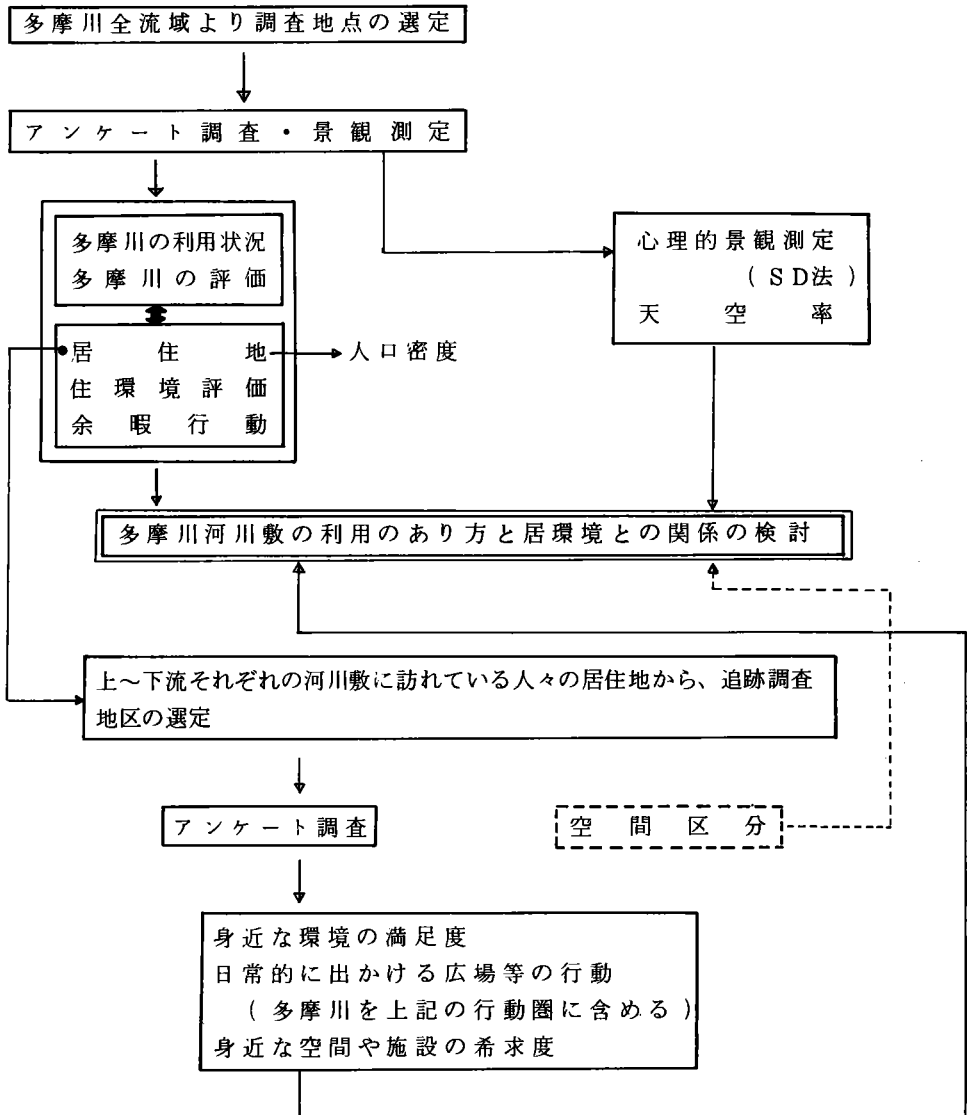
図0-2-3 利用行動別流域毎の利用者数(春季)

3. 研究と調査の方法

第一段階として、多摩川河川敷に訪れている人々に、インタビュー形式でアンケート調査を行う。加えて同地点で、景観測定も行い、その河川敷のとらえられ方をさぐる。

上記の調査で、目的に沿って来訪者の居環境を尋ね、どのような所から来ているかを知った上で、今度はインタビュー形式では聞けなかった詳しい行動や、住環境に対する評価などを、上流から下流の各居住地でアンケート調査を行う。

フ ロ ー 図



注 破線は予定。

第1章 河川敷来訪者へのアンケート調査

1. 調査地点の選定

目的で述べたように、実際に多摩川へ訪れる人に、多摩川での評価や住環境についてインタビュー形式によるアンケート方式を用いた。

このアンケートを実施するにあたり、上流・中流・下流それぞれの流域から調査地点を選定するために下記の点に留意して下見調査を行い性格づけを行い、選定規準とした。

- 1) 交通機関と河原までの距離
- 2) 駐車施設の有無
- 3) サイクリングロードの有無
- 4) 既設レクリエーション施設
- 5) 利用者層
- 6) 利用状況と場所
- 7) 周囲の景観・様相

この下見調査は、上流から永田橋、多摩大橋、日野橋、関戸橋、是政橋、多摩水道橋、二子橋、丸子橋、多摩川大橋の9地点で冬から春先にかけての状況をチェックした。(表1-1-1)

今回、永田橋、多摩大橋を上流と選定しているのは日帰り行動圏にまで明らかに至る所までは触れない予定であったためと、利用行動別のグラフよりその様子にちがいのみられた拝島橋より上流の方の地点として考えたためである。様々な分類の仕方があり、たとえば地形の上から分類すると永田橋は中流域扱いとなるが、今回の目的が住環境と多摩川の空間利用の関係を考えるもので、身近な存在として多摩川を利用できる範囲までを調査地点の候補にあげ下見を行った。

以上のことに加えて、表1-1-2に見るように、植生や鳥類出現種類指数、水質、魚類、自然環境総合評価を各橋地点毎に従来の資料よりその特性を調べて、調査地点選定規準とした。^{☆5)}

なお、10地点各々の特性の他に、羽村堰に至るまでの植生分布図(図1-1-1)、人工地・自然地の割合(図1-1-2)も参考にした。^{☆6)}

河川敷の植生は本来下流より短草→広葉草本→禾本科草本→カンシ木林→森林という植生遷移をたどると考えられる。多摩川においては、人間の干渉によって植生遷移が微妙に変化している。

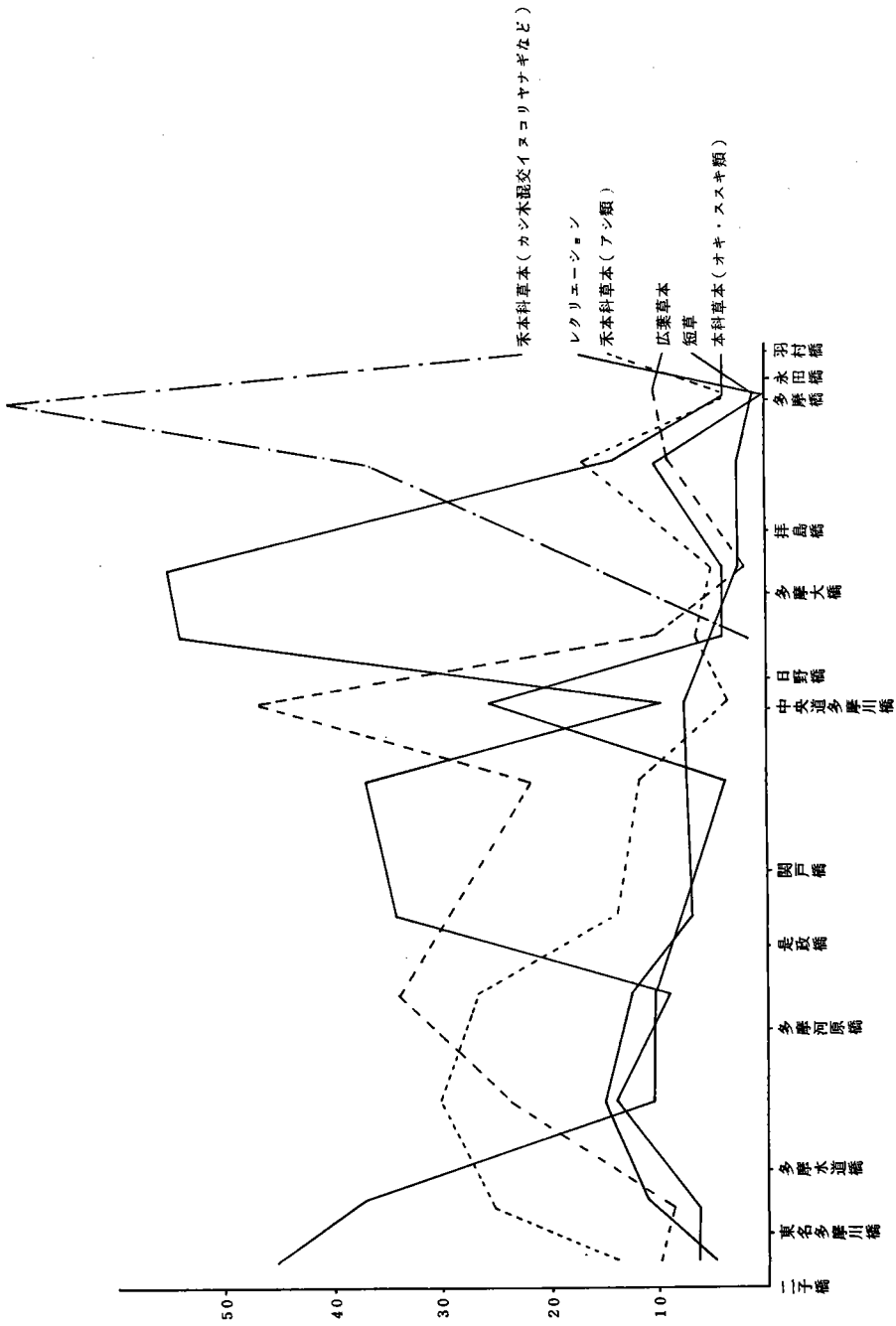


図1-1-1 植生の分布図

表1-1-1 下見調査の結果

	(1) 交通機関と河原までの距離	(2) 駐車施設の有無	(3) サイクリングロードの有無	(4) 既設レクリエーション施設
1.永田橋	青梅線(国鉄)福生駅より徒歩11~12分	なし	並木路の整地された部分のサイクリングロードになっている。	河川敷には施設なし、土手よりの橋のためとに遊戯施設のある小公園あり、より下流へむかって整理された並木道、東側河原は小石、対岸は草地。
2.多摩大橋	青梅線(国鉄)牛浜駅より徒歩11~12分	なし	なし	河川敷には施設なし。
3.日野橋	中央線立川駅よりバスで10分	なし 道路に少し駐車のみられる。	下流へサイクリングロードあり。	川そばに照明灯つきの野球場あり、河原東側に整備されていないがグラウンドに代用できる場所が1ヶ所有。 両岸は草地。
4.関戸橋	京王線中河原又は聖蹟桜ヶ丘駅より徒歩10~12分	なし 但し 堤防上の舗装路に少し駐車のみられる。	両岸にある。	東側にかなり広いグラウンド有、サッカー・プール・ジャングルジム有。西側は無し、草地。グラウンドをはさんで上・下流に草地がひろがる。
5.是政橋	西武多摩川線是政駅より徒歩2分	同上	両岸にある。	(東)下流に緑地、上流へ国鉄・南武線との間は草地で、すぎるとサッカー・野球場あり。 (西)ほとんど河原がなく、砂利と草地。
6.多摩水道橋	小田急線登戸駅より徒歩3~4分	同上	両岸にある。	(東)小石が広がる河原。 (西)企業の占有で入れない所 $\frac{2}{3}$ 位。 グラウンド有るが柵でかこってある。ボートのり場、売店。
7.二子橋	田園調布線二子玉川園より徒歩3~4分	あり	西側にのみある。	(東)新二子橋より少し上流に大きな公園がある。川原に兵庫島があり、つり堀にもなっている。 (西)グラウンド有、草地の広い中州あり。
8.丸子橋	東横線多摩川園駅より徒歩4~5分	なし 但し、堤防上の舗装路にかなり多くの駐車のみられる。	西側にのみある。 ほとんど人がいない。	両岸とも完全に施設化している。 (東)緑地とコンクリートの公園、各々芝のコーナーがつくられている。少し下流はグラウンド。 (西)ゴルフ場と緑地、交通公園、少し上流に巨人軍グラウンド、亀の子山有。
9.多摩川大橋	目蒲線新渡より徒歩7~8分	なし 但し、堤防上の舗装路や緑地にのりいれて駐車している。	両岸にある。	少し水辺が残ってはいるものの完全に近い施設化。 (東)緑地が広がり、花壇も点在している。 (西)ゴルフ場と緑地。

(5) 利用者層	(6) 利用状況と場所	(7) 周囲・景観・様相	調査地 選定
<ul style="list-style-type: none"> 9割方親子づれ。 小学生同志で遊んでいる姿もみられる。 	<p>東河原 子どもが素足で水遊び、石投げ、公園の遊具をつたった遊びが多い。親はベンチでみている。25~30人。 西河原 散歩する人少々、魚とりの子ども。</p>	<p>西に山なみ、樹木が見え、東は樹木・緑地が視野にはいる。川沿いに自動車道もなく静か、橋は薄緑色。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> 人がいない。大人1~2人程度。 	<p>河原中程の草地で1人ゴロ寝。ほとんど人がみられない。</p>	<p>両岸に樹木は豊富、自動車道が東岸に走り、空地は飛行機がよく飛びうるさい、橋はコンクリート。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 家族連れ中心。 子ども(野球)多い。 若者少々 	<p>下流に広がる草地で水切り、キャッチボール、フリスビー、釣り、休憩、散歩。 西側は休憩スタイル。</p>	<p>草草が広がるだけで木々はみえず不そういな家並みがのぞく、橋は薄赤、自動車道もなく比較的静か。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 家族づれと子ども。 若者少ない。 	<p>水辺で若者や子どもがねそべったり水切り。 グラウンドではキャッチボール、ブランコ。</p>	<p>東側 工場 西側は家なみがみえ、緑も多い、車の量が多いがあまり気にならない。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが多い。 大人のみ。 家族連れ少々。 	<p>堰で子どもたちが釣り、水遊び、サイクリングの小休止場。 施設利用が多い。</p>	<p>両岸に部分的に工場有。 西側に山なみがみえる、あまりうるさくはない。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが多い。 大人少々。 	<p>子どものポート遊び、釣り。 大人は釣り、探鳥。</p>	<p>河原の緑で外視野にはほとんど何も入ってこない。 東側に団地あり、自動車の量も多く、小田急線もうるさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ほとんど親子づれ。 	<p>水あそび、釣り、池でポート遊び、ピクニック、散歩。 公園利用は野球。</p>	<p>両岸に高層建築物がみえる。 河原は自然な形で残っているのであまり気にならない。 うるささも気にならない。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> 家族連れと若者。 	<p>ほとんどがくつろいですわっている。ポート遊びも遊園地のように多い。ひしめくほど人がいる。300m位の区間。</p>	<p>マンション・団地がみえる。 交通量が多いうるさい。 新幹線が通りたいへんうるさい。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> 若者が多い。 家族連れ少々。 	<p>人々が点在してくつろいでいる。ベンチもあるが草地にすわっている。水辺で子どもの水遊び、土手すべり。</p>	<p>東に工場、西にマンションがみえる。橋は青いが殺風景、交通量はあまり気にならない。</p>	

表 1-1-2 多摩川の自然環境

	主なる植生群落	鳥 類	水 質	魚 類
1. 永 田 橋	禾本科草本 (カン木混交)	鳥類出現種類指数 3	強汚濁地点	ウグイ
2. 多 摩 大 橋	禾本科草本 (カン木混交、アシ、ススキ類)	2.5	中汚濁区	オイカフ
3. 日 野 橋	禾本科草本 (オギ、ススキ類)	2.5	強汚濁地点	オイカフ
4. 関 戸 橋	広葉草本(キク類) 禾本科草本 (オギ、ススキ、アシ類)	2.5~2	強汚濁やや軽い	フナ タモロコ モツコ類
5. 是 政 橋	同 上	3	強汚濁よりは 軽い程度	タモロコ モツコ
6. 多摩水道橋	同 上 農地・人工地	2	軽い強汚濁地点	タモロコ モツコ
7. 二 子 橋	裸地・磯州・農地		強汚濁地点	オイカフ
8. 丸 子 橋	裸地 レクリエーション地		強汚濁地点	フナ類
9. 多摩川大橋			強汚濁地点	フナ類

自然環境として		調査地
自然的に優れていると評価できる地区	上流（拝島橋） 被緑度が高い、山地気候、左岸には被緑度	○
同 上		
比較的良好な状態で自然が残っている地区	中流（拝島橋から多摩水道橋） 様々な特性を持ったゾーン 混在地、川幅は広く、グランドなどの施設散在。中州もあり	
都市化されているが自然が残っている地区		
都市化されているが優れた自然が残っている地区		○
自然の改変が認められる地区	下流（多摩水道橋から河口） 自然環境悪く、被緑度も低い。市街地。利用者はきわめて高い。ゴルフ場のように広い施設も数ヶ所あり、施設数としては各種運動場、次いで緑地。	
自然の改変が極めて顕著な地域		○
同 上		○
同 上		

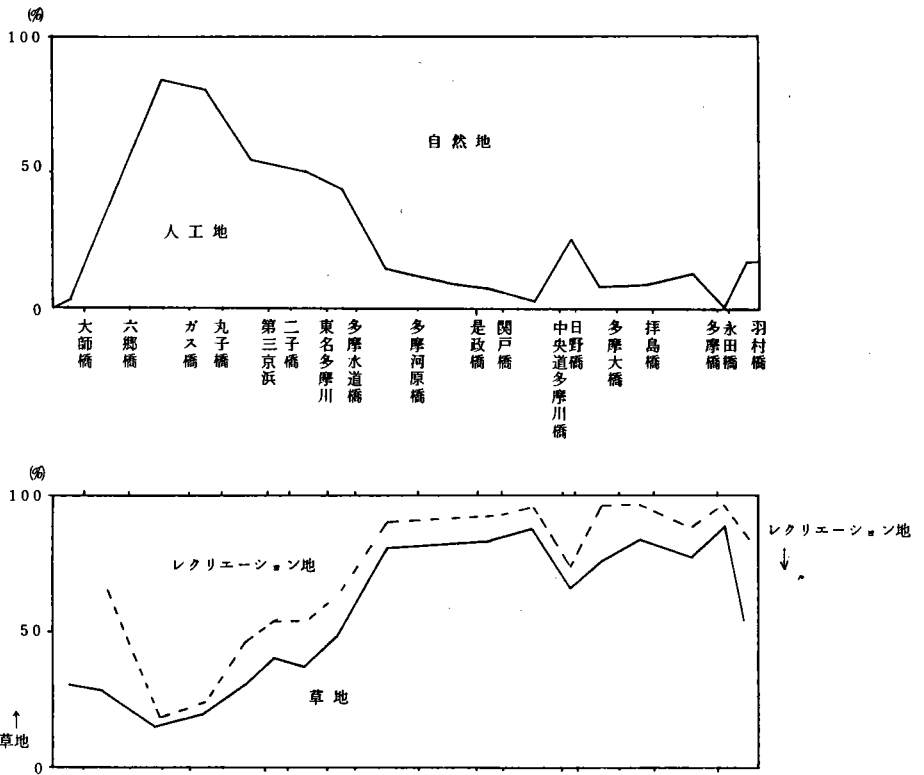


図1-1-2 人工地・自然地の割合

以上の調査、資料により、上流域では緑地化、公園化が行われておらず、住民にとっての水辺として存し続けていると思われる永田橋付近。中流域では、自然と施設が両存し、様々な利用のされ方が見られる是政橋付近。下流域では、家族づれのみとも見うけられる利用者層で、下流域にありながら水と接する場が残されている二子橋、対照的に一つの公園の池であるかのよう多摩川が人工化され、河川敷も完全な緑地化及び公園施設化されており、なおかつ人出のたいへん多い丸子橋の2ヶ所。以上4ヶ所を、主に利用形態と施設度に留意して調査地点とした。

2. 調査の方法

先の視点により選定した4ヶ所で、アンケート調査を、来訪者を無差別にインタビュー形式によって行った。

文献より、休日の人出は四季を通じて平日を上まわり、さらに平日よりも家族連れのみ訪が多くなる事が予想できたため、休日を選び調査を行った。

各調査地点に調査員が2人づつ組となって、それぞれの行動をしている人々にアンケートの協力を申し出て、調査員が1項目づつ尋ねながら記入をしてゆくという方法をとった。調査地点は、各場所の、

2500分の1の地図に書きこんでゆき、さらに周辺一体を入れた地図に自宅から河川敷までのルートを書きこんでもらった。なお、その時間時に、同じ場所で心理的景観測定 (Semantic Differential Method) を行った。

環境の物理量として天空率、被緑率の測定のため、同地点における特徴的・代表的な場所において正射影型魚眼レンズ Fish eye Nikkor 180° OP で撮影を行った。

3. アンケートの構成

目的に沿って、多摩川河川敷の利用に関する項目と居住地、およびその居住地環境と評価、そして散歩や遊び場、旅行についての行動を内容としたアンケートとした。^{☆資料}今回は、その場に訪れている人に直接その場で尋ね、記入する形式を採ったので、短時間で答えられること、量を多くしないことに注意しながら作成した。

多摩川河川敷の利用に関しては、ひん度、目的・滞在時間、来訪手段、かかる時間の他に、河川敷に来る理由を知るために「足をむけるきっかけ」、流域での主な利用場所といつも行く場所で多摩川以外ではどこへ行くか、そして満足度をいごちとして100点満点の採点法を採った。加えて、希望および不満、そして多摩川の一番いいところを印象として尋ねた。

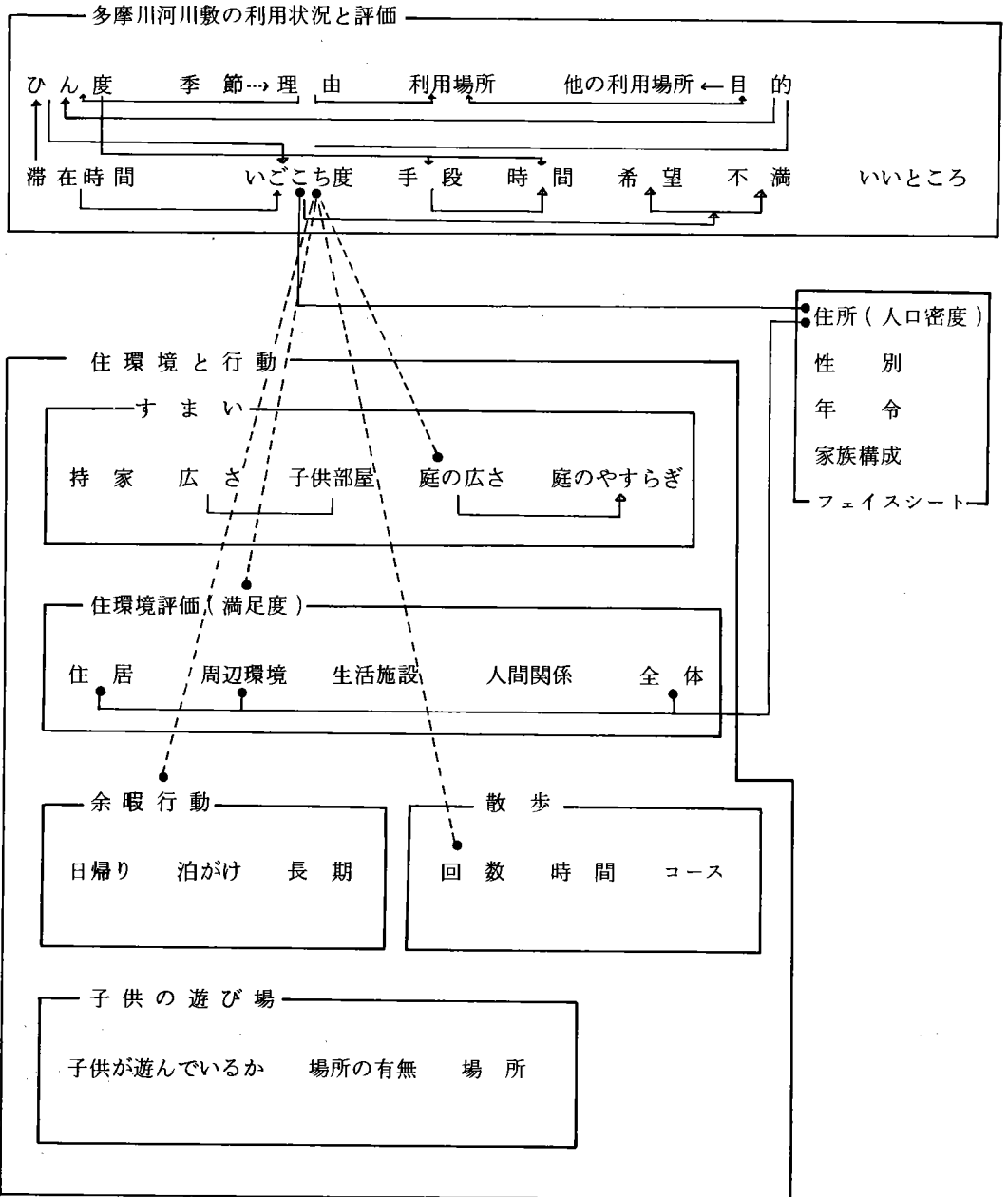
住環境と行動については、

- 1) すまいについて → 住居形態、庭の広さ
- 2) 住環境評価 → 住居満足度、周辺環境満足度、生活関連施設満足度、人間関係の満足度、全体の満足度の5項目で100点満点採点法
- 3) 子供の遊び場について → 場所の有無、遊び場
- 4) 散歩行動 → 回数、時間、コース
- 5) 余暇行動 → 日帰り旅行、泊りがけ旅行

長期滞在旅行各々についてそのひん度

加えてフェイスシートとして、住所、性別、年齢、家族構成を尋ねた。住所を尋ねるのは、拒否される可能性が大きいとは考えられたが、人口密度を都市化の一つの指標として用いて、多摩川河川敷での評価と関係をさぐりたかったため、あえて聞くことにした。

アンケート構成図



4. 調査結果

河川敷に人が集まる休日を実施日とし、天候が人出に作用することも考え、予定日が曇り又は雨天の日は翌週に延期した。調査は、春季と夏季の二回にわたって実施した。

	永田橋	是政橋	二子橋	丸子橋
春	6月1日	5月18日	6月1日	5月24日・25日
夏	8月10日	8月10日	8月10日	

河川敷では、東京側の岸と、神奈川県側の岸の両岸でアンケートをとる予定であったが、期せずして東京側の河川敷にほとんどの人出があったり、川原の東京側がより広がっていたりしたため、90%以上が東京側の川原を訪れていた人がアンケートの対象者となった。

回収状況は以下の通りである。

	永田橋	是政橋	二子橋	丸子橋
春	21人	28人	18人	36人
夏	29人	16人	20人	
計	50人	44人	38人	36人

4-1 多摩川との接し方

表1-4-1が、アンケート単純集計による結果の一覧表である。

資料編の春季、夏季のアンケート時の利用の行動を見ると(資料1-1、2-1、2-8)下流のC二子橋・D丸子橋は、散歩、休憩といった行動に集中し、1ヶ所にとどまっていたり、ぶらぶらと来たといった利用のし方である。A永田橋・B是政橋は、水遊び、釣りが十分に楽しめる場であり、それらの川の状態を全面的に利用しているが、特にB是政橋で見受けられた。

以下、上流(A永田橋)、中流(B是政橋)、下流(C二子橋・D丸子橋)について各々多摩川との接し方を見てゆくことにする。

1) 上流(A永田橋)

来諸者のほとんどが徒歩10分以内と近所から来る人が中心である。この付近は多摩川を中心として水辺が多く、平井川、少し離れて秋川、さらに平井川から支流としての鯉川、水辺とはいえないかもしれないが玉川と水辺には不自由しない居住地である。そのため多摩川の水辺では、他にどんな所に行きますかという質問に永田橋付近だけしか行かないという人は20%前後に止まっており、多摩川以外に出かける場所としても「海や他の川」という項目が1位にあげられている。(資料1-5、1-6、2-6、2-7)

図1-4-1は、調査時の利用者の行動・様子を地図に場所毎に記入したものである。地図の範囲が調査の範囲である。○の大きさは利用者の人数によって大小があるのではなく、その行動の広がりをあらわしている。草地は人が歩くに魅力的な場所とはいえ、全く利用者はいないが、東京側の岸に続く並木道からベンチにすわって川をながめると、緑や山並がたいへん美しい。川幅が狭く、歩ける所も少ないので利用場所はかなりかたよってしまい、集中する場所として小公園があり、

表1-4-1 調査結果のまとめ

	永田橋	是政橋	二子橋	丸子橋
よくきますか。	頻度はばらばら。	週1回のペースでくくる人が多い。	年数回、あるいはほとんどこないという人が大半を占める。	週2〜3回とよくくくる人が多い。
足をむける理由	近いからという理由が多い。	様々な目的行動を満たすためと いうのが60〜70%	春の結果では目的行動のためが多かったが、夏はその他が多くなっている。	半数が目的行動を満たすため。なお、自然があるからは0人である。
多摩川で他にいくところ	永田橋のみはたいへん少なく、上・下流両域や支流へと動いている。	この場所のみの人が過半数、動くとしたら少し上流の方だけ。	二子橋のみの人が大半。動く人は多少下流へ行く。	丸子橋のみは約半数。少し下流域へも動く。
多摩川以外によく出かける場所	海や他の川へいく人が多い。	特にとこということはなく、いろいろな所へ出かけている。	「繁華街へ出かける」が、他の地点に比べて多い。	公園が圧倒的に多く、丸子橋が主な外出先という人も多い。
行動	散歩、水遊び、釣りが主な行動。	釣りが圧倒的に多く、水遊び、野球が主な行動。	散歩・休憩が中心。	主にくつろいで休憩をしている。
滞在時間	2〜3時間〜半日位	2〜3時間〜半日位	半日が多く、〜2・3時間	2〜3時間
多摩川のいごごちの点数	70〜80点	春は70〜80点 夏は80〜90点	春は50点以下が多い 夏は80〜90点	たいへん高い点で80点以上に集まる。
手段	ほとんどが徒歩(春) 夏は自転車もふえてくる。	自転車が過半数で車もいる。	8割方が交通機関を使って訪れている。	自転車と徒歩が半々。
かかる時間	10分以内	11〜30分	20〜30分	10分以内
今後の希望	もっと自然に。 水がきれいになればよい。 水辺が危ないので整備をしてほしいという声も少し聞かれた。 近所からきている。	もっと自然に。 不満なしがけっこう多い。 水が汚れているということと木々がもっとほしい声が多かった。 近所からきている。	もっと自然に。 水がきれいになればいい。 芝の手入れをしてほしい。	整備してほしいが(2〜30%) 不満は少ない。
住んでいるところ				近所からきている。
住居形態	一戸建が7割、借家が2割。	一戸建も多いがマンション、団地等もある。	一戸建は30%くらい、あとは社宅・寮、木質アパート。	一戸建の方が多いが、木質アパート住いもかなり多い。
床面積	狭い家ほど多い。	10坪くらいと30坪〜40坪くらいの家。	広い家と狭い家と2つに分かれて いる。	狭い。

部屋数	3～6室をピーク	3～4室が過半数であとは1～2室が多い。	1～6室が多く、9室以上も20%くらいいる。	1～4室で、部屋数が多い家は少ない。
庭をながめてやすらぎますか。	少し感じる	特別に感じない。 園すごく～少し感じる。	別にかんじない、又は庭がないため NO ANSER	すごく感じるが一番多い、庭がないものも二子橋に次いで多い。
子供ほどんな場所です遊んでいますか。	公園が一番多い、川や水辺、道路、空地、農地、近所。	公園が70%近い、緑地、広場、運動場、雑木林。	公園が70%近い、道路・神社・空地。	公園が70%近い、道路で遊ぶ。
散歩の回数	週1～2回が多い(週単位)。	ほとんどしなないが約半数、する人は毎日。	ほとんどしなないが3～4割、する人は週2～3回。	ほとんどしなないが約半数、する人は週1回が毎日。
" 時間	10分～60分が多い。	10分～30分が多い。	春 10～30分が多く、夏は30～60分が多く、2時間以上も。	30分～2時間と時間がながい。
" コース	緑の多い住宅地や近所、水辺・河原、公園、農地。	公園、農地、神社などがコース。	緑の多い住宅地、公園、繁華街。	水辺、繁華街、公園。
日帰り旅行	年に3回以上は58%	年に3回以上は59%	年に3回以上は66% 回数が多い。	年に3回以上は50%
泊りがけ旅行	年に3回以上は20%	年に3回以上は34%	年に3回以上は29%	年に3回以上は36%
住居の満足度	80～89点が多く、次に50～59点	50点以下が多い、もう一つのピークは80～89点	ものすごくいい人は100点、悪い人は60点台とばらつく。	80点台が多い。
周辺環境の満足度	春 70～89点が多い。	0～49点に半数が集中。	春 平均的	点の悪い方が多く、だんだん点が高くなる人と人がへってゆく。
生活関連全般の満足度	夏 50～59をピークにだんだん減。平均的。50～90点まで。	50点以下と80点以上の2つにわかれる。	夏 80～89点に集中	悪い点はほとんどなく、80～89点に集中している。
人間関係の満足度	春は80～89に小さく集中がみられた。夏は50～59点	平均にちらばっているが、多少80点代が多い。	80～100点に多い。	80～89点がピーク。
全体の満足度	70～89点が多い。	春 70～100点と多いが、夏は50～59点が多く、あとは少ない。	点の高い所にピークがある。	70～100点まで多い。
多摩川の一歩いところ	緑や自然、空気や安心感。	緑や生物、自由さ。	80～89点に集まる。	自由さや自然。 整備されていることという答えがここでだけ少数ではあるが聞かれた。

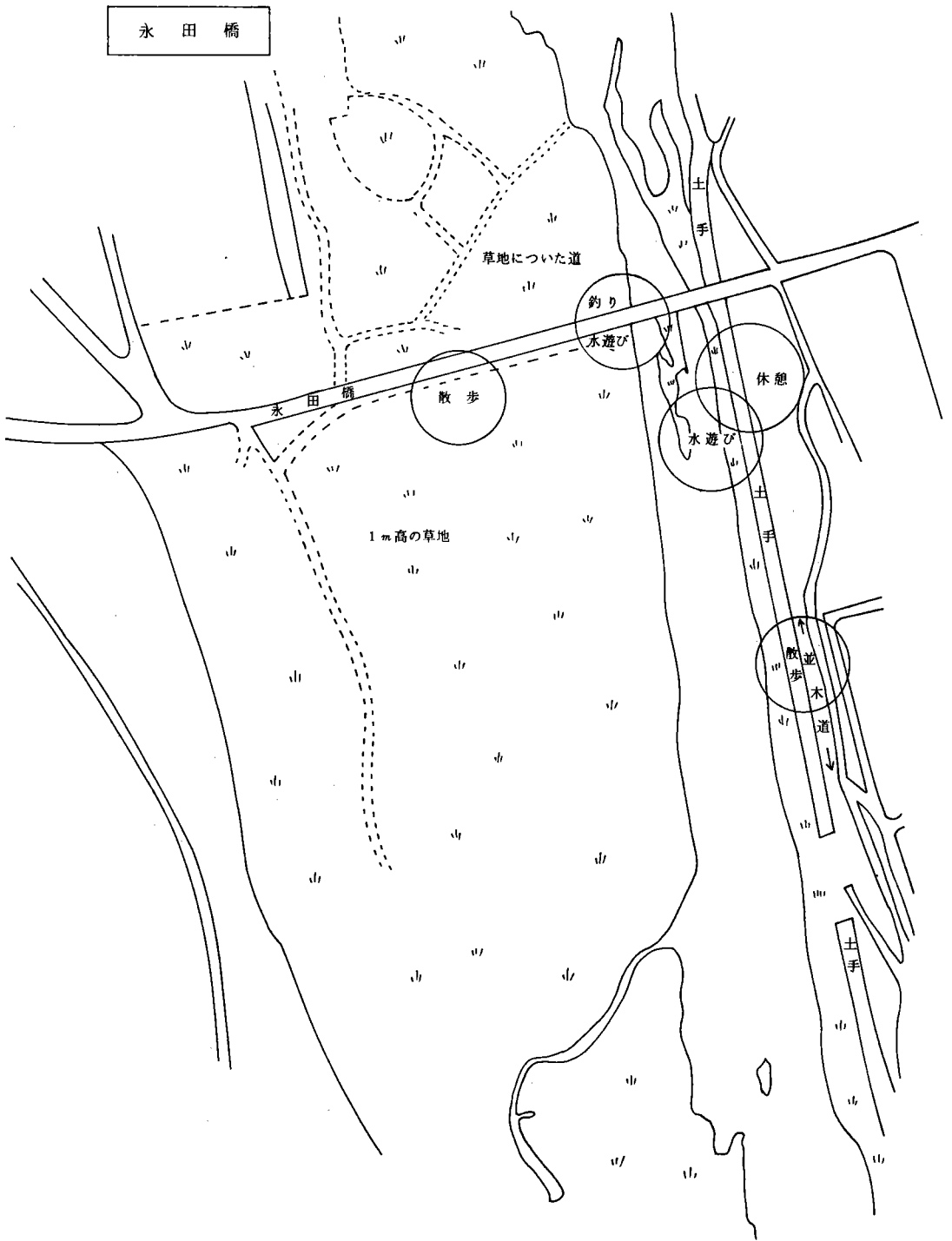


図1-4-1

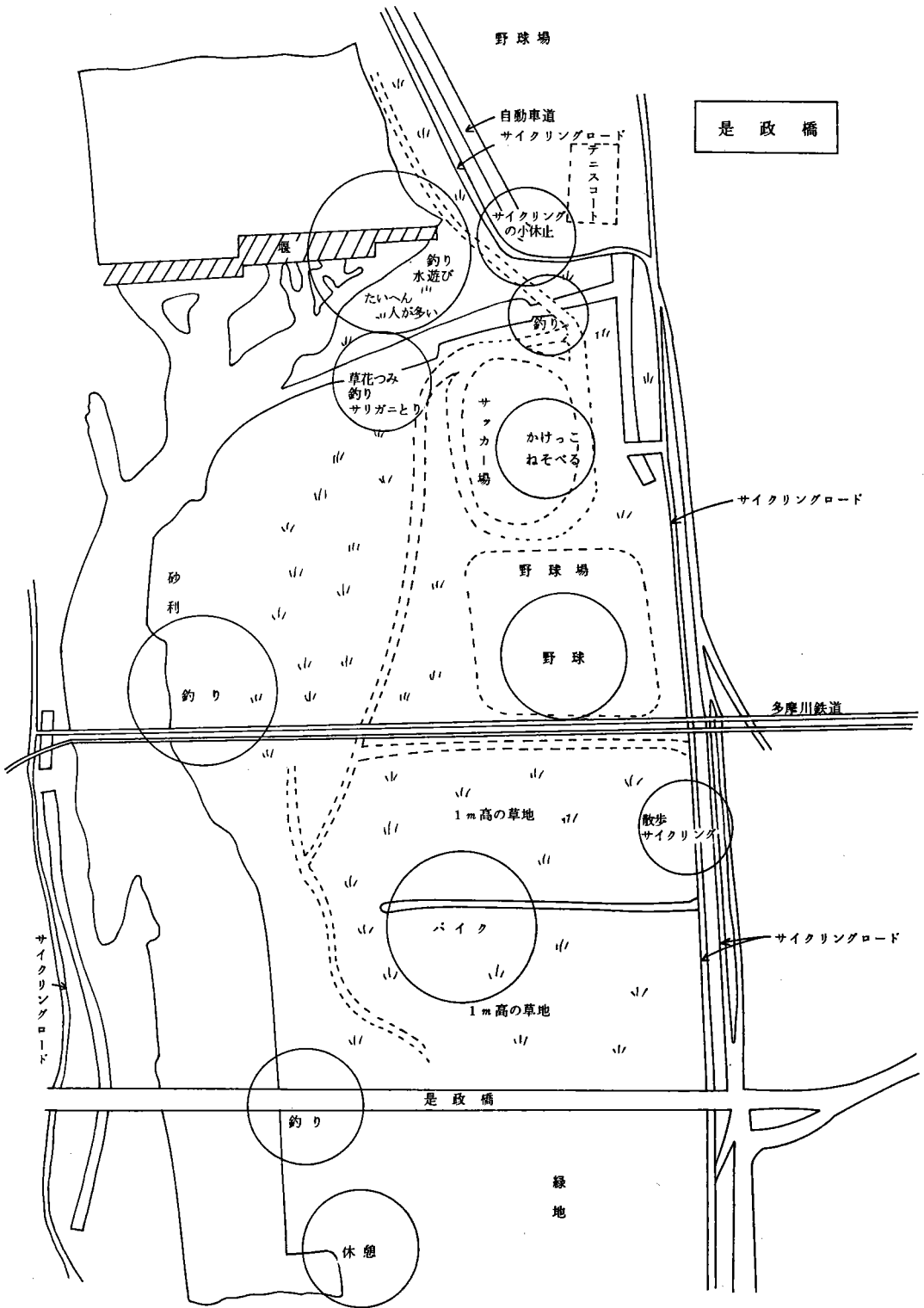


図 1-4-2

子供を遊ばせておくには最適な所である。

評価の方は決して良いとはいえず(資料1-8、2-10)、又、不満で水がきたない、ゴミが多い(資料1-12、2-13)といったことがあげられている。

2) 中流 (B是政橋)

図1-4-2が調査実施範囲である。図で見ても明らかな通り、かなり広範囲にわたって、様々な利用が行われており、施設・草地共に有効に使われている。堰を設けてある場所ではかなり人の集中が見られ、親水性の行動が中心である。

ここは、ザリガニやカメなど生物も豊富で、水面も広く堰もあるため、カモやカモメ類を中心とする水鳥も多く見られ、探鳥を目的とする人も訪れる。多摩川のいいところとして、「生物」があげられたのはこのため、特徴的である。(資料1-30、2-38)

この中流域は、多摩川以外に出かける場合は特にどこが多いということはなく、いろんな所へ動いていることに留意しておきたい(資料1-6、2-7)。子供達の遊び場もA永田橋とあわせて多く、それぞれの場への行動量はさして多くはないが、行く場所があることを示しているといえよう。これから、他にも行く所が身近にある程度残っていることが推測される。

3) 下流 (C二子橋・D丸子橋)

この2地点は同じ下流域でありながら、様々な点で異った特徴を示している。

まず、来訪ひん度であるが、二子橋は年数回あるいはほとんどこないという人が多いのに対し、丸子橋は週2~3回とよくくる人が多い(資料1-2、2-3)。手段を見てみると、二子橋は9割強が交通機関を使って訪れており(春季にいたっては徒歩でくる人は1人もいない)、丸子橋は自転車と徒歩が半々という結果である(資料1-9、2-11)。多摩川でのいごちは、二子橋は50点以下が多く、対して丸子橋はほぼ9割が80点以上というようにたいへん高い評価に集中している(資料1-8)。

二子橋は、交通機関を使って20~30分かかる所から人が集っているとはいっても、ひん度が低いことや、評価も低い所に多くかたよっていることから推測すると、多摩川に訪れているというよりも二子玉川園前のデパート又は玉川園等へ訪れた人がついでにということが考えられる。これは、多摩川以外に出かける場所はこの質問に、公園と繁華街(この繁華街は他の場所に比べ、二子橋がかなり多くなっている)と答える人が多かったこともこれを裏づける一つといえよう(資料1-6、2-7)。しかし、夏はさすがに水が恋しい季節であるため、水と接することも可能なようになっていく河川敷のため(川州がある)、夏季時の多摩川でのいごち評価は80~85点と高く出てきている(が、ひん度は決して高くない)。二子橋の利用者の利用行動図(図1-4-3)を見ると、水辺の視界が一番ひらけている場所にはほとんど人が集まっていない。川幅が広く、川州の緑が美しいことが救いとはなっているようだが(川州の緑を護岸にすわってながめる少が多く見受けられた)、本流の川は魅力的ではなく、ゆっくりとくつろげる場ともなっていないと

二子橋

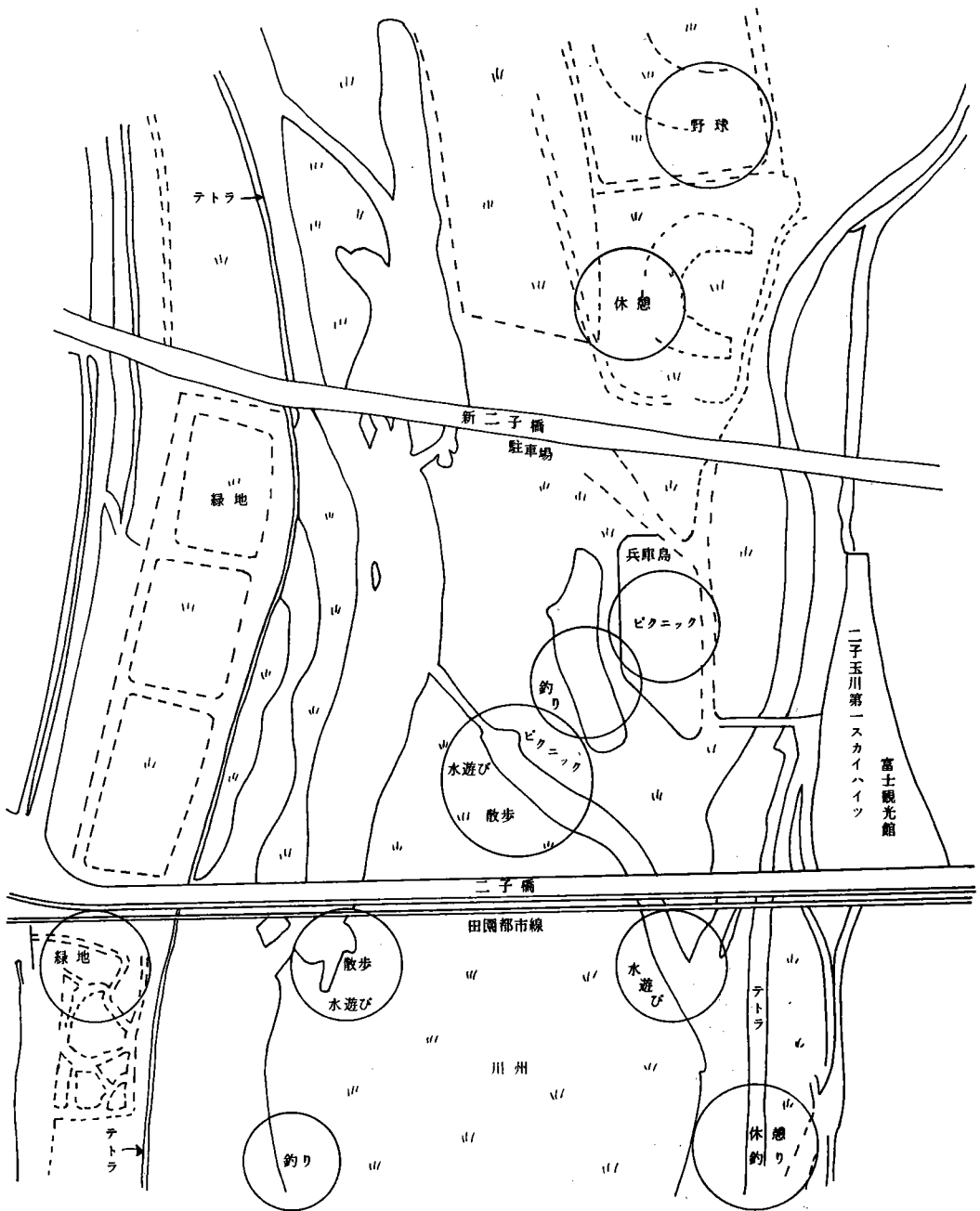


図 1-4-3

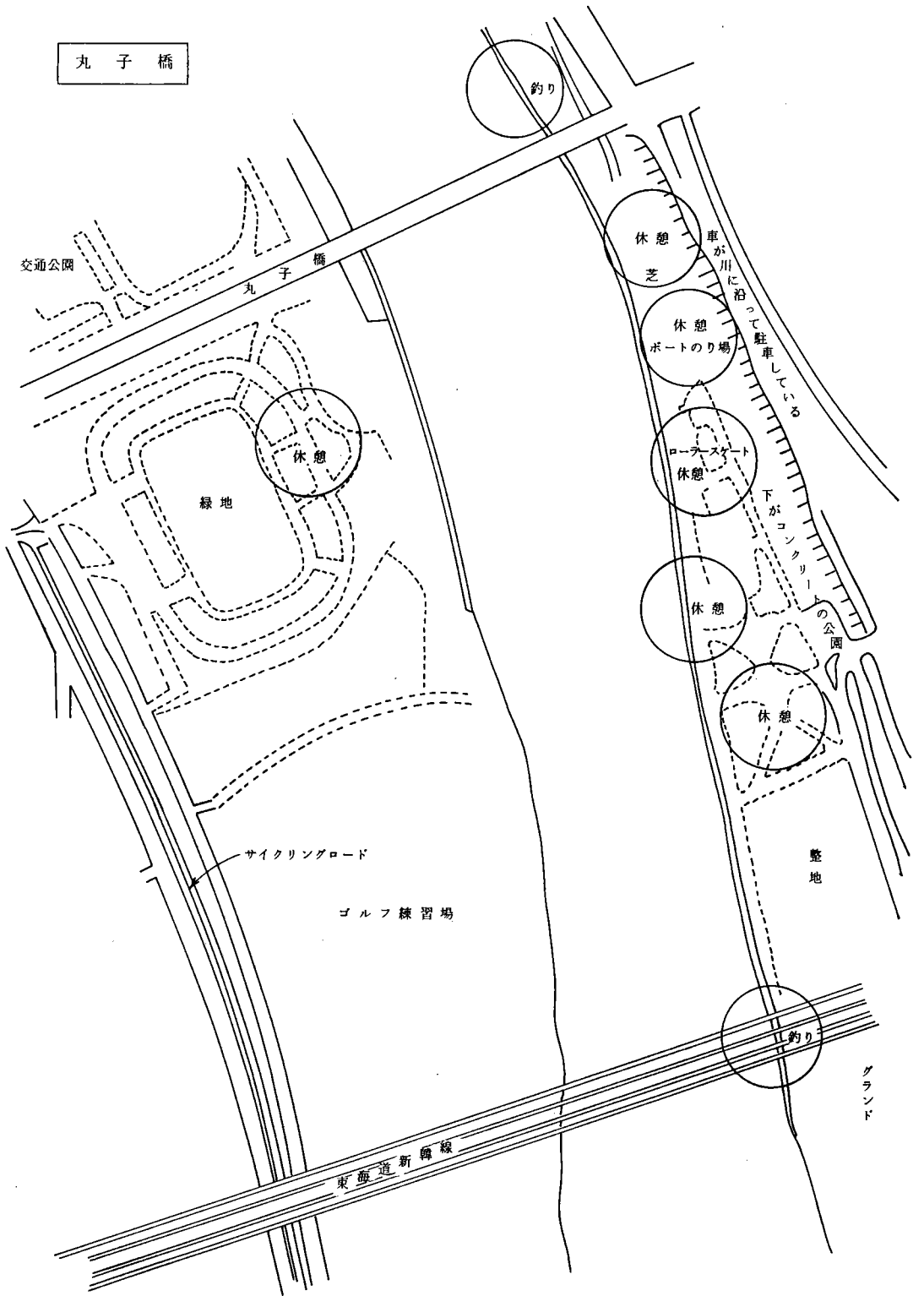


図 1-4-4

いえよう。二子橋は人々が集まり憩う場となるには問題があるといわねばならない。

丸子橋は、10分位の所に住んでいる人達が(資料1-10)徒歩や自転車で訪れ、ひん度も高く、評価も他の流域に比べ高いことから、この河川敷は人々に大いに活用されていると見ることができよう。ここは利用行動図1-4-4を見ても明らかなように完全に人工化されており、川にボートが出ているとまるで遊園地の池のようにすら感じさせる場である。人々は東京岸の公園に集中しており、肩がふれそうなほどしか間隔を置かずすわっている。

子供の遊び場は公園と道路に(資料1-18)、多摩以外に出かける場所は公園と多摩川に(資料1-6)と集中している。これから、丸子橋付近は広場等が少ないために空間を求めて多摩川河川敷に訪れていると推測することができよう。

多摩川の評価が高いとあって、現状が人々に最良の形でやすらぎの場を与えているかどうかは知ることにはできないが、丸子橋での不満は少なく(資料1-12)、このように広く、青々とした、人々が集える場となっている多摩川は、この付近に居住する人々にとって重要な位置を占めているといえよう。

4-2 多摩川へ訪れる人の居住地と多摩川への評価

各流域各々単純集計からよみとれる結果は4-1で述べた通りだが、都市化と多摩川の利用のされ方との関係を人口密度を都市化が進んだことの一つの指標として用いて探ってみることにする。加えて住環境に関する評価(すまいについての満足度や周辺環境に関する満足度)と多摩川での評価との関係も、多摩川のあり方に何らかの関係がないか、住環境と多摩川という軸に沿って探ってみた。

図1-4-5、図1-4-6は、春・夏をあわせてその河川敷に訪れた人々を1キロメッシュの発地別におとしてみたものと、その人口密度を示したものである。これを見ると二子橋が、特徴的な性格を持っていることが読みとれる。つまり近くの人々はほとんど訪れておらず、遠くから、しかもあらゆる所から二子橋に訪れているのである。これにはどのような理由があるのであろうか。他の永田橋、是政橋、丸子橋にみられるように近くにあるから多摩川へ行くというのはしごく当然と思われるが、住環境と何らかの関係がないかを、可能な範囲で4ヶ所それぞれをみてゆくことにする。

まず、多摩川のいごちについての評価と発地別の人口密度との関係を調べて見た(図1-4-7~10)。丸子橋は下流域にあたり、近くの人が訪れているということからも予想されたことではあるが、人口密度はすべて1万人を越える所に住む人々が訪れており、その評価はたいへん高い所に集中する。永田橋、是政橋では、人口密度との関係を見ることは出来ないが、二子橋では、人口密度が高いほど、多摩川での評価点が高くなるという傾向が見られる。

すまいに関する評価と多摩川でのいごちの評価の関係を、今度は個人得点別に見てみる(図1-4-11)。ここでは、永田橋、是政橋、二子橋ですまいの評価が高くなるほど、多摩川の評価が高くなる傾向を見せている。丸子橋は、すまいの評価にほとんど関係なく多摩川での評価が高くなっていく。

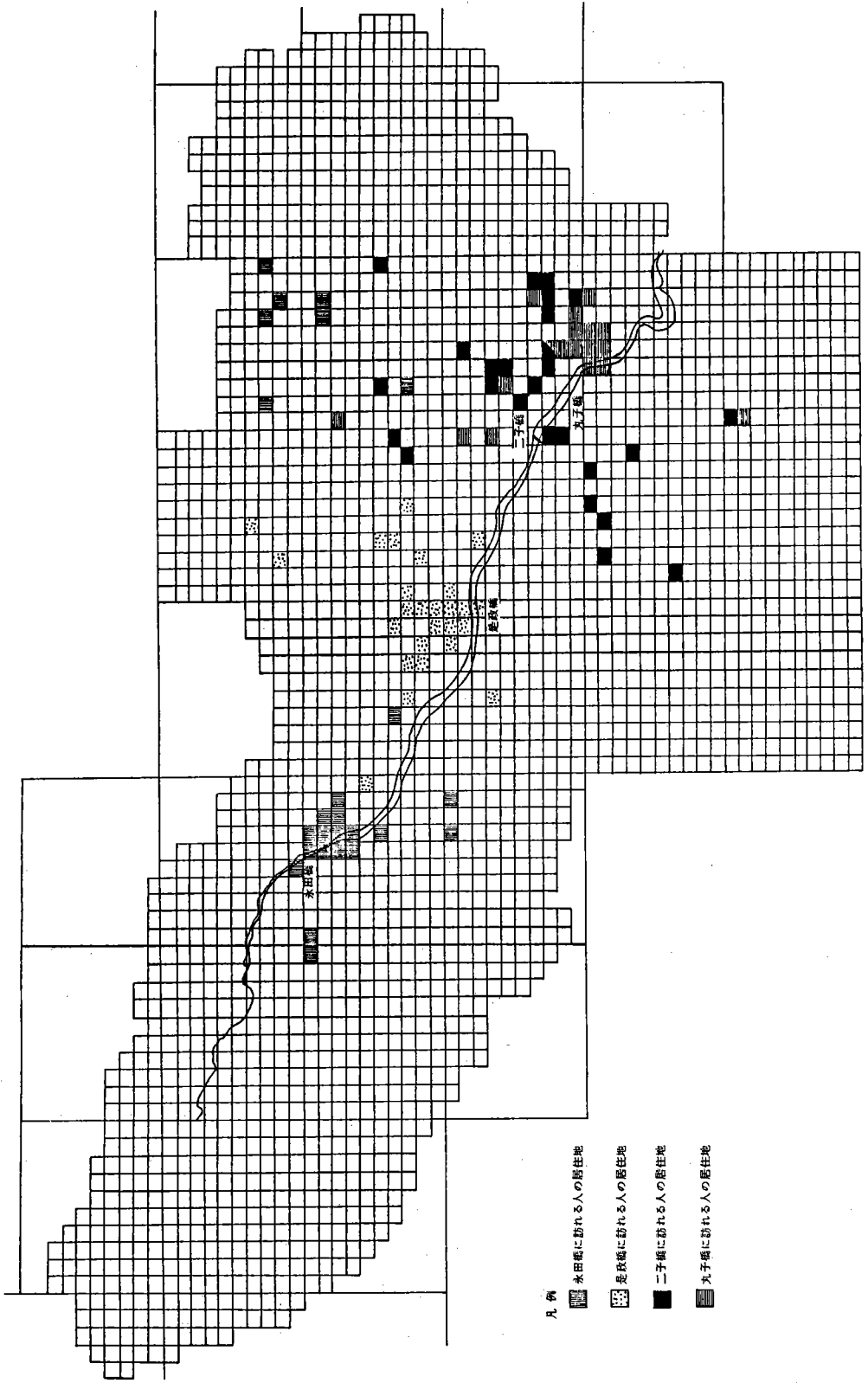


図1-4-5 発地場所一覧表

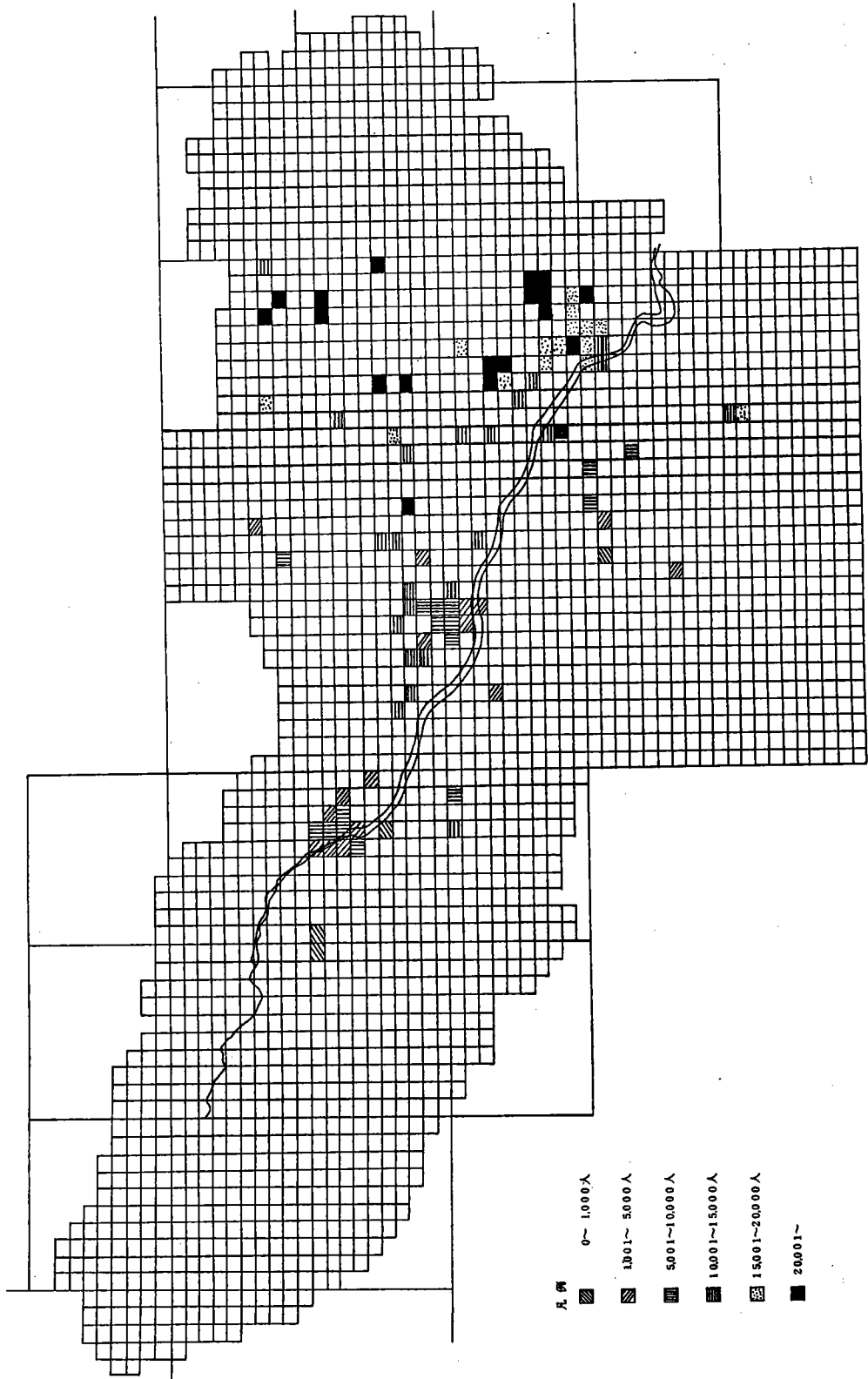


图1-4-6 尧地别人口密度一览

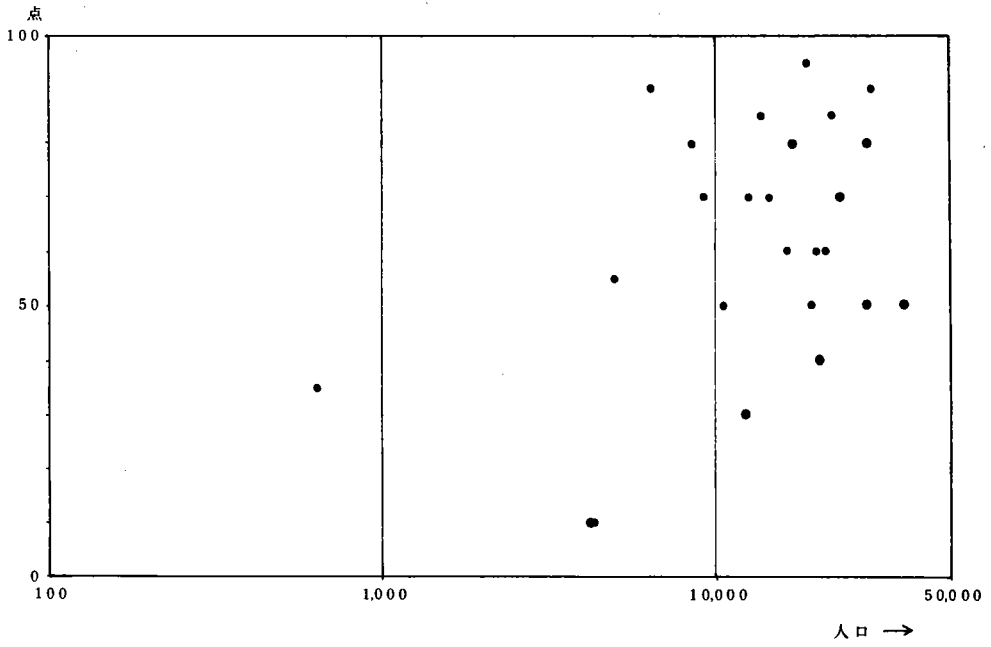


図1-4-9 多摩川のいごこち(二子橋・発地別)

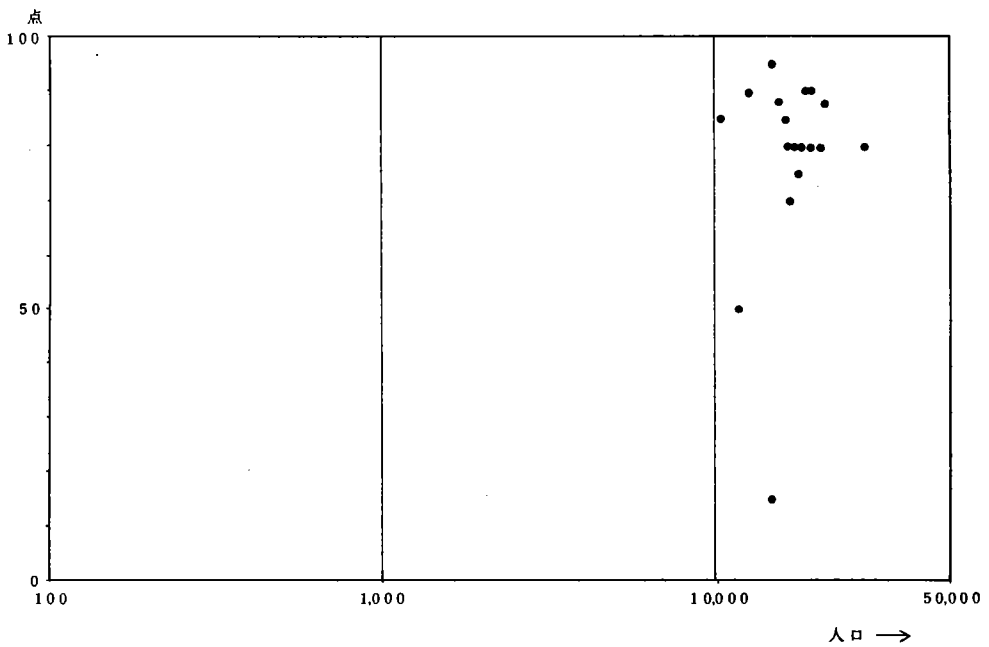


図1-4-10 多摩川のいごこち(丸子橋・発地別)

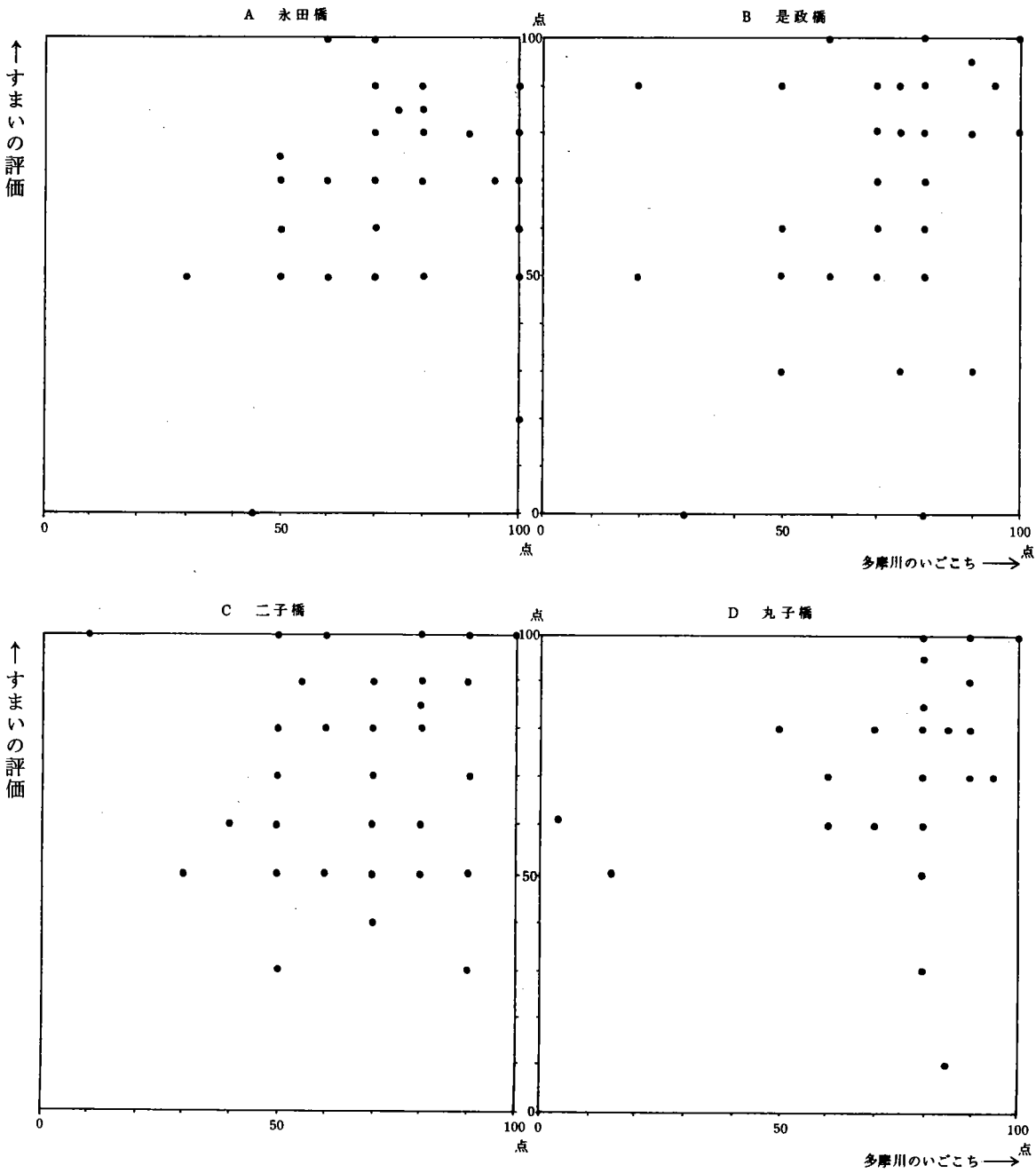


図1-4-11 すまいの評価×多摩川のいごち(個人得点別)

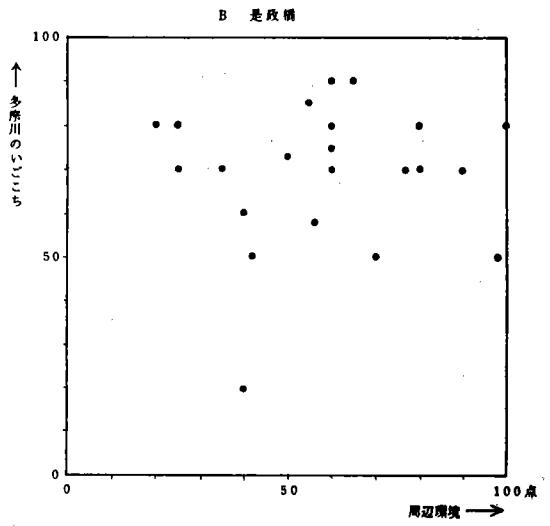
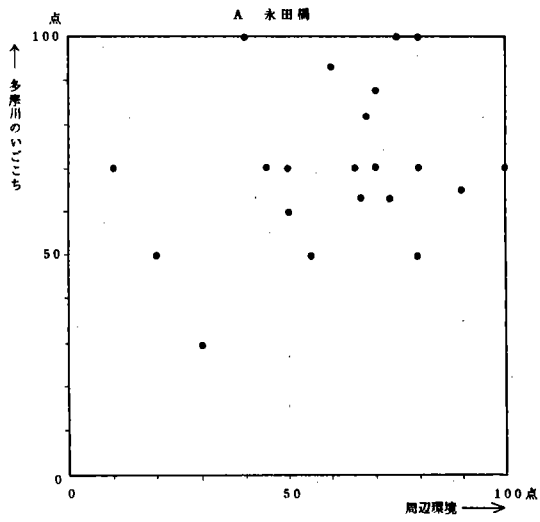


図 1-4-12 多摩川のいごごち×周辺環境 (発地別)

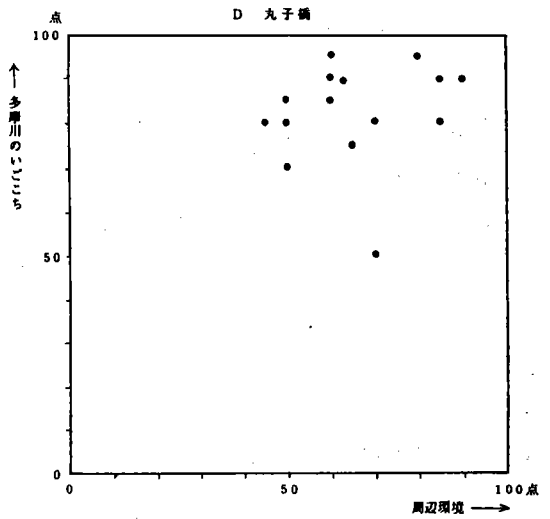
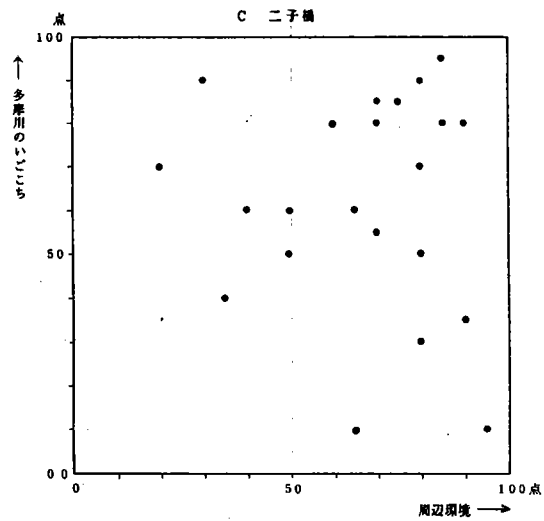


図 1-4-13 多摩川のいごごち×周辺環境 (発地別)

周辺環境に関する評価と多摩川でのいごこちの評価の発地別に見ると(図1-4-12、13)、永田橋、丸子橋において、周辺環境の評価が高くなると、多摩川への評価が高くなるという傾向が見られる。

今回は互いの相関関係の検定を最初は計画していたのであるが、検定を通るほど強い関係が見られたものが少なかったため、上記のような傾向が見られるという段階で止めた。というのは、インタビュー形式で行ったもので、多くの人が集まる河川敷でのアンケートから居住環境を探ることには、人数のばらつきにかたよがりがありすぎ、しかも各発地別にしてしまうと各々の人数がたいへんに少なくなり、検定を行う意味がなくなったのである。

ここでは、人口密度、すまいの評価、周辺環境に関する評価それぞれが、多摩川での評価に関係があることが探れたことで十分といえよう。というのも、多摩川へ訪れること、憩うことにその人々の住環境が様々な形で関係しているという予測はここから立てられることになるからである。

さて、人口密度が高くなると多摩川での評価が高くなるのは、都市化の圧力が強くなるほど多摩川の重要性が出てくることを示唆しているといえるのであるが、すまい又は周辺環境の評価が高くなるほど多摩川の評価が高くなるというのは、何を意味しているのであろう。このことについては第二章の居住地からのアンケート調査結果から検討することにする。

4-3 多摩川への希望

多摩川についての不満、希望、多摩川の一番いいところについて聞いて見た(資料1-11、12、30、2-13、38)。水が汚れているのをなんとかしてほしいという声がどの地区でも一番多くあげられている。多摩川の一番いいところとして、上流では緑や自然・安心感があげられ、多摩川が水こそ汚れてはいるが、自然な形で残っていることが十分受け入れられていると考えられる。中流では、緑や生物、自由さがあげられており、様々な生物の生息が魅力の一つとなっているといえよう。下流では、二子・丸子両地点において空間の自由さと自然であるということがあげられている。丸子橋はたいへん人工的につくられた場であるが、上記の他に整備されているということあげた人が少数ながらいる。希望についても、もっと施設がほしい、もっと整備してほしいといった声が多くあがってきている。ここまで人工的になってしまうともっと自然な形を望むよりも、もっと整備してほしいと望むように出てくるのであろう。

5. 調査実施場所での多摩川の景観

アンケート調査と同時に、視覚による心理学的的方法による景観評価(Semantic Differential法)を行った。これは物質の概念等ありとあらゆるものが形容詞の意味空間としてとらえられると考え、いろいろな概念を形容詞の多還元的意味空間に点としてプロットすることにより、それらの概念の意味の異同の比較を試みた方法である。

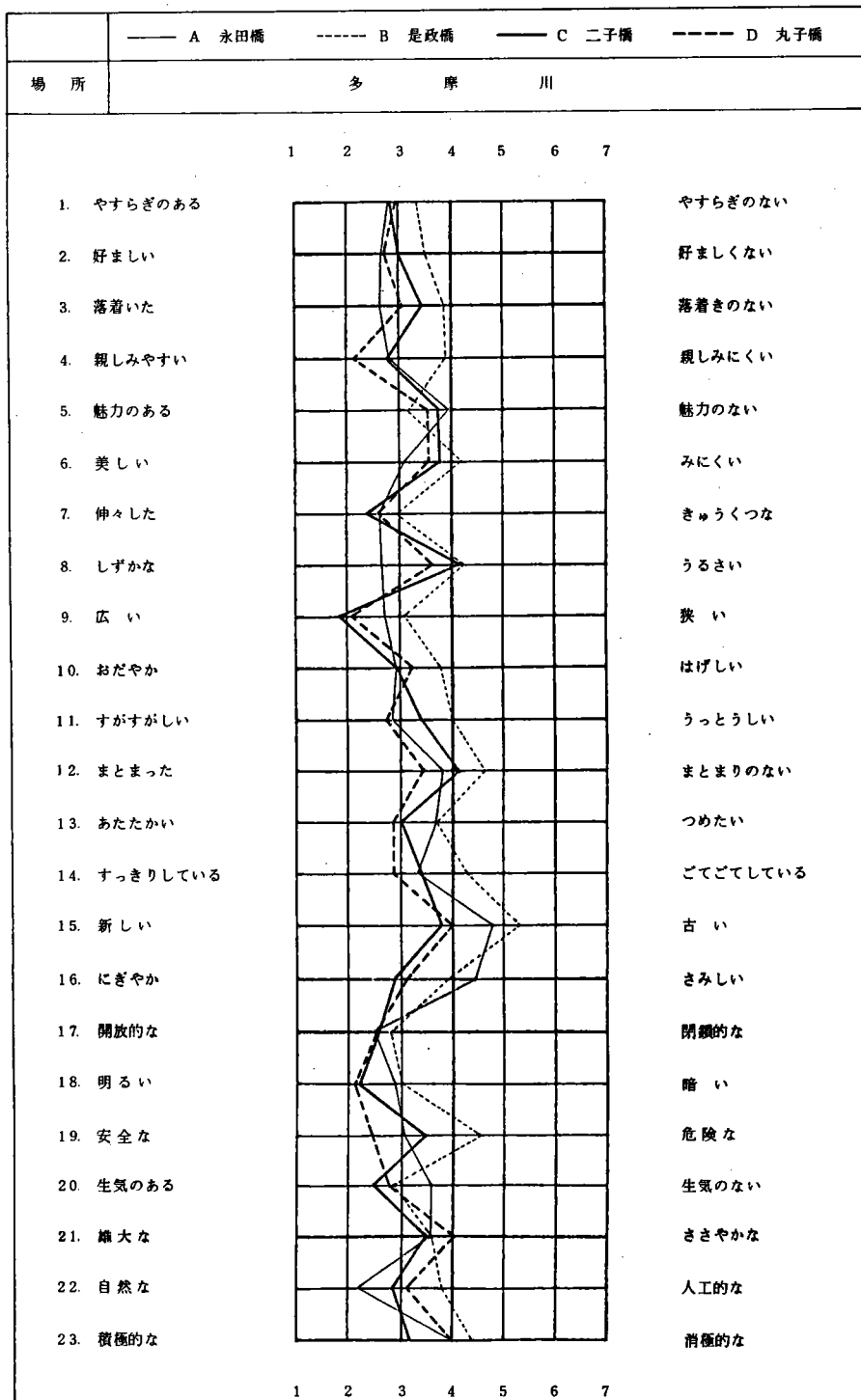


図 1-5-1

物理量の測定として、魚眼レンズにより、その地点での特徴的な場所で撮影し、天空率、被緑率をはかった。

5-1 SD法

図1-5-1は、両極性の形容詞23対で行った結果を表わしたものである。一見してこの4地点で特異な場所はないということがいえるだろう。23対各々について注目してよく見ると、それぞれの場の特徴が出てきているのがわかる。

上流永田橋では、「落ち着いた」「美しい」「しずかな」「自然な」などといった形容詞において左寄りになっており、「古い」「さみしい」「生気のない」といった項目において右寄りになっている。この場は、人々が落ちついた雰囲気を感じるといえる。

下流域の2地点は似ており、広さ、明かるさ、伸々としたということを中心として視環境による評価は概して良い。特に丸子橋は、親しみやすさ、安全等での評価がよい。ここでも二子橋の丸子橋に比べての半端な作られ方があらわれているといえよう。下流域は、その広い空間というものが、様々な良い評価を感じさせる一大要因となっていると見ることができよう。

5-2 景観の測定

これは各調査流域の人々が集まる最も代表的な場所で、正射影型魚眼レンズを用いて、水平面、鉛直4面で撮影を行った。写真からプランメーターを使って、天空率、被緑率の測定を行った。

	水 平	鉛直4面	(右まわり)		→
1. 上 流 永田橋	12.3(%)	18.7	24.6	16.5	8.1
2. 中 流 是政橋 人工的な場	10.0	41.5	48.3	46.0	48.9
3. " " 自然な場	10.0	49.0	49.1	49.4	37.2
4. 下 流 二子橋	10.0	42.8	46.4	46.4	47.1
5. " 丸子橋	10.0	46.9	47.4	39.4	45.6

注 鉛直面は50%が最大である。

被 緑 率

	水 平	鉛直4面	(右まわり)		→
1. 上 流 永田橋	87.7(%)	62.1	71.0	63.1	33.9
2. 中 流 是政橋 人工的な場	0	9.1	2.0	4.3	1.7
3. " " 自然な場	0	47.2	23.1	49.8	47.9
4. 下 流 二子橋	0	31.5	21.3	13.2	12.0
5. " 丸子橋	0	8.7	14.2	11.0	18.1

この結果から、上流はかなり緑が豊富であり、空と水の青、木々の緑にとりかこまれた場といえる。中流は、2ヶ所の相違が明らかであり、メリハリのある場となっているといえる。

下流の2ヶ所の違いも明らかである。というのは、二子橋はある程度自然が残っており、丸子橋はあまり緑がない。しかし、両地点共に天空率には恵まれており、これが自由さ、空間の広さを感じさせる要因となっているといえる。

6. 河川敷アンケート調査のまとめ

1～5で述べてきたように、多摩川のあり方と、都市化又は居住地の周辺環境とは関係があるといえよう。それをいくつかまとめてその関係の傾向をみてみようと思う。

◦まだ都市化もひどくは進んでおらず、多摩川にも自然が多く残されている上～中流域では、人口密度と多摩川での評価に関係はみられなかったが、過密化している下流域では、人口密度が高くなればなるほど、評価はあがるという傾向がみられた。

◦下流域では、多摩川は水辺というよりも、その空間の広さが、自由さ・安全感を与える場として重要とされている。

◦上～中流は、自然と触れあえることを水遊びや、生物等で楽しんではいるが、特別評価が高くなるということもなく、日常の中でとらえられている。

◦多摩川下流の丸子橋を訪れる人は、たいへん過密な所からの人が多く、評価も高い所に集中している。そして、さらに人工的にしてほしいという声も聞かれた。

都市化ということに注目して多摩川とのかかわりを見ると主に上記の内容にまとめられる。

つまり、ここでは居住地の環境状態は推定の域を出てはいないが、多摩川との触れあいや、訪れる人人の居住地人口密度からも、都市が過密になってゆくに連れ、多摩川は人々が必要とする場となると考えられる。下流域においては特に多摩川の広い空間に対する評価が高く、人々は身近には不足している広げた視界を求め、多摩川を利用している。上～中流域では、まだ自然が残っており、生物や緑、水と接する場として利用されている。

今後、各々の流域地点がどのようにあるべきかを検討するには、今回の調査ではデータ不足である。又、多摩川はどのような行動の場としてとらえられているかを他の行動範囲、行動量を知ることで検討する必要もある。加えて、都市化が進んでゆくと、人々はどのような行動をとるようになり、その中で多摩川河川敷はどれほどの重要性を持ってくるのであろうか。

それを、第二章での発地別居住地における詳しいアンケート調査から検討してみることにする。

第2章 発地別アンケート調査

1. 追跡調査の目的

先に行った河川敷来訪者へのアンケート調査によって、多摩川の評価は住環境と関連のあること、上流から下流まで、その河川敷の自然らしさ、人工的施設の配置のあり方などによって利用形態、接し方が異なっていること、多摩川は身近な公園等と変わらない認識下で利用されていること等の傾向がみられた。

今回の追跡調査は、逆に居住地の側から周辺環境に対する評価や日常行動、その背景—これについては、個人的空間率、社会的空間率、社会的施設率、外的施設率の4つに1キロメッシュの空間区分を行

- 凡例 ● 個人的空間率
○ 社会的空間率
× 社会的施設率
△ 外的施設率

式 ——— 個人的空間率 $Y=8.470 \ln X - 4.4821$ $Y=0.767$ 有意性 0.000

----- 社会的空間率 $Y=-21.329 \ln X + 223.012$ $Y=-0.928$ 有意性 0.000

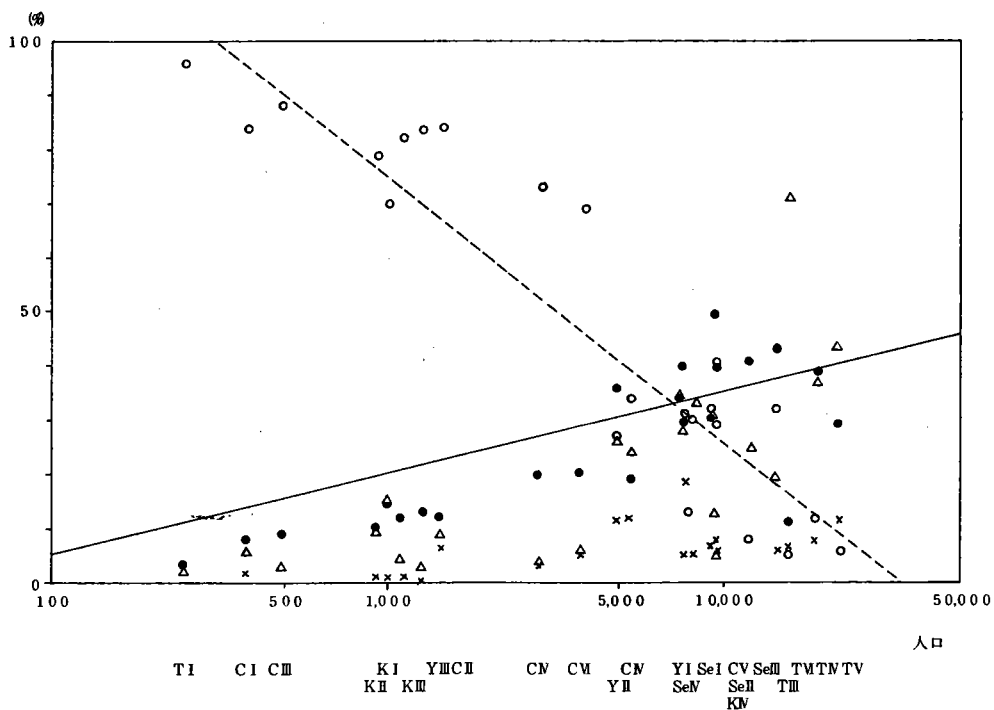


図2-1-1 4つの空間区分と人口密度

う（立花直美先生の既往発表建築学会9月「Human Biologilol Space System の構造と動態に関する研究」による）。これらの空間率が都市化の度合と大きく関係していることは、立花先生の研究より明らかである。（図2-1-1）——を詳しく検討することによって、多摩川およびその河川敷のあり方をより明確とすることを目的としている。

2. 調査地点の選定

第一章の4で乗せた発地別一覧図より、1キロメッシュ内の各地点への来訪者の多い地点を1ヶ所ずつ選び、調査実施地区とした。できるだけ、人口密度の近い場所を選び、4ヶ所の比較を行いたかったのであるが、上流から下流まで人口密度には大きなひらきがあり、無理に選ぶとすると、多摩川の近くの人が訪れるという結論を無視した調査地点の選定となってしまうため、人口密度のひらきは仕方のないこととして、以下の4地点を、調査実施地点とした。

名 称	標準1キロメッシュコードナンバー	人口密度（50年度）
A 上 流—永田橋	拝 島 8 6	8,202人
B 中 流—是政橋	武蔵府中 8 9	4,466人
C 下 流—二子橋	東京西南部 2 4	18,800人
D 下 流—丸子橋	東京西南部 0 4	21,042人

3. 調査の方法

2で選定した4ヶ所にアンケート調査を行う。対象となる家は、あらかじめ用意した該当地の地図に格子の網をかけ、ちょうど中ほどに位置する所、又はその周辺に住む人にアンケートの協力を依頼した。

調査員がアンケート表を配布したあと、2～3日の留め置きで郵便回収を行った。予定日までに手元に届かない場合は、調査員が改めて受け取りに行くことにした。さらに、アンケートと同時に心理的景観測定（SD法）を対象者と調査員が、その家の前をぐるりと見渡した時の印象をその場で行った。

4. アンケートの構成

対象地区の周辺環境に対する詳しい評価、身近な行動をさぐることを軸として以下の内容のアンケートとした。

1) 周辺環境に対する評価——先の空間区分の内、個人的空間および社会的空間項目に対する評価項目を中心に34項目にわけ、現在のままでよいか、なんとかしてほしいかについて尋ねた。

- 2) 身近な行動圏及び行動量——身近にある広場や公園それぞれについて、ひん度や手段、やすらぎ感という項目に記入。
- 3) 多摩川について——目的・回数の変化等。
- 4) 子供の遊び場——行動圏を知る。
- 5) 諸施設、空間に対する希求度——21のそれぞれの項目について、手段・時間の希望、さらに現在希望する所にあるか否か。
- 6) フェイスシート——性別、年齢、就業形態、家族構成。

なお、身近な行動圏および行動率を把握するために、アンケート対象者に加えて子供のいる人には、各々の広場や公園等に本人と子供の場合を記入してもらった。身近な施設・空間等の利用は、概して子供の方が多く広がっているのであろうと思われたためである。

5. 調査結果

56年1月中旬から2月にかけて、アンケート配布・回収を行った。回収状況は以下の通りである。

	A 永田橋	B 是政橋	C 二子橋	D 丸子橋
人 数	24人	25人	22人	29人
無 効 票	0	0	2	0

なお、今回は子供のいる人には子供の日常行動範囲についても尋ねているので、子どもの人数の一覧表をここにあげておく。

	A 永田橋	B 是政橋	C 二子橋	D 丸子橋
子 供 数	17人	16人	15人	20人

5-1 行動圏

—資料3-2~40—

資料3-2~4を見ると、A永田橋の地区は身近に様々な場所が豊富にあるのがわかるが、そこへ行くかという問題になるとすべての場所について2~30%くらい減ってしまう。B是政橋の地区は、そのような場所がありますかという質問の「はい」の人は、多摩川から公園までそれぞれについて、30~40パーセントくらいしかいないが、実際に利用しているかとなるとほぼ全部の場所をフルに活用していることがわかる。それは子供についても同様である。C二子橋の地区は、場所がありますかという質問にみられる多摩川、広場、神社、公園という場所へ、利用率となると一層のかたまった動きが見られる。ただ、緑の小径や雑木林への行動はあまり減らない。これは呑川をつぶして遊歩道として木々を配置した所をさしている。子供の行動は大人のものと大分かわり、空地へ行く率が大幅

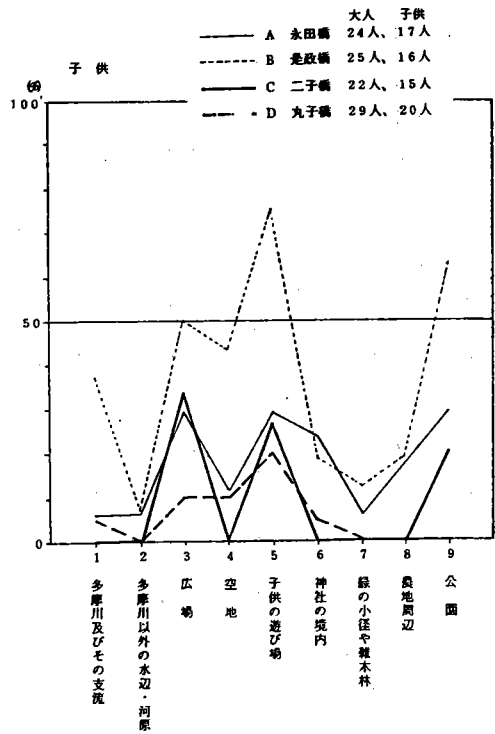
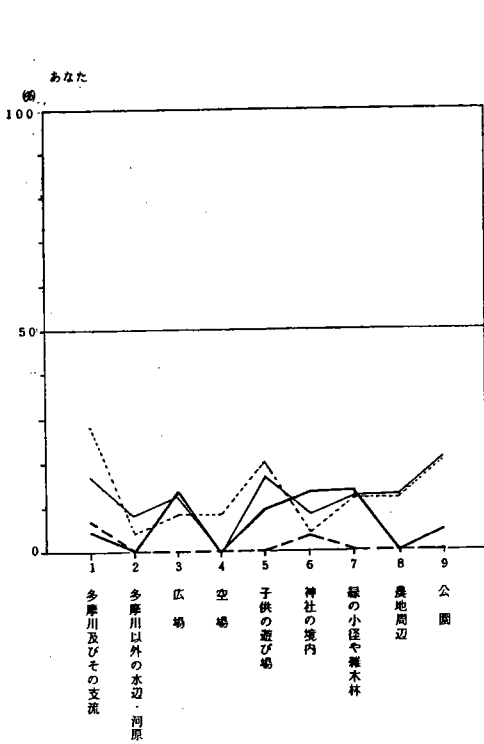


図 2-5-1 身近な広場や公園へ出かけるひん度(週1回以上)

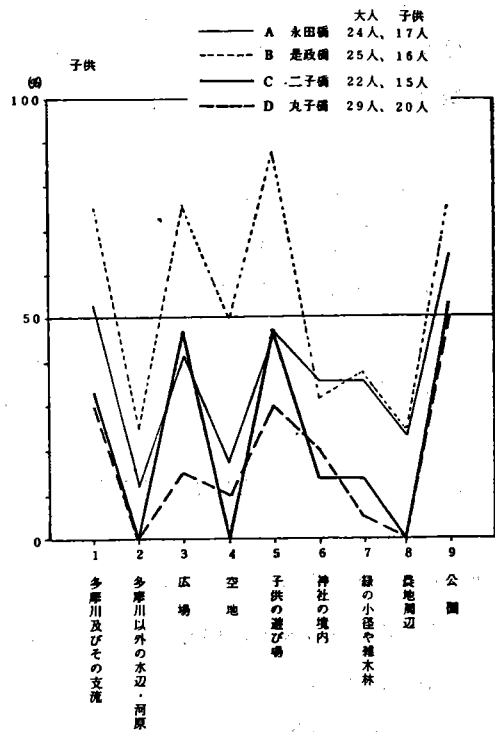
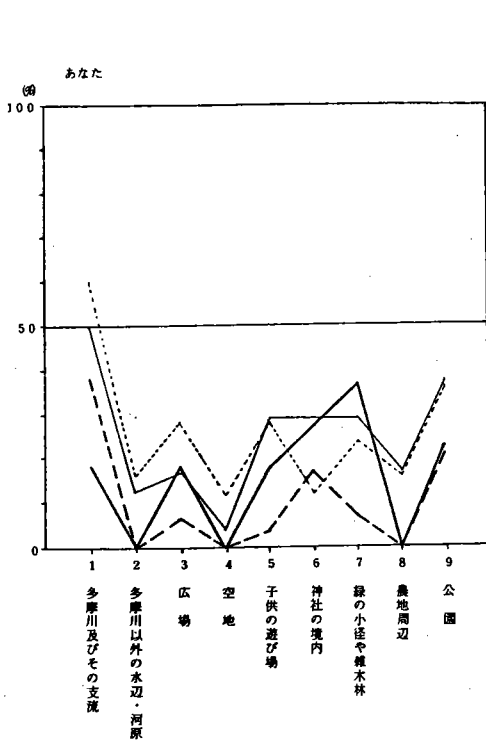


図 2-5-2 身近な広場や公園へ出かけるひん度(月1回以上)

にふえ、それに対して神社へ行動がへる。D丸子橋の地区は、行動対象がもっとかたより、多摩川・神社・公園の3ヶ所に集中してしまう。子供の行動も同様の傾向が見られ、身近にあまり場所がないことが推測され、多摩川への行動が重要となることが考えられる。

次に、実際に出かけるひん度を各々の場所毎に見てみることにする(図2-5-1、2-5-2)。まず、週1回以上を見ると、B是政橋の地区の子供のひん度が高いことにまず注目すべきであろう。このことは月1回以上を集計したグラフでも同様のことがいえる。「あなた」のひん度もB是政橋が、そのような場所がありますかというグラフでみられた「はい」の人数に対して、たいへん高いひん度であるといえよう。

週と月のひん度のグラフの特徴は、中流も含めて多摩川へのひん度が月一回以上になると2~50%も高くなるということである。下流地区では公園も同様の傾向を示している。

以下9ヶ所各々の場所について特徴を並べてみる。

① 多摩川及びその支流(資料3-5~8)

二子橋の地区は地理的に川から離れているために、手段やかかる時間が交通機関・車11~30分となっている。子供は自転車の方を利用しているが歩いてはっていない。手段で永田橋が「車」を使う人が20パーセント強と出ているのは、多摩川及びその支流という尋ね方をしたため、この付近には第一章でも述べたように秋川や平井川といった支流が流れているためであり、交通機関の便がないことによる。二子橋の地区は遠い所から出かけてゆくと、1時間以内しかいない人は大人・子供共に少ない。必要ですかでは「必要である」と答えた人が各地区共一番多いが、下流域の2地区は「なくてもよい」、二子橋では5%弱ではあるが「むしろない方がよい」といった人も多いことに注意したい。

やすらぎますかという間に、上流・中流と下流の地区が対照的な結果が出てきている。下流2地区の人々にとって多摩川は、少しやすらぐか又は特にやすらぎということは感じない存在でしかないという傾向で、第一章の調査結果でみられた丸子橋でのたいへん高いごこち評価とむすびつけるとたいへんおもしろい。このことについては第三章であらためて述べることにする。

② 多摩川以外の水辺・河原(資料3-9~12)

多摩川へ訪れることの多い地区を想定して選んだ地区であるため、全体的に利用人数が少なく特記するようなことはないが、ここでも上流・中流域ではやすらぐという人が多いということだけ触れておく。

③ 広 場(資料3-13~16)

利用の傾向は大人も子供も似ているので、利用人数の多い子供の方を見てゆくことにする。他の3地区は徒歩で10分以内の所で行動しているのに対し、中流是政橋の地区では、自転車を使って30分以内の範囲で行動している。ひん度は、4地区ともに週1回以上が多い。必要性については、下流丸子橋をのぞいて圧倒的に必要という人が多い。丸子橋は利用者が少ないが、少ない中でも、

「なくてもよい」という人の方が多い。

④ 空地(資料3-17~20)

ここでも大人の利用はほとんどみられないので子供について述べてゆく。ただ、やすらぎについて、人もいないことを触れておく。

広場と同様、中流是政橋の地区は自転車でも動いている。この空地については4地区とも必要であると答えている。

⑤ 子供の遊び場(資料3-21~24)

やはり中流是政橋の地区は自転車でも動いており、ひん度も高い。この場所がない時は?に是政橋の地区は、遠くても似た場所を探すと答えている。全地区が必要であると答えているが、やすらぎについては、少しやすらぐが特に感じないとなっている。

⑥ 神社の境内(資料3-25~28)

徒歩で10分以内にあるという人が多いが、上流永田橋は、30分以内の範囲で動いている。必要ですかという質問に、他の3地区は「なくてもよい」という人が多いのに対して永田橋の地区は、大人・子供ともに「必要である」が圧倒的に多く、やすらぎについても「大変やすらぐ」と答えている。他の3地区は特にやすらぎは感じていない。

⑦ 緑の小径や雑木林(資料3-29~32)

大人・子供ともに利用しているのは上流・中流で、下流二子橋の地区は大人のみ。丸子橋の地区にはない。上・中流の地区は徒歩又は自転車でも30分以内で動いており、この場所がなかったとしてもあきらめず行動するとしており、必要であるし、やすらぎも感じると答えている。二子橋の地区は、徒歩で10分以内で利用しており、必要であるし、大変やすらぐと答えているが、なかった場合にあきらめると答えた人も割と多い。

⑧ 農地周辺(資料3-33~36)

上流と中流の地区のみで残っており、利用もされていると見ることができる。上流の地区は、なくてもよいが、やすらぎは大変感じている。中流の地区は、必要ではあるが、やすらぎを感じるという場でもないと答えている。

⑨ 公園(資料3-37~40)

上流永田橋の地区は徒歩で30分以内まで利用しており、なかったとしてもあきらめず行動し、必要であり、大変やすらぎも感じるとしている。中流永田橋の地区は、主に自転車でも10分以内、あきらめず行動し、必要であるとしているが、やすらぎについては特徴なし。下流二子橋の地区は、大人は車で動き、子供は徒歩又は自転車、車も多少いる。10分以内で動いており、必要ではあるがやすらぎは少し感じる位である。下流丸子橋の地区は、徒歩10分程度でひん度は低く、必要ではあるが、特にやすらぎは感じていない。

5-2 周辺環境

これについては、資料3-1を見てゆく。図をながめて最初に気付くことは、「きれいな水辺」「自由に遊べる広場」「公園・公園庭園」「児童公園」の4項における4地区の現状満足度の差であろう。決して豊富とはいえない中流是政橋の地区でそれぞれの項目に対して70%強もの人たちが現在のままで良いとしており、次いで上流地区、広場に至っては0%という低い満足度を示しているのが下流二子橋の地区である。水辺にあたる多摩川や広場・公園についてのやすらぎ感で、5-1で述べた通り下流域の二子橋・丸子橋の両地区共たいしてやすらぎを感じないと答えられていたことと一致する。

「散歩できる道」「農地周辺」「見はらしの良さ」「散策のできる緑の小径や雑木林」等の評価に対して、上記の4つも加えて、中流是政橋の地区は現状の満足度が高い。又、「十分な住居の広さ」「十分な部屋数」に対しても他3地区よりとびぬけてよい評価値を示している。

先の4つの環境要因に対して評価点に差がみられるという他は、各々差はあるがほとんどの要因において50パーセント以上の現状満足率と答えており、実際の空間率を測定してみないとはっきりはいえないが、期せずして住みやすい所を選んだといえよう。

5-3 上流から下流各々の特性

① 上流永田橋の地区

この居住地は、周囲に様々な空間・施設が豊富であり、その場所へのやすらぎも「大変やすらぐ」と答える人が多く、ひん度は各々それほど高くは出て来ていないが、それでも十分にゆとりを持った生活を想像できる場であるといえる。

図2-5-3は希求度と現在それになかった所にあるかどうかを表したものである。徒歩圏でかなり広く動いてまわり、30分以内までにそれぞれの場所があることを望んでおり、博物館・美術館、高級名店街、リクレーション・レジエリア以外はすべて望む所にあるという充実度である。緑・自然・空間・施設共に恵まれた環境であるといえる。

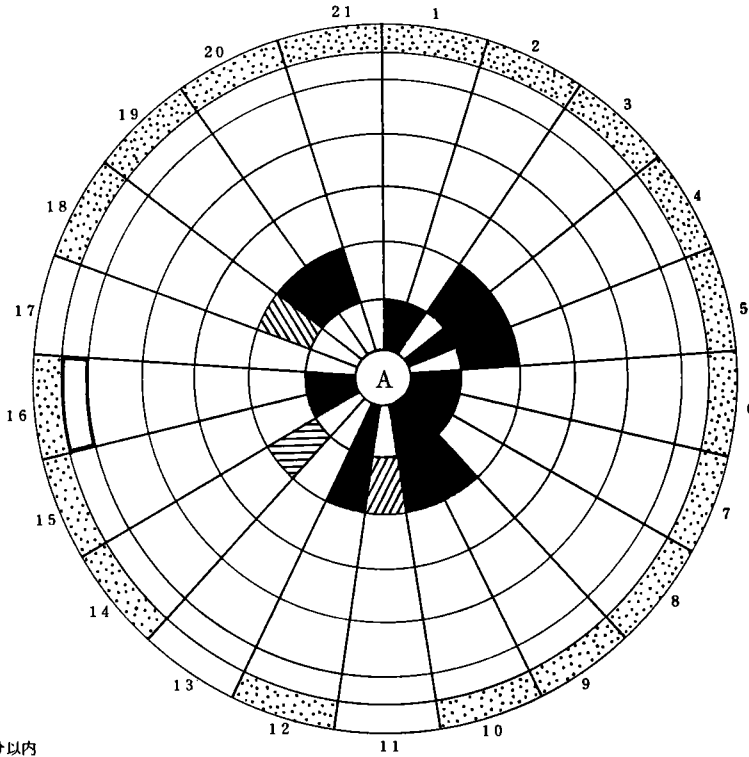
多摩川との接し方を見ると(資料3-4 1~4 4)、大人は、散歩・休憩の他に、釣り、水遊びといった親水性の行動がみられ、子供は、釣り、水遊び、生きものをつかまえるといった親水性の行動を中心に多摩川ですごしている。川へはなじみ深いから行くという人が多く、自然のままで残っている多摩川と以前のように接することが(水はたいへん汚れているが)できる場であることがわかる。

② 中流是政橋の地区

上流域の地区ほど空間や施設は豊富ではないが、その利用度は100%にも達しようと思われるほどよく動いている。自転車で動くのが中心になっており、自転車で30分位かけてでも様々な場所へ出かけている。それぞれの場所でのやすらぎは、川と緑の雑木林について「大変やすらぐ」という答えが出ており、多摩川は様々な場所へ行動する中でも大切な存在であるといえるかもしれな

Q 5 各々の場所は、お宅からどの位の時間でいける場所であればいいですか。

- | | | |
|-------------|---------------------|------------------|
| 1 子供が遊べる空地 | 8 公園 | 15 日常的な買物をする商店 |
| 2 自由に遊べる広場 | 9 グランド | 16 盛り場・繁華街 |
| 3 きれいな水辺や河原 | 10 体育施設 | 17 高級名店街 |
| 4 緑の小径や雑木林 | 11 レクリエーション・レジャーエリア | 18 高級レストラン |
| 5 見晴らしのよい所 | 12 図書館 | 19 喫茶店・スナック・バーラー |
| 6 散歩できる道 | 13 博物館・美術館 | 20 公民館・市民会館 |
| 7 児童公園 | 14 劇場・コンサートホール・映画館 | 21 勤務先 |



中心自包

- 1 10分以内
- 2 10～30分以内
- 3 30分～1時間以内
- 4 1～2時間以内
- 5 2時間以上

■ 徒歩(30%以上)

▨ 交通機関を使って(30%以上)

□ 施設そのものが不必要(30%以上6番目の円)

◻ いま希望する所にあるもの(50%以上7番目の円)

図 2-5-3

い。

では、多摩川を人々はどのように利用しているのでしょうか。資料3-4 1~4 4の目的を見ると、大人は、休憩・散歩の他にサイクリング、マラソン・ジョギング等で利用しており、子供はサイクリング、マラソン・ジョギング、釣り、ピクニック、休憩、水遊び、生きものをつかまえるといったようにあらゆる利用の仕方をしており、多目的に使われているといえることができる。

図2-5-4は、図2-5-3と同じく希求度とその希望するところに現在あるか否かを表した図である。希望する手段として自転車を入れなかったことが多少影響してはいるかもしれないが、たいへん特徴的な図になっている。外的施設以外の項目に対してほとんど徒歩で10分以内の所にあることを理想としているのである。雑木林は先に見たように自転車で30分以内の所にあるため希望する徒歩10分以内の所にないと出ているのであるが、希望する所にあるものは、社会的空間に関するもの、社会的施設に関するもの集まっているのが特徴であろう。

③ 下流二子橋の地区

この地区は神社と緑の小径（呑川緑道）の存在が大切な位置を占めており、よく動いているし、必要のあるやすらぎを感じる場所となっている。ここは諸空間や施設が適度に——もちろん最良の状態ではないが——存在し、多摩川がなくてもよい、極端な人はない方がよいとさえ答える人がおり、多摩川は、もっと住民がやすらぎを感じるような場にならない限り、どうしても必要な存在とはいえない。

希求度のグラフを見てみると（図2-5-5）、交通手段で動きまわること慣れているためか広場や公園といった場所以外、つまり諸施設へは交通機関を使って1時間位までいける所があればよいと望んでいる。これは、都心に居住する人達にとって電車を利用しての1時間は苦でもなんでもなくなっており、あたり前に受け取られていることを示していると取れるのではないだろうか。……それはさておき、現在希望する所にあるのは、社会的施設・外的施設に集中しており、上流・中流と比べるとたいへん対照的である。

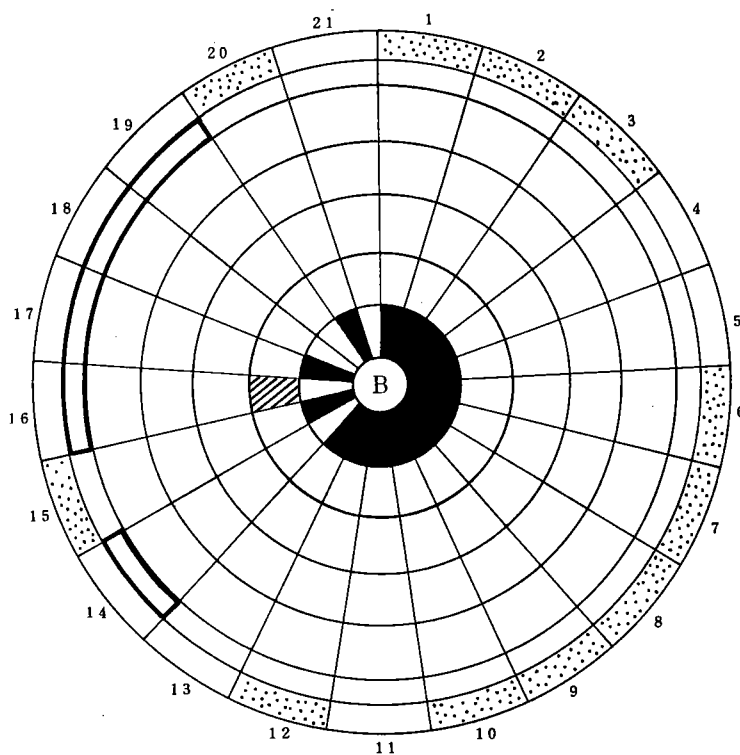
④ 下流丸子橋の地区

ここは、多摩川と神社・公園をとったら何も無い所で、いずれの場所にもやすらぎは感じていない。非常に問題であるといえる。多摩川がどのようにあれば、人々にやすらぎを与えることが可能となるのかを第三章で考えてみたい。その前に、現在、多摩川はどのような利用のされ方をしているのか（資料3-4 1~4 4）。大人は、散歩のみ。子供はスポーツ、釣りぐらいで、あまり子供達にとっては魅力的な場とはなっていないようである。

図2-5-6の希求度の図を見てみよう。この地区もずいぶん特徴的で、散歩できる道、児童公園、日常的な買物をする商店、喫茶店・スナックといった21項目中4項目しか希望するところに位置していないということを表わしている。無解答が多かったことも考えにいれなければいけないが、この地区の人だけ記入方法がわからなかったということも考えられないので、これで1つのデ

Q 5 各々の場所は、お宅からどの位の時間でいける場所にあればいいですか。

- | | | |
|-------------|---------------------|------------------|
| 1 子供が遊べる空地 | 8 公園 | 15 日常的な買物をする商店 |
| 2 自由に遊べる広場 | 9 グランド | 16 盛り場・繁華街 |
| 3 きれいな水辺や河原 | 10 体育施設 | 17 高級名店街 |
| 4 緑の小径や雑木林 | 11 レクリエーション・レジャーエリア | 18 高級レストラン |
| 5 見晴らしのよい所 | 12 図書館 | 19 喫茶店・スナック・バーラー |
| 6 散歩できる道 | 13 博物館・美術館 | 20 公民館・市民会館 |
| 7 児童公園 | 14 劇場・コンサートホール・映画館 | 21 勤務先 |



中心自包

- 1 10分以内
- 2 10～30分以内
- 3 30分～1時間以内
- 4 1～2時間以内
- 5 2時間以上

■ 徒歩(30%以上)

▨ 交通機関を使って(30%以上)

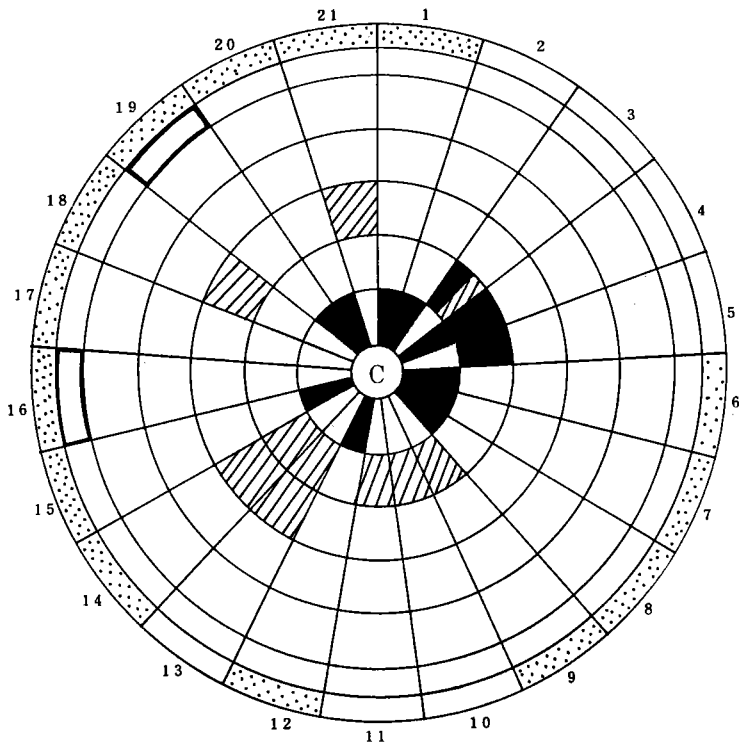
□ 施設そのものが不必要(30%以上6番目の円)

◻ いま希望する所にあるもの(50%以上7番目の円)

図 2-5-4

Q 5 各々の場所は、お宅からどの位の時間でいける場所にあればいいですか。

- | | | |
|-------------|---------------------|------------------|
| 1 子供が遊べる空地 | 8 公園 | 15 日常的な買物をする商店 |
| 2 自由に遊べる広場 | 9 グランド | 16 盛り場・繁華街 |
| 3 きれいな水辺や河原 | 10 体育施設 | 17 高級名店街 |
| 4 緑の小径や雑木林 | 11 レクリエーション・レジャーエリア | 18 高級レストラン |
| 5 見晴らしのよい所 | 12 図書館 | 19 喫茶店・スナック・パーラー |
| 6 散歩できる道 | 13 博物館・美術館 | 20 公民館・市民会館 |
| 7 児童公園 | 14 劇場・コンサートホール・映画館 | 21 勤務先 |



中心自包

- 1 10分以内
- 2 10～30分以内
- 3 30分～1時間以内
- 4 1～2時間以内
- 5 2時間以上

■ 徒歩(30%以上)

▨ 交通機関を使って(30%以上)

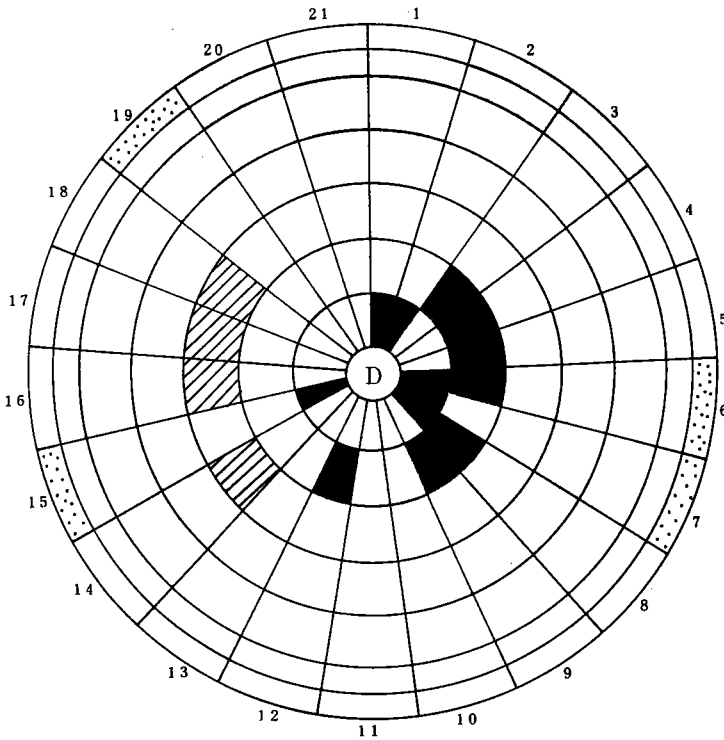
□ 施設そのものが不必要(30%以上6番目の円)

◻ いま希望するところにあるもの(50%以上7番目の円)

図 2-5-5

Q 5 各々の場所は、お宅からどの位の時間でいける場所にあればいいですか。

- | | | |
|-------------|---------------------|------------------|
| 1 子供が遊べる空地 | 8 公園 | 15 日常的な買物をする商店 |
| 2 自由に遊べる広場 | 9 グランド | 16 盛り場・繁華街 |
| 3 きれいな水辺や河原 | 10 体育施設 | 17 高級名店街 |
| 4 緑の小径や雑木林 | 11 レクリエーション・レジャーエリア | 18 高級レストラン |
| 5 見晴らしのよい所 | 12 図書館 | 19 喫茶店・スナック・パーラー |
| 6 散歩できる道 | 13 博物館・美術館 | 20 公民館・市民会館 |
| 7 児童公園 | 14 劇場・コンサートホール・映画館 | 21 勤務先 |



中心自包

- 1 10分以内
- 2 10～30分以内
- 3 30分～1時間以内
- 4 1～2時間以内
- 5 2時間以上

注：ただし、この地区は無回答がたいへん多かった。

- 徒歩(30%以上)
- 交通機関を使って(30%以上)
- 施設そのものが不必要(30%以上6番目の円)
- いま希望するところにあるもの(50%以上7番目の円)

図 2-5-6

ータといわねばなるまい。

6. 居住地環境と多摩川

調査地点の都市化の中での位置を知るために、今まで立花直美先生が続けてこられた研究を引用させてもらった。調査地点は表2-6-1の通りである。

表2-6-1 メッシュコード一覧表

地区 番号	整理名称	標準メッシュコード			地区 番号	整理名称	標準メッシュコード		
		1/20万	1/2万5千	メッシュ ナンバ			1/20万	1/2万5千	メッシュ ナンバ
東京 T I	八王子	5339	41 五日市	08	仙台 Se I	角五郎	5740	36 仙台西南部	18
T II	日野		33 武蔵府中	81	Se II	旭ヶ丘		37 仙台東北部	51
T III	三鷹		44 吉祥寺	26	Se III	鉄砲町		37 仙台東北部	11
T IV	港		35 東京西南部	78	Se IV	大和町		27 仙台東南部	93
T V	江戸川		46 東京首都	47	米沢 Y I	中央地区	5640	60 米 沢	98
T IV	中央		46 東京首都	02	Y II	城南地区		60 米 沢	88
千葉 C I	夷隅(劫谷)	72 国 吉	45	Y III	緒仏地区	60 米 沢		58	
C II	夷隅(国吉)	5240	72 国 吉	35	神奈川 K I	城 山	5339	32 八王子	03
C III	勝浦(杉戸)		62 御 宿	51	K II	飯 山		12 厚 木	55
C IV	勝浦(旧勝浦)		52 勝 浦	75	K III	小 野		12 厚 木	15
C V	北松戸		5339	57 松 戸	53	K IV		磯 子	04 戸 塚
C VI	佐津間	5340	50 白 井	50					

6-1 行動率

図2-6-1は、人口密度を軸に日常的によく出かける場所への行動率をあらわしたものである。これは1,000人をピークとしてその行動率がだんだんへってゆくことを示しており、今回の調査地区は、従来のDATA上に乗っており、人口密度が高くなるほど大人も子供も、その行動率が減ってゆくといえる。この人口密度を都市化の一つの指標と考えると、都市化の度合いが進むほど、日常的に出かける広場等は減ってゆくことを物語っており、下流域で出かけるひん度がぐっと低かったのも、都市が膨張して、広場等の空間が削られたためで、多摩川の存在の大きさを確認させる一つとなると考えられる。

なお、子供の行動率の方が大きいですが、人口密度が高くなると急に減ってゆき、動きようがなくなる

日常的によく出かける場所

(広場、空地、神社の境内、農地周辺、水辺・河原、雑木林等緑地、子供の遊び場)

—— 10分以内 ——

○ 白子は子供の行動量

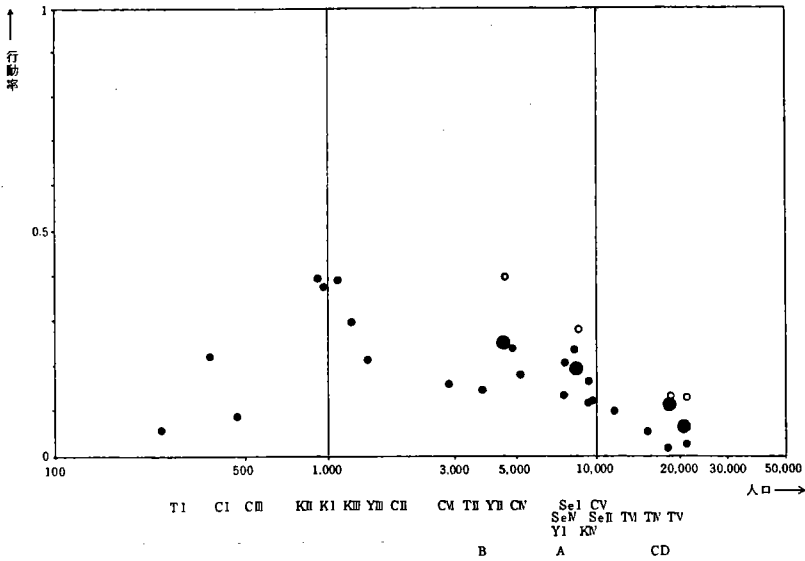


図 2 - 6 - 1

ことを物語っており、その量の変化が大人よりも大部急に減ってゆくことを見ると、子供の遊び場の確保を改めて考えなければなるまい。

6 - 2 個人的空間に関する主観的環境評価

個人的空間というのは、一般住宅敷地のこと、特定の個人(家族)をのぞいては意味をもたない空間をいい、その空間に関する評価である。項目は以下の通りである。

- 災害に対する安全性
- 住居前面道路の安全性
- 十分な敷地の広さ
- 十分な庭の広さ
- 十分な住居の広さ
- 十分な部屋数
- 窓から見える緑
- 窓からの眺望
- 風通しのよさ
- 日当りのよさ：部屋
- 日当りのよさ：庭

以上11項目について、Q1から「現在のままでよい」と答えた人の平均値を計算したものである。それを、従来のデータにプロットしたのが図2-6-2である。

見ると、従来のデータはゆるやかな曲線を描いている。これは、人口密度が1,000人あたりを越すと個人的空間に関する評価が急速に悪くなってゆくことを描いており、都市化が進むと個人的空間率がどんどん増えてゆき、評価はその増加に加速をつけて悪くなってゆくことを示している。その中に上流と中流はおちこんでしまうが、下流域のC二子橋の地区とD丸子橋の地区は、曲線のカーブよりも高い所にプロットされている。これは何を意味しているのだろうか。それをさぐるため11項目各々について4ヶ所の点をプロットしてみた。

これを見ると、「日当りのよさ：部屋」と「窓からの眺望」について、下流の2地区の評価が他地区よりも高く出てきていることに気付く(図2-6-3、4)。ということは、人口密度は2万人前後と2地区とも高いが、部屋の日当たりと窓からの眺望の面では比較的恵まれた住環境を持っていると考えてよいだろう。

6-3 社会的空間に関する主観的環境評価

社会的空間とは、地域住民が共通に自由に安全に使用しうる、あるいは空間評価上意味を持った空間(個体群が所有する空間)のことで、その空間に関する評価である。項目は以下の通りである。

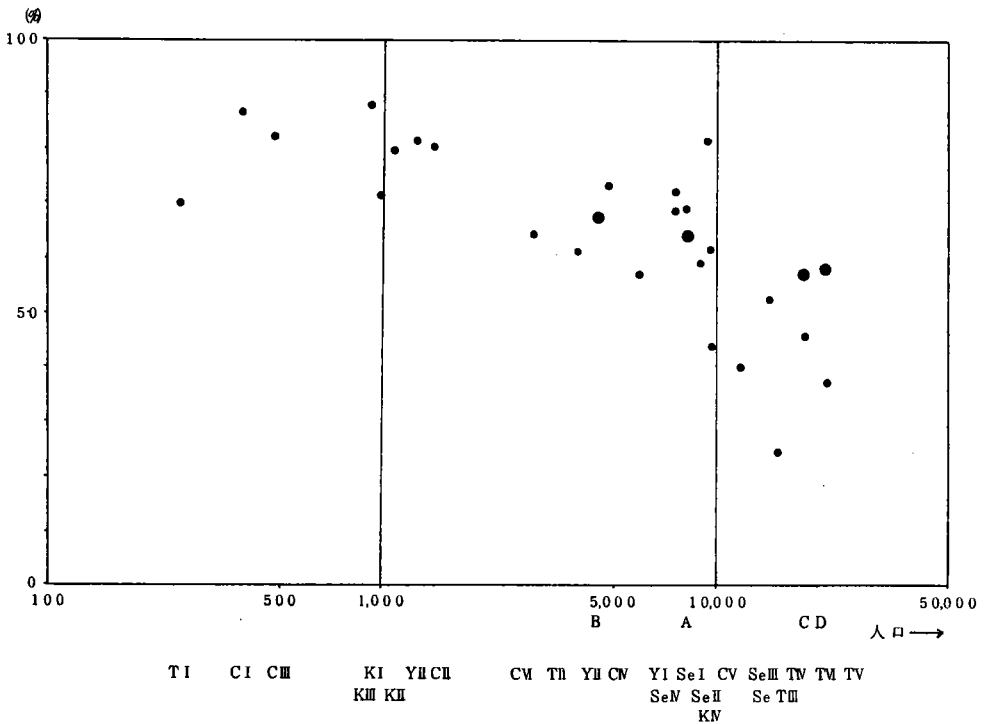


図2-6-2 個人的空間に関する主観的環境評価

- 災害に対する安全性
- 安全な子供の遊び場
- 住居前面道路の安全性
- 周辺の緑や自然環境
- きれいな水辺や河原
- 自由に遊べる広場
- 見はらしのよさ
- 農地周辺（たんぼ・畑など）
- 街並のよさ
- 空地
- 神社・寺院の境内
- 十分な庭の広さ
- 窓から見える緑
- 窓からの眺望
- 圧迫感がないこと
- 散歩できる道
- 日帰りの旅を楽しめる所

以上17項目について、Q1から「現在のままでよい」と答えた人の平均値を計算したものである。それを、従来のデーターにプロットしたものが図2-6-5である。

従来のデーターはゆるやかな曲線を描いており、10,000人を越えたあたりから急にその評価点がおちこんでゆく。これは、人口密度が高くなり、社会的空間率が減ってゆくと（図2-1-1）、人口密度1万人を越えたあたりから急にその評価が低くなり、なんとかしてほしいと考えるようになることを示している。今回の調査地区の点を図上にプロットしてみると、やはり上・中流域は線上に乗るが、下流域のC二子橋、D丸子橋の両地区の評価点が高く出てきている。

個人的空間に関する主観的環境評価と同様にして、17項目それぞれについて見てみると、散歩できる道、農地周辺、街並のよさ、窓からの眺望、日帰りの旅を楽しめるところといった5項目について高い評価点がみられ、特にD丸子橋の地区において、この5項目についての高い評価が目立った。（図2-6-6～10）

「散歩できる道」については、丸子橋の希求度のグラフを見ると、希望の時間内にある数少ない項目の中に、散歩できる道があげられて、そのために高い評価点となって出て来たものと考えられる。

以上のことから推定すると、今回の調地点の対象となった下流域の地区は（特に丸子橋の地区）、日常的に出かける広場や公園といった場所は充分といえない実情であるし、たとえあったところでその場で十 やすらぎを感じられるようにはなっていない。が、散歩できる道、街並のよさ、窓からの

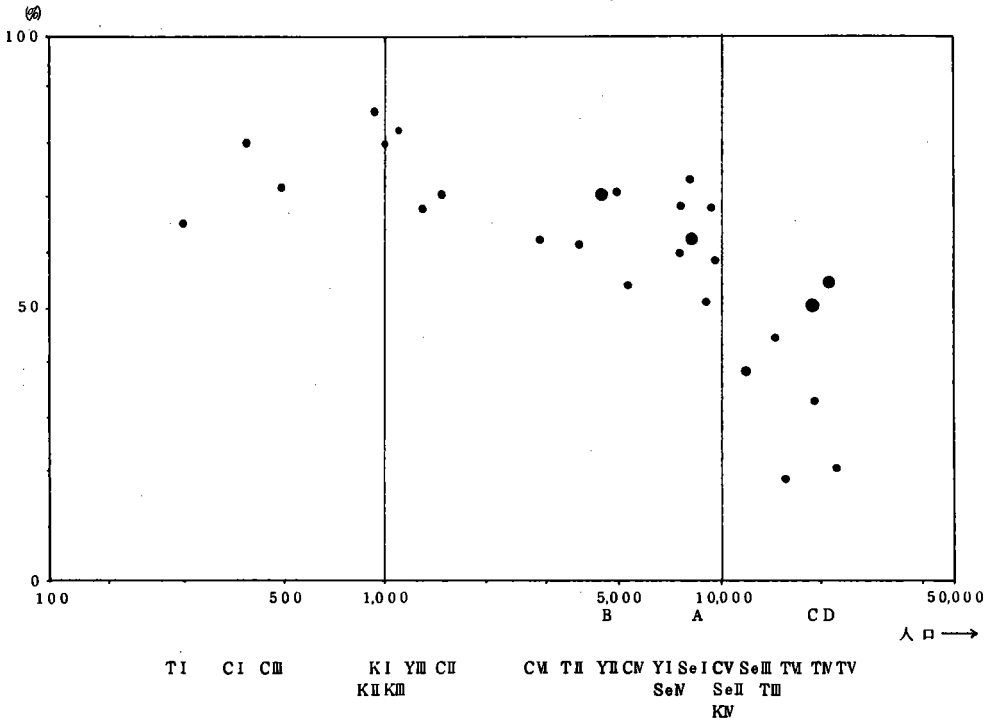


図 2-6-5 社会的空間に関する主観的環境評価

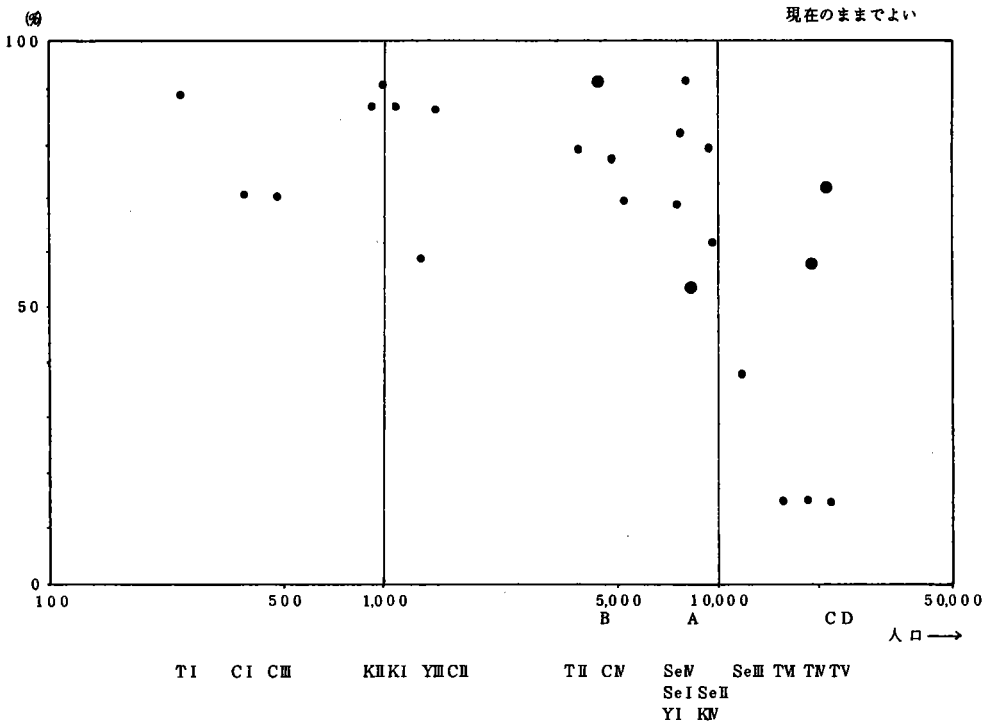


図 2-6-6 散歩できる道

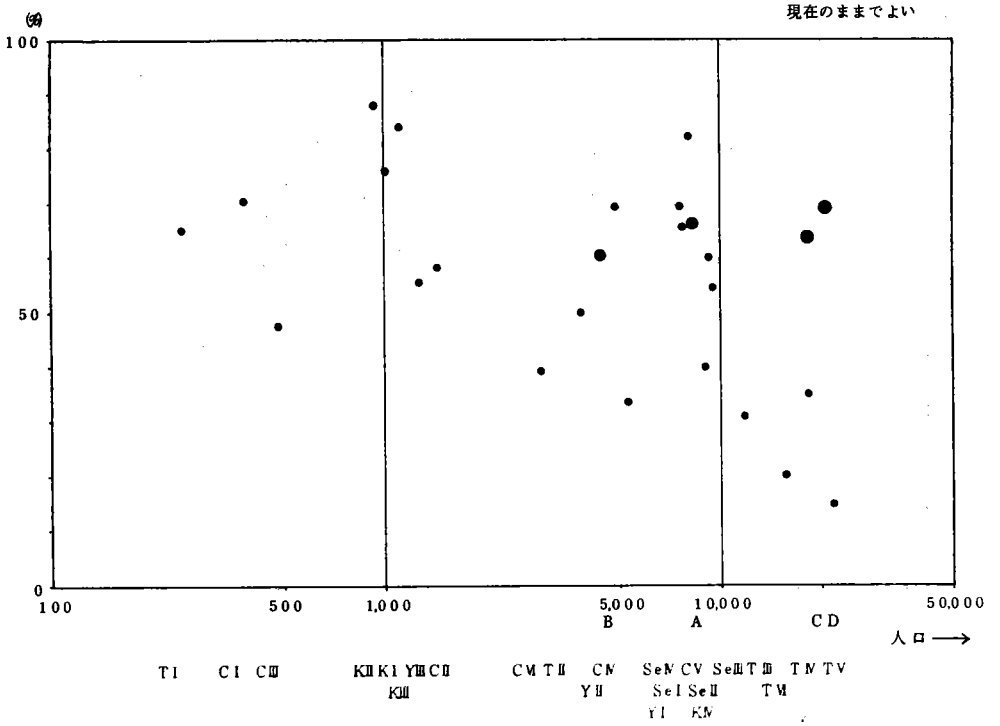


図2-6-7 街並のよさ

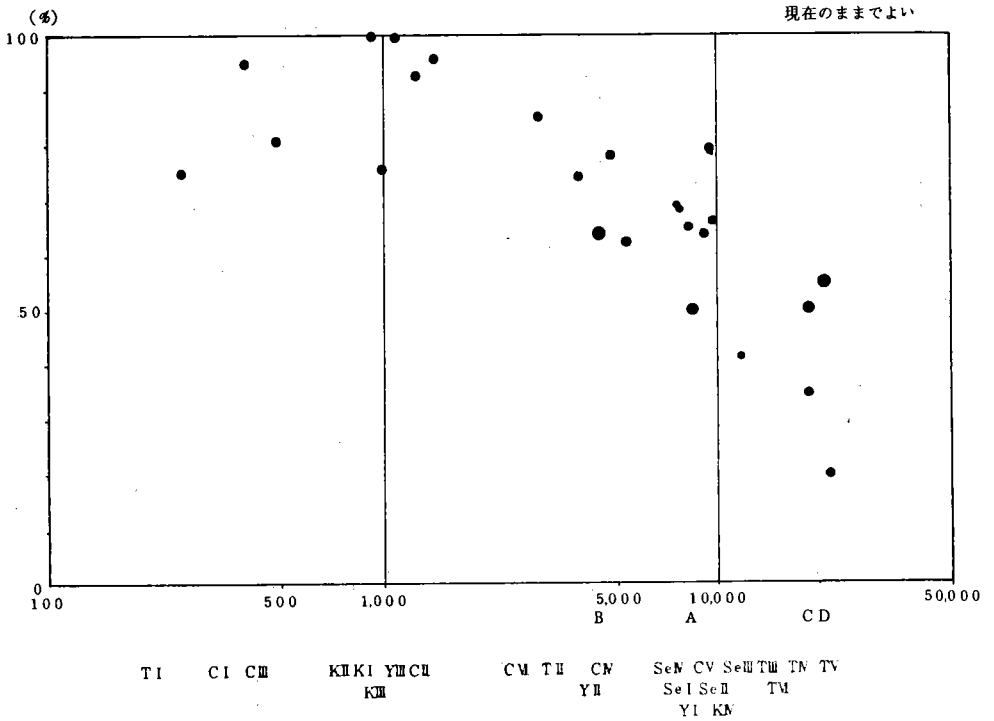


図2-6-8 窓からの緑

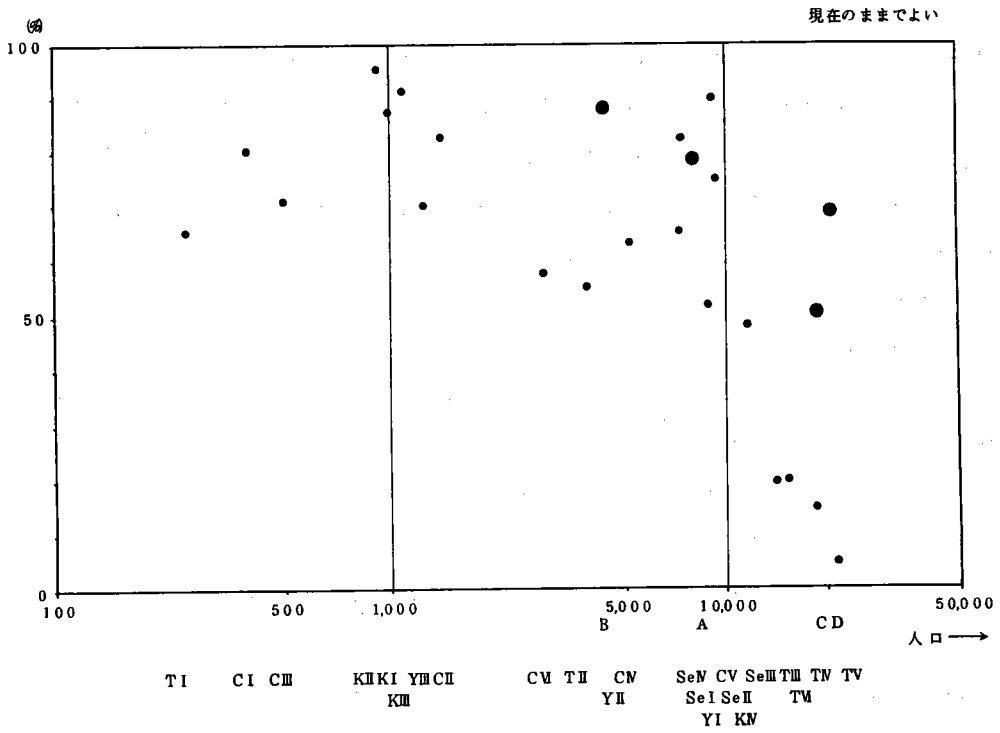


図 2-6-9 日帰りで旅を楽しめるところ

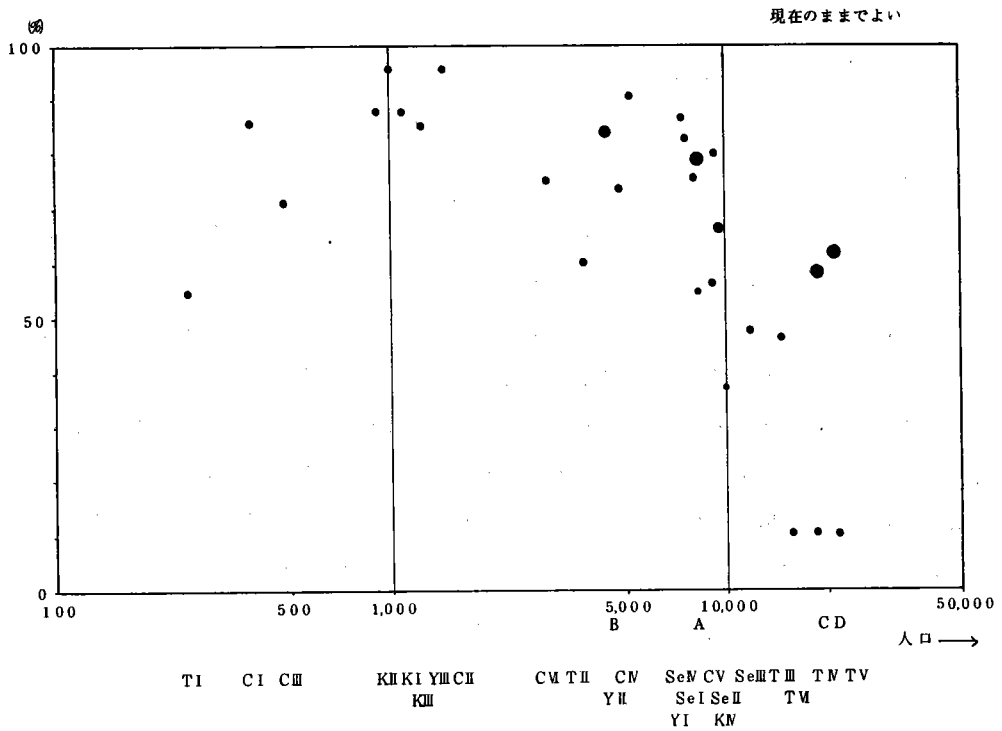


図 2-6-10 農地周辺

眺望といった、どこかに出かけずとも日常の生活の中で、歩きすぎる中での周辺環境である程度の満足を得られているのではないだろうか。又、今回は時間不足のため、この4つの地区で空間区分を行うことはできなかったが、この下流域の空間率がどのように出てくるか、たいへん興味深い。

さて、以上のように都市化レベルとしての4ヶ所の住環境が検討されたところで、多摩川とのかかわり方を、住環境の側から考えてみることにしよう。

6-4 各住環境における多摩川

1) 上流 永田橋の地区

この地区は、多摩川をはじめとして日常的に出かけることの出来る場所が豊富である。その行動量は場の豊かさに比べて多くはないが、各々の場所が住民にとってやすらぎを感じることで出来る場として、この地区に必要なものとなっている。

多摩川は、新まったものではなく、古くからなじんできた、近くにある水辺といった形で利用されているのである。その利用目的も親水性を持ったものが中心となっている。

2) 中流 是政橋の地区

この地区は、日常的に出かけることの出来る場が豊富というのではないが、ちょっと行くと場所はあるのである。それらの場所を最大限に活用しており、たいへんよく動いている。しかし、やすらぎを感じる場は少なく、その意味で、大変やすらぎを感じることで出来る多摩川は、大切な場であるといえよう。

3) 下流 二子橋・丸子橋の地区

両地区共にたいへん人口密度が高く、身近に行動できるところには、あまり広場等の空間は存在していない。そして、多摩川河川敷も含めてやすらぎを感じることで出来る場も、ほとんどないという居住地である。

二子橋の地区は、緑の小径や神社といったやすらぎを感じる場所が、少ないとはいえまだ残っている。一方、丸子橋の地区は、行動する日常的な広場等の空間をほとんど有しておらず、在る場所もやすらぎを得る場とはなり得ていない。だが、周辺環境の街並や、散歩できる道といったように、出かけることをせずとも得ることのできる景観に関しては、高い満足度を示している。

このように、都市化がかなり進んだ地区は、日常的に出かける場をあまり持たず、行動もほとんどせず、いつも通る所が少し快いくらいの住居地である。2地区とも、交通機関はたいへん充実しており、近くの多摩川河川敷ならば、30分位で動ける範囲にあるにもかかわらず、出かけてゆこうという魅力を感じさせるに足る場となっていないという結果が出た。

第3章 河川敷と発地別アンケートの結果から

1. 多摩川での評価とやすらぎ

河川敷でおこなった調査では、人口密度が高くなるほど、多摩川での評価が高くなるという傾向がみられた。特に、丸子橋に訪れる人々は、高い人口密度の居住地から訪れており、その評価は高い所に集中していて、多摩川という河川敷の存在が大切なものと確認させるものだった。

では、その各々の流域調査地点は、それで十分やすらぎを与え得る場として存しているのだろうか。

その結果は、発地別に居住地の側から実施した調査から考えることができる。というのは、自然の草地や木々、そして川原が遊びの中で十分接することができる多摩川が身近にある上～中流域の居住地は、評価にかなりのばらつきは見られたが、大変やすらぎを感じる場としている。それに対して、下流域の居住地ではほとんどやすらぎは得られない場としている。つまり、多摩川が在るということは大切に考えてはいても、その周辺に住む人々が欲している場とはなり得ていないと考えることができよう。

では、どのような場を望んでいるのか、それを各流域毎に、今までの調査結果より考えてみよう。

2. 上流域の住環境と多摩川とのかかわり

この地区では、多摩川はあらたまって出かけるという所ではなく、ごくごく日常生活にとけこんでいる水辺の一つと考えることができる。昔から、ほとんどその姿を変えずに流れてきた水辺として、散歩コースとして、子供を連れて、楽しまれてきた、そして今もそうして親しまれているのである。

といっても、もちろん問題はある。というのは、水質の悪化で、少し上流の羽村の堰より水量が急に減ってしまうことや、家庭排水を始め下水等の流入によって、水はかなり汚れている。まだ、釣りはできるが、今後、都心のベッドタウンとしてこの地区の都市化が進行して行った場合、釣りは楽しむことができなくなってしまうかもしれない。この場合は、川幅が狭いこともあって、親水性の接し方が多く見られる場であるだけに、水質が重要な問題であるといわねばならない。

又、都市化が進み、宅地がどんどん増えてゆくことは、様々な空間が姿を消してゆくことを意味している。まだ多くの場が残っている現在、やすらぎを得る所は数多いが、その中でも多摩川及びその支流での高いやすらぎは注目しておくに値するといえる。この地区住民にとってやはり高いやすらぎ感を示している「緑の小径や雑木林」という場所も、多摩川沿いの並木道を指しているのである。つまり、多摩川は、身近にある水辺、水と接することができ、緑も豊富である場として、この地区に居住する人々に受け入れられているといえるのである。

3. 中流域の住環境と多摩川とのかかわり

この居住地は、たいへん周辺環境に恵まれているとは言えないが、少し離れている所でも出かけていってよく動いている地区である。その中で、多摩川は行動の中心となっている感が強く、大変やすらぎを感じる場として受け入れられている。

この河川敷は、たいへん広く、施設と自然が両存しており、どちらもその利用度は高い。生物も豊富であり、様々な目的で訪れてくる。

この地区にとって多摩川は、釣りも、スポーツも、散歩も、探鳥もできる場として、貴重な場になっている。広い空間、豊富な生物、水辺と、すべてがやすらぎを与えていると考えられる。が、水質はここでも悪化しており、さらに悪化すると、ここは空間の確保が唯一となってしまいうだろう。身近な空間が減っていると考えられ、これからも減ることはあっても、増えることはまずないと予想できるだけに、今の多摩川との接し方を、守ってゆくべきであろう。

4. 下流域の住環境と多摩川とのかかわり

下流域は、たいへんに都市化が進んでいるため、広場や空地といった類の空間はほとんど残されていない状態である。そんな中で、多摩川という広い空間は、重要な位置を占めているといえる。河川敷で行った調査結果でも、人口密度が高くなるほど、多摩川での評価があがるという傾向がみられた。

しかし、人々が望んでいる場とはなり得ていないと思われる。多摩川は、自由や空間は与えてくれるが、それ以上のものは提供していないのである。

丸子橋では、もっと施設がほしい、もっと整備してほしい、という声が聞かれた。そして、各居住地では公園を身近には持っていない。さらにいうなら、水質は悪化してはいないが、強汚濁に耐え得る魚類しか生息しておらず、自然にもどるというのも無理な状態である。ならば、居住地で不足している、日常的に行動する場を補うために、丸子橋のように全く自然の残されていない所では、徹底的に公園化する事が望まれているのではないだろうか。とにかく、現状はやすらげる場とはなり得ていない。それを補ってゆくことが、人工化という方向の中で望まれる。

一方、二子橋の河川敷はどうだろう。すぐそばに二子玉川園という公園があるためか、中途半端な場となっている印象を受ける。行動を見ても、水辺にあまり人は集まっていない。近くに他に水辺がない居住地なのであるから、もっと親水性の行動が楽しめるように、そして、失われた場を補えるように、両面を持って、中流域のように作られてゆくことが、望まれていると考える。

第4章 結論と今後の課題

多摩川は、その流域周辺に住む人々にとって、大変に重要な場所である。もちろん今までもそうであったが、現在のように都市がふくれあがり、様々な場が失われてゆく状況において、その空間は今まで以上に大切であるといえよう。

今回の調査は、河川敷に訪れている人に直接アンケートを実施し、都市化と多摩川とのあり方を検討することから始めたのであるが、その場で短時間で答えてもらうのには限界があり、様々な推測をたてる段階でおわったといえる。そのため、先の調査の傾向をふまえて、発地別のアンケート調査を実施した訳であるが、各居住地にとって多摩川は、かかわり方こそ違うが大切な位置を占めていることがはっきりした。そして、各居住地区の都市化の度合に、多摩川のあり方、利用され方は大きくかかわっていることもはっきりしてきた。

今回は時間不足のため、各居住地での空間区分を行うことができず、人々の行動量から推測するに止まったが、実情の把握のためにこの空間分類はぜひ必要である。そして、4ヶ所でしか行っていないこの調査を、より多い地区で、特に下流域の都市化の進んだ地区で行うことによって、多摩川のその求められ方は、より明確となつてこよう。

加えて、河川敷の景観についての、景観的価値についても検討が必要となってくる。今後の開発行為に伴って、視覚的効果はどのように変わるかということは、その場でのやすらぎに大きな関係があると考えられ、これを、スライド実験によって視環境評価を検討することを試みたい。

参 考 文 献 一 覧

- 1) 多摩川河川環境管理計画報告書 S 55. 2 — 建設省関東地方建設局京浜工事事務所 —
- 2) 昭和54年度公共用水域水質測定結果の概要 S 55. 9 — 東京都公害局 —
- 3) 多摩川環境調査報告書 S 51. 1 — 建設省関東地方建設局京浜工事事務所 —
- 4) 川崎市都市環境調査報告書 S 51. 9 — 川崎青年会議所 —
- 5) 多摩川環境調査報告書 S 51. 1 — 建設省関東地方建設局京浜工事事務所 —
多摩川景観調査報告書 S 51. 4 — 建設省関東地方建設局京浜工事事務所 —
- 6) 多摩川環境調査報告書 S 51. 1 — 建設省関東地方建設局京浜工事事務所 —

その他の参考文献

- 建設省関東地方建設局京浜工事事務所
 - 多摩川河川敷利用実態調査 S 54.9
 - 多摩川河川敷利用に関する沿川住民アンケート調査報告書 S 50.9
 - 多摩川河川敷自然環境評価調査報告書 S 53.11
 - 多摩川沿川住民アンケート調査報告書 ?
- 日本建築学会論文報告集
 - 水際地域に関する都市比較分析 S 53.11 273号 杉山 恭一
 - 東京都計画局 事業概要 S 54
 - 行動科学としての心理学 芸林書房 相馬 均・木村 駿
 - 都市の中の川 鹿島出版会 ロイ・マン著 相田武文訳
 - 土地利用調査特別委員会資料 S 54.4 東京都都市計画局地域計画部
 - 川 とうきゅう環境浄化財団
 - 都市環境の開発・保全のあり方の研究 54・55年度 環境科学特別研究

謝 辞

今回の研究にあたって、都市環境における人間の行動の定量化について研究を続けてこられた立花直美先生には、常時適切な助言を与えていただき、心理的景観評価をはじめ、データの扱い方など、私の力不足の点を助けていただき、感謝の念に耐えません。

なお、私の研究に助成金を出してくださった「とうきゅう環境浄化財団」に深く敬意を表します。さらに、研究の調査にあたって、アンケートに協力していただいた多くの方々に感謝いたします。

12. この場所に不満はありますか。

13. あなたの住所（できれば丁目、番地まで）

14. あなたのすまいについてうかがいます。

1) 持家ですか。

- ①土地・家共に自分のもの ②土地は自分のもの、家は借家 ③家のみ持家 ④土地・家共に借
⑤期限あり仮住居

2) 床面積、部屋数は？

床面積 m^2 又は 坪 / 部屋数

3) 子供専用の部屋はありますか。

- ①ある、ひとりづつ別に ②ある、子供どうし一緒 ③ない ④子供がいない

4) 庭はどれくらいありますか。

- ①ない ② $33m^2$ 以下 ③ $34\sim66m^2$ ④ $67\sim100m^2$ ⑤ $101\sim150m^2$ ⑥ $151m^2$ 以上
⑦集合住宅として共有

5) 庭をながめてやすらぎを感じますか。

- ①すごく感じる ②少しは感じる ③別に感じない

15. 子供の遊びについてうかがいます。

1) 戸外で遊んでいる子供をみかけることがありますか。

- ①非常によくみかける ②よくみかける ③なんともいえない ④あまりみかけない
⑤全くみかけない

2) 近くに子どもが安全に遊べる所はありますか。

- ①ある ②ない

3) 子どもはどんなところで遊んでいますか。（いくつでもけっこうです。）

- ①道路又は路地裏 ②空地 ③広場 ④公園 ⑤運動場 ⑥家の庭
⑦寺や神社の境内 ⑧雑木林などの緑地 ⑨港や海辺 ⑩他〔 〕

↓
—子供用—

1) 家の外でよく遊ぶか。

- ①いつもよく遊ぶ ②よく遊ぶ ③遊ぶこともある ④ときどき遊ぶ
⑤ほとんど遊ばない

2) 近くに安心して遊べる所はあるか。

- ①ある ②ない

3) いつもどんなところで遊ぶの。

- ①道路や路地裏 ②空地 ③広場 ④公園 ⑤運動場 ⑥家の庭
⑦寺や神社の境内 ⑧雑木林など緑地 ⑨港や海辺 ⑩他〔 〕

16. 散歩についてうかがいます。

1) 家の近くを散歩することがありますか。

・何回位

- ①毎日 ②週2～3回 ③週1回 ④月2～3回 ⑤月1回 ⑥年数回 ⑦ほとんどしない

・時間はどのくらい

- ①10分以内 ②10～30分 ③30～1h ④1～2h ⑤2h以上

2) どんなところを歩きますか

- ①特徴のない近所 ②緑の多い住宅地 ③神社の境内 ④水辺・河原
⑤緑の小路や雑木林等緑地 ⑥農地 ⑦歩行者専用の道 ⑧公園 ⑨空地や広場
⑩繁華街のショッピングできる通 ⑪見はらしのいい所 ⑫他〔 〕

17. 行楽として年に何回位旅行しますか。

	①日帰り	②泊りがけ	③長期滞在
年に10回以上			
" 6～9回			
" 3～5回			
" 1～2回			
数年に1度(ほとんどでかけない)			
全くでかけない			

18. すまいにどのくらい満足していますか。100点満点でこたえてください。

1) いまのすまいにどれくらい満足していますか。

点

2) いまのすまいのまわりの環境にどれくらい満足していますか。

点

⊕ 家のまわりにある遊び場や公園は何点ぐらい

3) その地域の交通・買物の便・公共施設など生活関連全般にはどれくらい?

点

⊕ 学校までの交通とか遊び場(体育館・児童館・プール)への道は何点ぐらい

4) その地域の人間関係全般にどれくらい満足していますか。

点

⊕ 友達つきあいであつごうが悪いとかそんなことない? 何点ぐらい

5) いまおすまいの所は全体としてどれくらい満足できるところと思いますか。

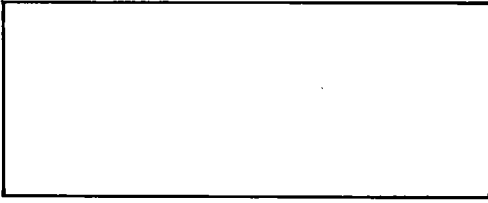
点

⊕ いまの家は、いろんなことひっくるめて何点ぐらい?

19. あなたの年は?

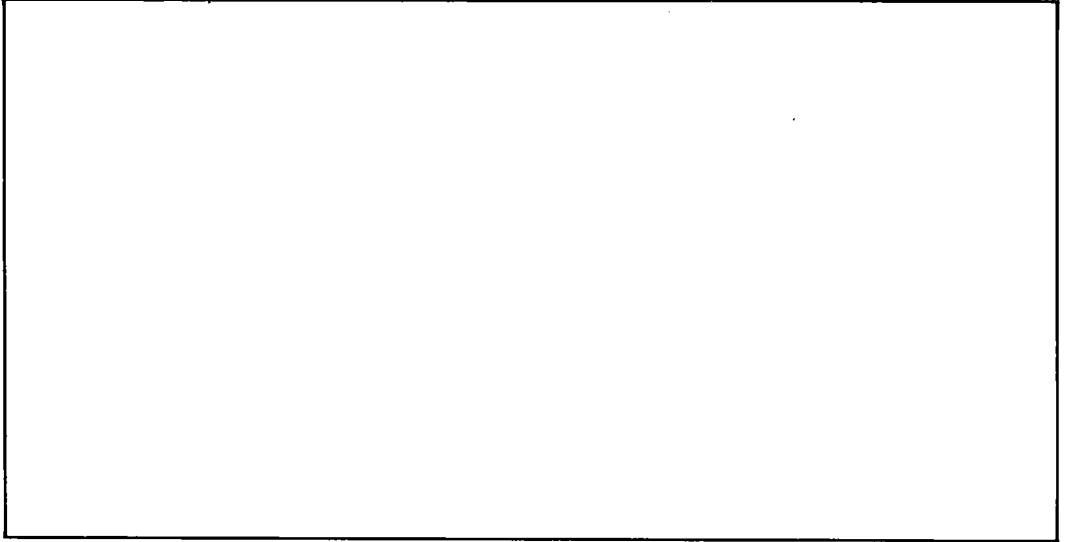
才

20. 家族構成は（合計人数も）



人

21. さいごに多摩川の一番いいところは何だと思えますか。自由に教えてください。



環境と行動についてのアンケート用紙

・アンケートの主旨と調査ご協力をお願い

この調査は、多摩川流域を対象地域としています。

現在の生活環境と周辺環境とのかかわり方を知ることが目的としており、気楽な気持ちでご協力くださいますようお願いいたします。

なお、皆さまが対象にえられたのは地図上に格子の網をかけた時、ちょうど中ほどに位置していたためで他意はございません。

・結果の処理について

この調査は、統計的に処理をするため、皆さまの個人的なことは一切公表いたしません。

この調査を、今後とも有効に役立てたいと思います。

・アンケート表の回収について

お手数をおかけいたしますが、アンケートと同時に渡しました封筒に同封の上 月 日までにポストにご投函下さい。

手元に届かない場合は電話をいたしましてから、改めてお宅におうかがいいたしますのでよろしくお願いいたします。

・調査者は「とうきゅう環境浄化財団」から研究助成金を受けて、下記の者が行っております。

お問い合わせは下記の所までよろしくお願いいたします。

住 所： 〒153 目黒区目黒1-3-23 マンション目黒苑 アトリエ221

電 話： 03(493)1335

責任者： 立花直美

担 当： 喜多野 薫

Q 1. 現在お住まいの住宅と周辺の環境についてうかがいます。

次の項目について、それぞれ①②のいずれかに○印をしてください。

		① 現在の ままでよい	② なんとか してほしい
1	災害に対する安全性		
2	安全な子供の遊び場		
3	住居前面道路の安全性		
4	きれいな空気		
5	周辺の緑や自然環境		
6	きれいな水辺や河原		
7	自由に遊べる広場		
8	公園・公開庭園		
9	児童公園		
10	見はらしのよさ		
11	散策できる緑の小径や雑木林		
12	農地周辺(たんぼ、畑など)		
13	周辺の清潔		
14	街並のよさ		
15	空地		
16	神社・寺院の境内		
17	十分な敷地の広さ		
18	十分な庭の広さ		
19	住居形態への希望		
20	十分な住居の広さ		
21	十分な部屋数		
22	窓から見える緑		
23	窓からの眺望		
24	風通しのよさ		
25	日当りのよさ：部屋		
26	日当りのよさ：庭		
27	湿気や結露がない		
28	騒音・振動・悪臭がない		
29	周辺の風紀		
30	土地柄のよさ		
31	圧迫感がないこと		
32	散歩できる道		
33	日帰りの旅を楽しめる所		
34	泊りがけで旅を楽しめる所		

Q 2. 身近にある広場や公園へお出かけになることがあるでしょうか、

以下の項目に、あなたの場合とお子さんの場合と別々に○印をしてください。

名 称	あなた		子ども		あなた		子ども		あなた		子ども		あなた		子ども		あなた		子ども	
	① 多摩川及びその支流	② 多摩川以外の木辺・河原	③ 広 場	④ 空 地	⑤ 子供の遊び場	⑥ 神社の境内	⑦ 緑の小径や雑木林	⑧ 農地周辺	⑨ 公園											
1.そこへ行きますか。	はい		いいえ																	
2.どういう手段で行きますか。	①徒歩		②自転車		③交通機関		④車													
3.そこまでどれくらい時間がかかりますか。(2の手段で)	①10分以内		②11～30分		③31～60分		④1～2時間		⑤2時間以上											
4.どの位の頻度で行きますか。	①毎日		②週2～3回		③週1回		④月2～3回		⑤月1回		⑥年数回		⑦ほとんど行かない							
5.そこでの滞在時間はどのくらいですか。	①1時間以内		②2～3時間		③半日位		④1日中													
6.もしその場所がない時はどうしますか。	①あきらめる		②遠くても似た場所を探す		③他の種類の行動にかえる															
7.あなたにとってその場所は必要ですか。	①必要である		②なければなくともよい		③むしろない方がよい															

Q 3. 多摩川についてうかがいます。あなたの場合は○印お子さんの場合は△印をつけてください。

1. 多摩川には行ったことがありますか。

	1. はい
	2. いいえ

地図によく行く所(2回以上)には◎印、1回でも行ったことのあるところは○印、さらにお宅からのルートを記入してください。

以下、1.はいとおこたえの方にうかがいます。

SQ1. 多摩川では主に何をしていますか。いくつでも○印をしてください。

	1. 野球など施設を必要するスポーツ		7. 散歩
	2. サイクリング		8. 水遊び
	3. マラソン・ジョギング		9. 生きものをつかまえる
	4. 釣り		10. 子供のつきあい
	5. ピクニック		11. 買物や親類宅を訪れたついで

SQ2. 多摩川に行く回数に変化はありますか。

	1. 増えた
	2. 変わらない
	3. へった
	4. 季節によって増えたりへったりする。
	5. その他[]

SQ3. それはなぜですか。(全員こたえてください。)

	1. 最近川がきれいになったので		5. 子供にせがまれるから
	2. 川原が整備されたので		6. 人が多いから
	3. なじみ深いから		7. 川が汚れたりゴミが多いから
	4. いつもきれいにしているから		8. その他[]

Q 4. 子どもの遊びについてうかがいます。(小学生以下)

1. 近くに子どもが安全に遊べる場所がありますか。

	1. はい
	2. いいえ

2. 子どもはどんなところで遊んでいますか。(いくつでも○印をしてください)

	1. 道路又は路地裏		6. 寺や神社の境内
	2. 空地		7. 雑木林等緑地
	3. 広場		8. 住宅の庭
	4. 公園		9. 水辺や河原
	5. 運動場		10. その他[]

Q 5. 下記の場所は、お宅からどの位の時間でいける場所にあればよいですか。

- ① 交通手段（1.徒歩 2.交通機関を使って 3.不必要）
 ② a～eの適当と思う所に○印（いまある、ないにかかわらず希望として）
 ③ 今、希望するところにあるものに○印、ないものに×印

方法と時間 訪施設や場所	①			a 10分以内	b 11～30分	②			③ ○×
	1	2	3			c 31～60分	d 1～2時間	e 2時間以上	
1.子どもが遊べる空地									
2.自由に遊べる広場									
3.きれいな水辺や河原									
4.緑の小径や雑木林									
5.見晴らしのよい所									
6.散歩できる道									
7.児童公園									
8.公園									
9.ランド									
10.体育施設（体育館など）									
11.レクリエーション・レジャーエリア									
12.図書館									
13.博物館・美術館									
14.劇場・コンサートホール・映画館									
15.日常的な買物をする商店									
16.盛り場・繁華街									
17.高級名店街									
18.高級レストラン									
19.喫茶店・スナック・パーラー									
20.公民館・市民会館									
21.勤務先（職場）									

Q 6. あなたとご家族についてうかがいます。

1. あなたの性別は

	1. 男
	2. 女

2. あなたの年齢は

	才
--	---

3. あなたの就業形態は①欄に主たる家計支持者は②欄に○印をしてください。

なお、あなたが家計支持者の場合は①のみ記入してください。

	① 本人	② 世帯主
1. 自営業主		
2. (自営業の)家族従業員		
3. 常用勤務者		
4. パートタイムの勤務者		
5. 内職従事者		
6. 無職		

4. 家族構成についてうかがいます。①にはいっしょに○印をつけてください。その時()内に人数を記入してください。②はあなた自身があてはまる欄に○印をしてください。(下宿人、一時的な同居人は除きます)

	①	②本人
1. 世帯主		
2. 配偶者		
子 ど も	3. 乳幼児 ()人	
	4. 小学生 ()人	
	5. 中学生 ()人	
	6. 高校生 ()人	
	7. 大学生 ()人	
	8. 社会人 ()人	
9. 世帯主・配偶者の父母 ()人		
10. 世帯主・配偶者の兄弟姉妹 ()人		
11. 上欄以外の同居人 ()人		

これでアンケートはおわりです。

アンケートにご協力ありがとうございました。

資 料 編

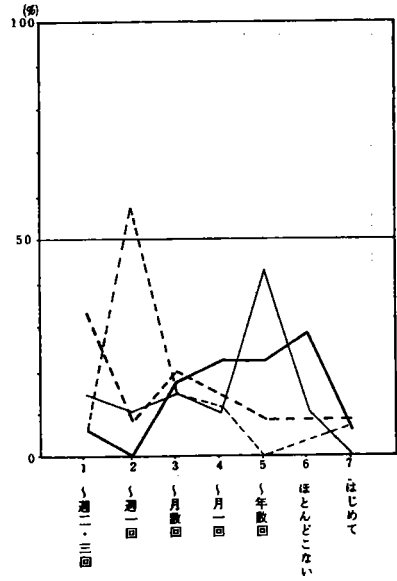
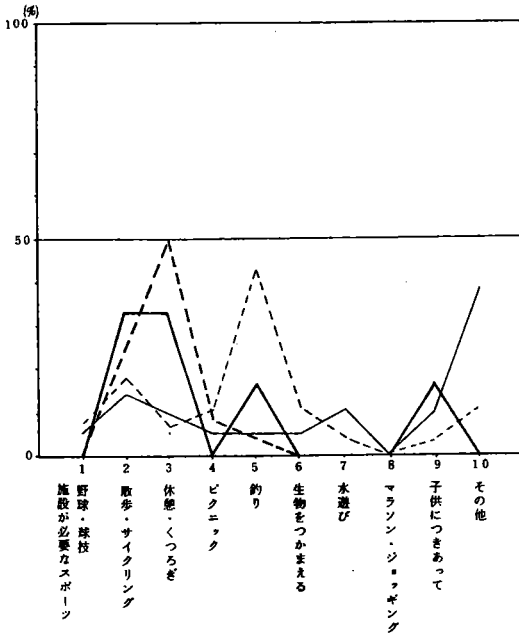
春季河川敷アンケート結果

アンケート時の利用者の行動

Q 1 多摩川にはよくきますか

— A永田 21人
 - - - B是政 28人
 — C二子 18人
 - - - D丸子 36人

— A永田 21人
 - - - B是政 28人
 — C二子 18人
 - - - D丸子 36人

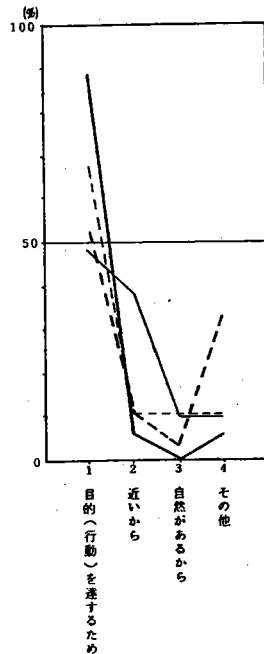
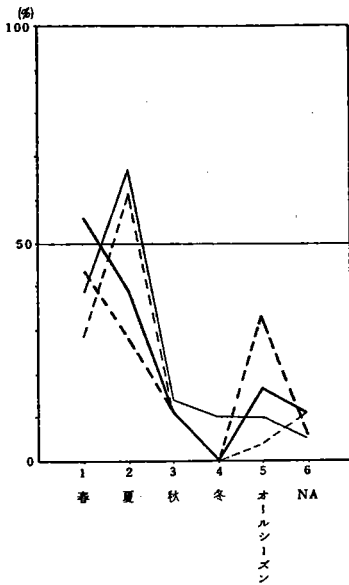


Q 2 1年のうち、どの季節に多摩川を訪れることが多いですか

Q 3 多摩川へ足をむけるきっかけは何ですか

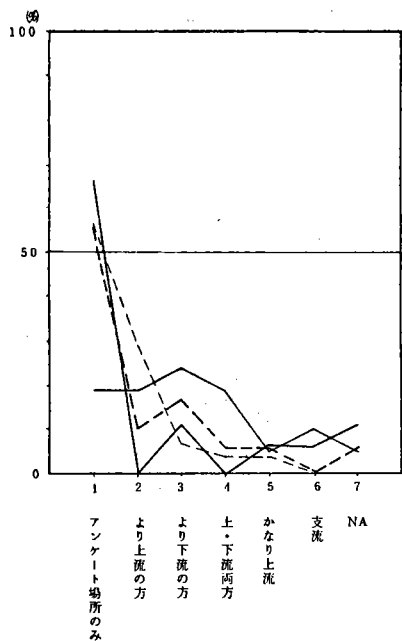
— A永田 21人
 - - - B是政 28人
 — C二子 18人
 - - - D丸子 36人

— A永田 21人
 - - - B是政 28人
 — C二子 18人
 - - - D丸子 36人



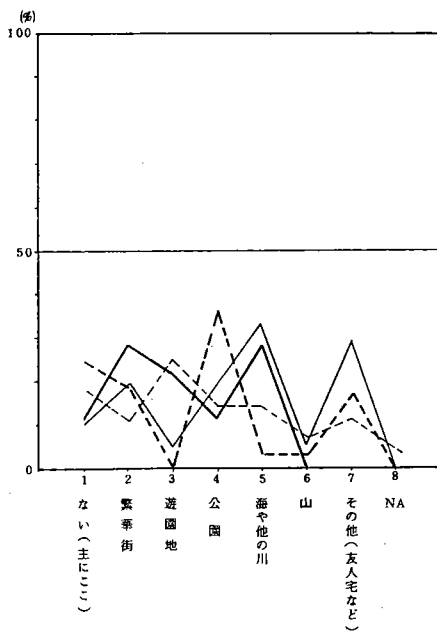
Q 4 多摩川の川原では他のどのあたりにいきますか

— A 永田 21人
 --- B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - - D 丸子 36人



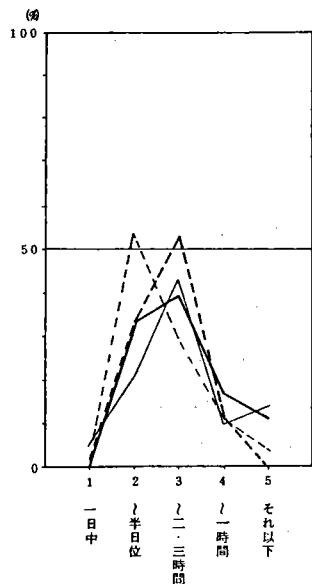
Q 5 多摩川以外によく出かける場所はどこですか

— A 永田 21人
 --- B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - - D 丸子 36人



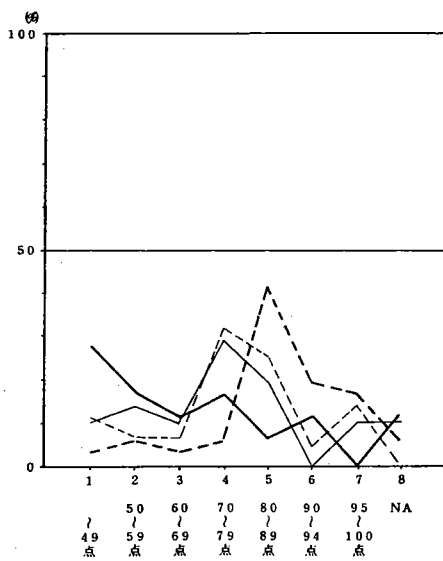
Q 7 どのくらいここで時間をすごしますか

— A 永田 21人
 --- B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - - D 丸子 36人

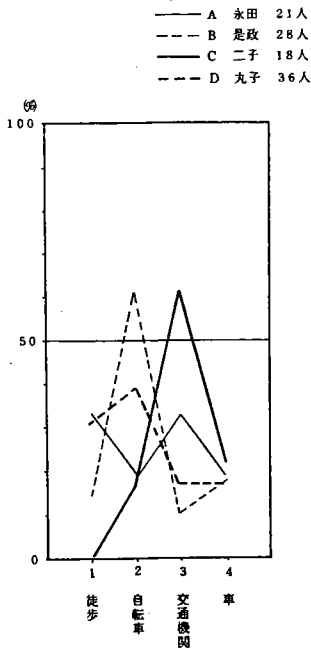


Q 8 多摩川のいごちは何点ぐらいですか

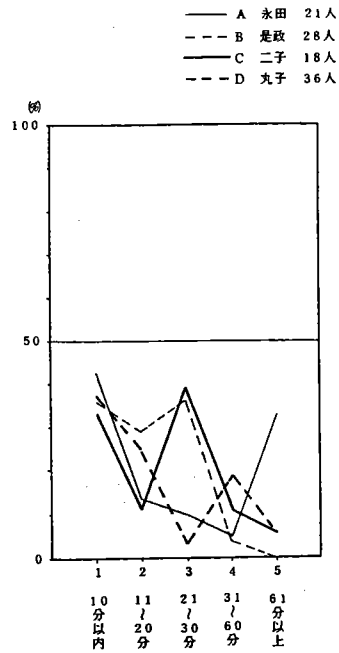
— A 永田 21人
 --- B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - - D 丸子 36人



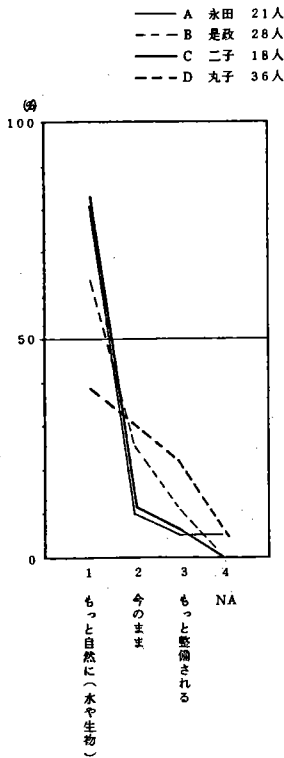
Q 9 多摩川へはどうやってきますか(手段)



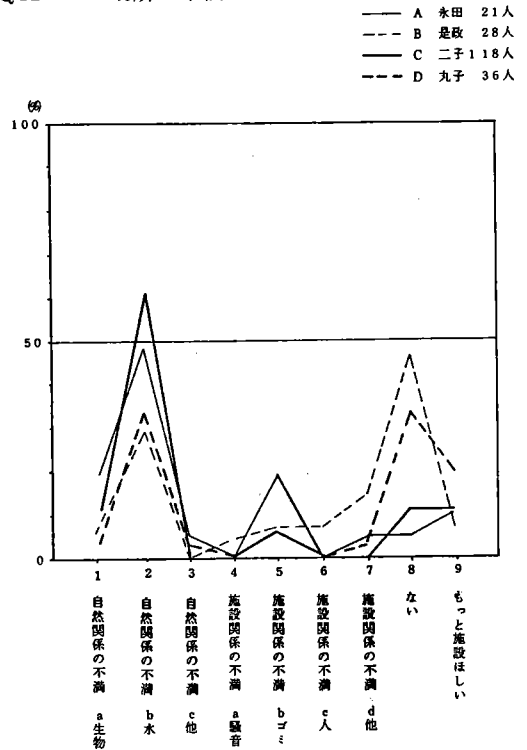
Q 10 何分ぐらいかかります(9の手段で)



Q 11 多摩川がどのようになるのを望みますか



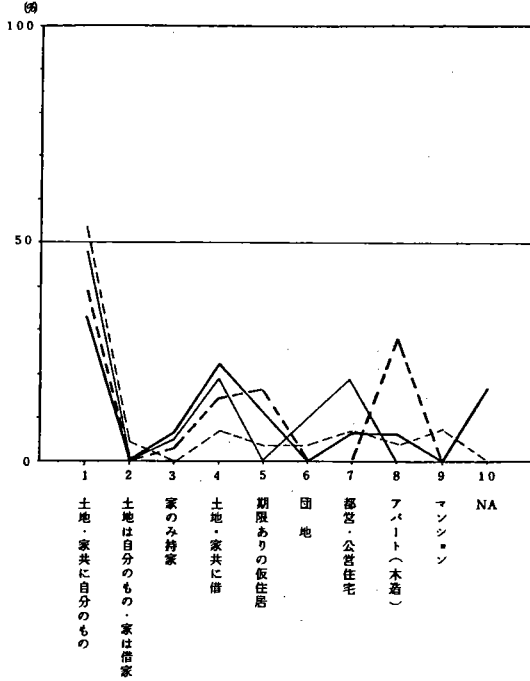
Q 12 この場所に不満はありますか



Q 14 あなたのすまいについてうかがいます

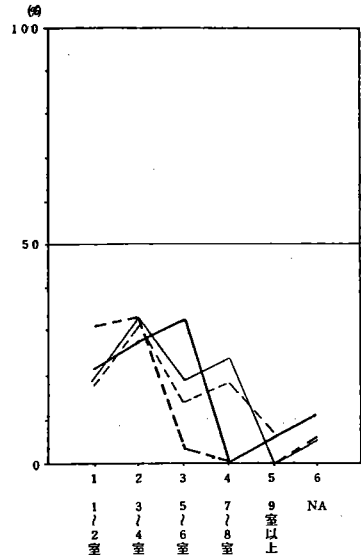
1) 持家ですか

— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



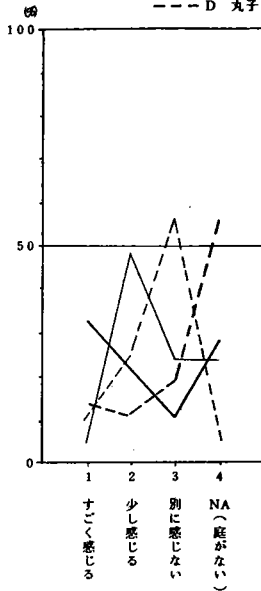
2) 部屋数

— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



5) 庭をながめてやすらぎますか

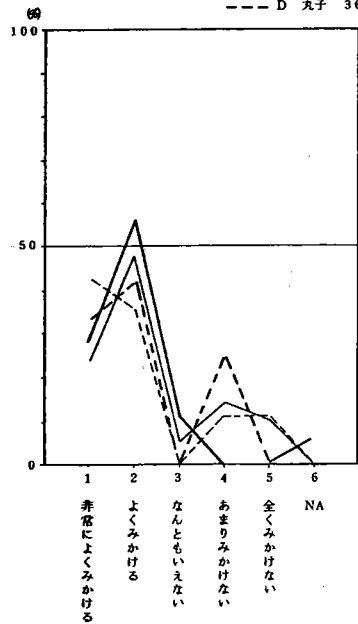
— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



Q 15 子供の遊びについてうかがいます

1) 戸外で遊んでいる子供をみかけることがありますか

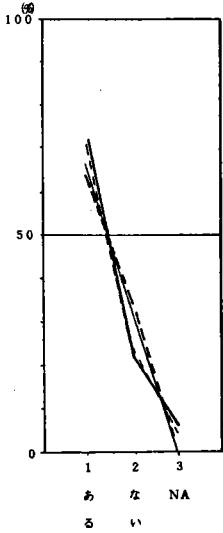
— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



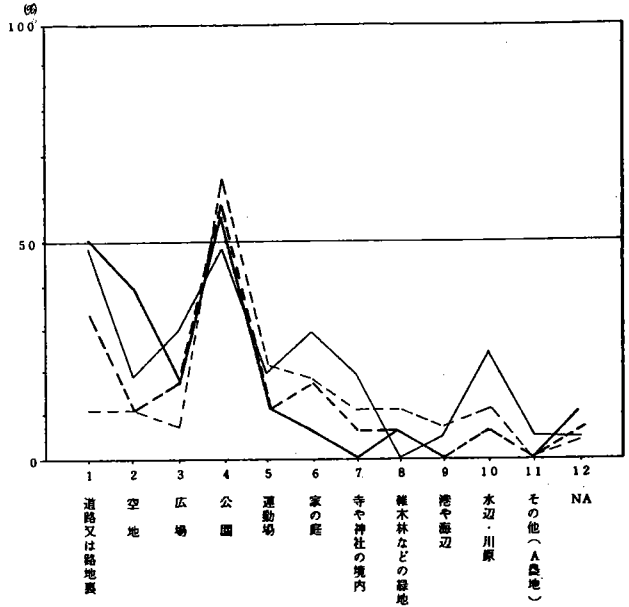
2) 近くに子供が安全に遊べる場所がありますか

3) 子供はどんなところで遊んでいますか(いくつでも)

— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人

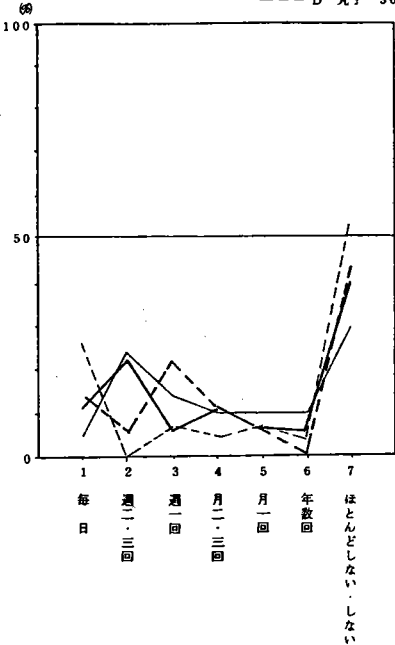


Q 16 散歩についてうかがいます

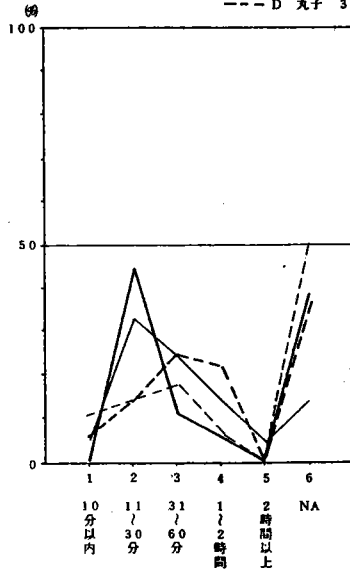
2) 時間はどれくらいですか

1) 家の近くを散歩することがありますか
 -何回位-

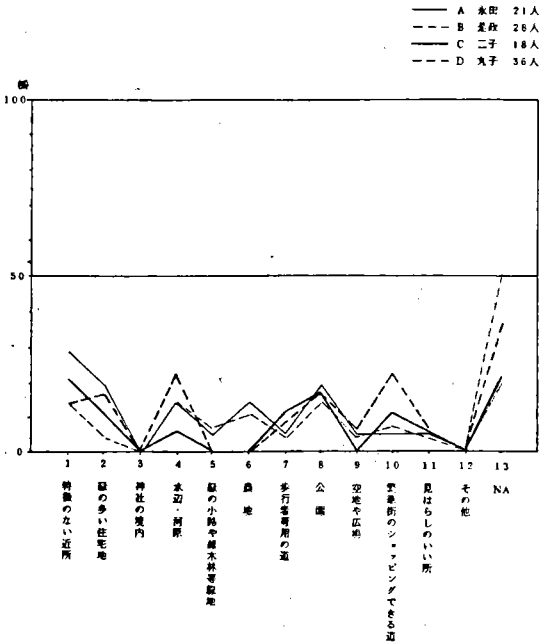
— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



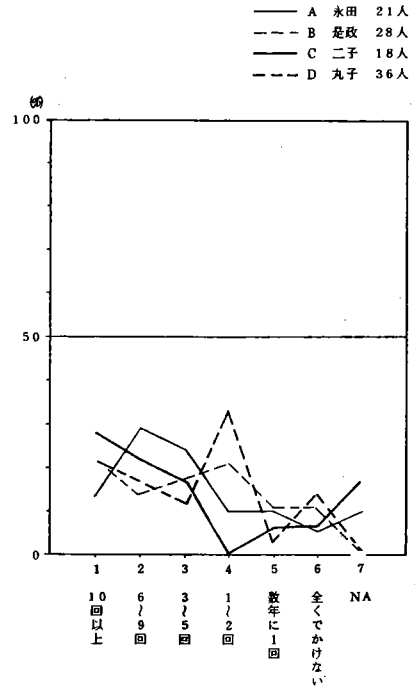
— A 永田 21人
 - - B 是政 28人
 — C 二子 18人
 - - D 丸子 36人



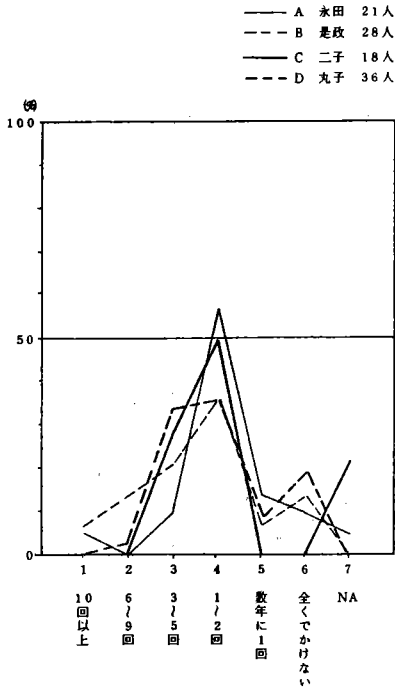
3) どんなどころを歩きますか(いくつでも)



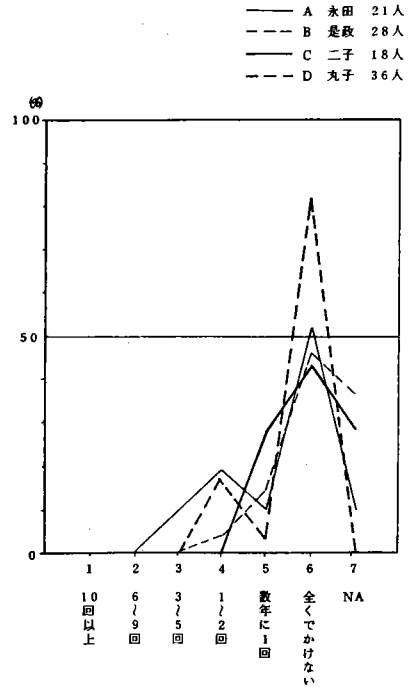
Q 17 行楽として年に何回位旅行しますか
1) 日帰り



2) 泊りがけ

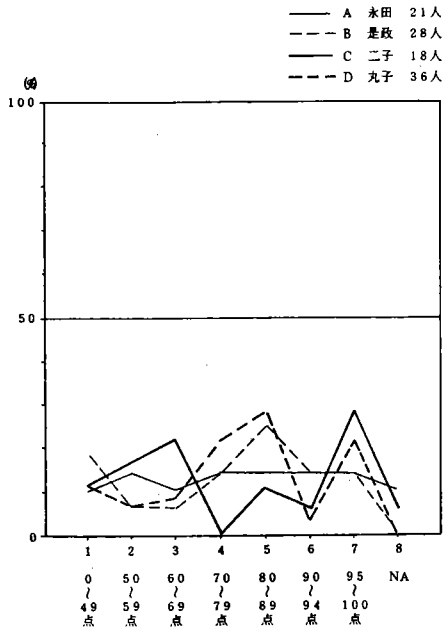


3) 長期滞在

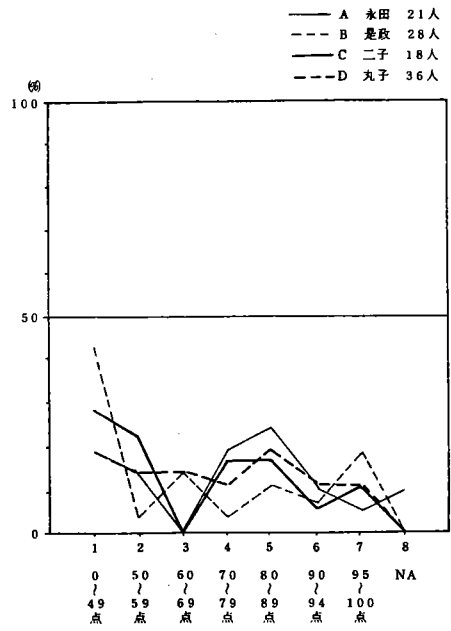


Q 18 すまいにどのくらい満足していますか。100点満点で教えてください

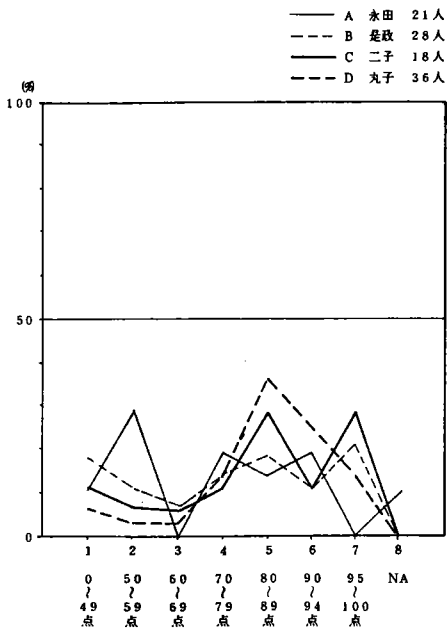
① 今の住居にどのくらい満足していますか



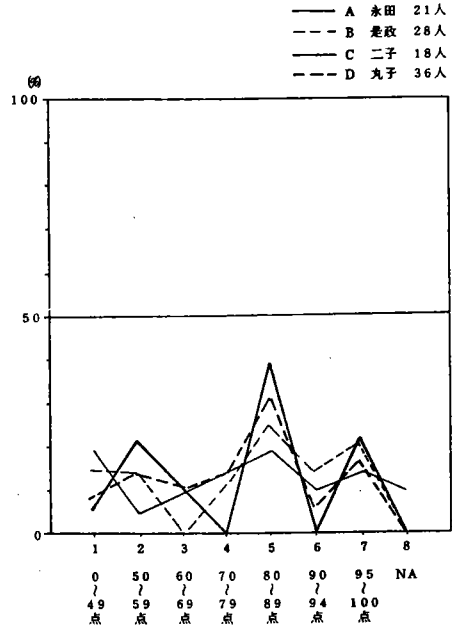
② 今のすまいのまわりの環境にどれくらい満足していますか



③ その地域の交通・買物の便・公共施設など生活関連全般にはどれくらい満足していますか



④ その地域の人間関係にどれくらい満足していますか

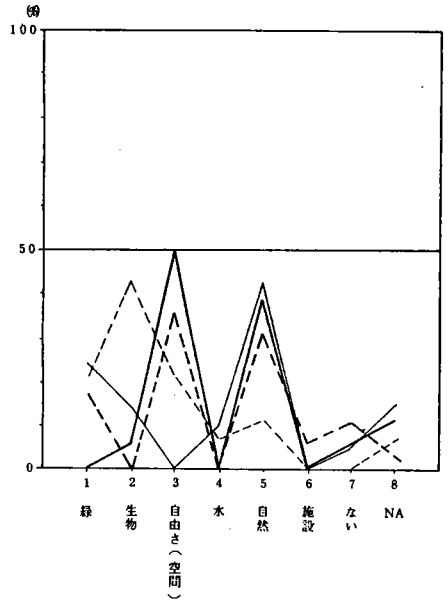
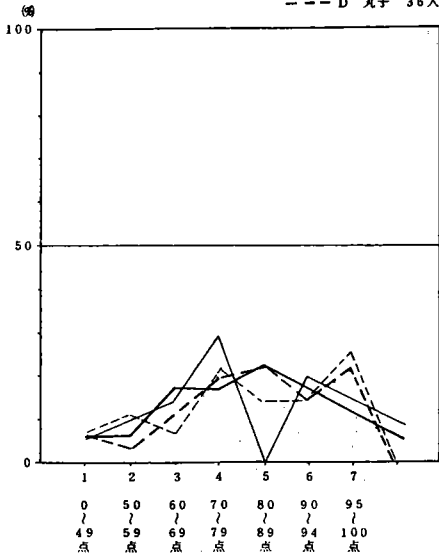


⑤ 今おすまいのところは全体としてどれくらい満足できると思いますか

Q 21 多摩川の一番いいところは何だと思いますか

—— A 永田 21人
 - - - B 是政 28人
 —— C 二子 18人
 - - - D 丸子 36人

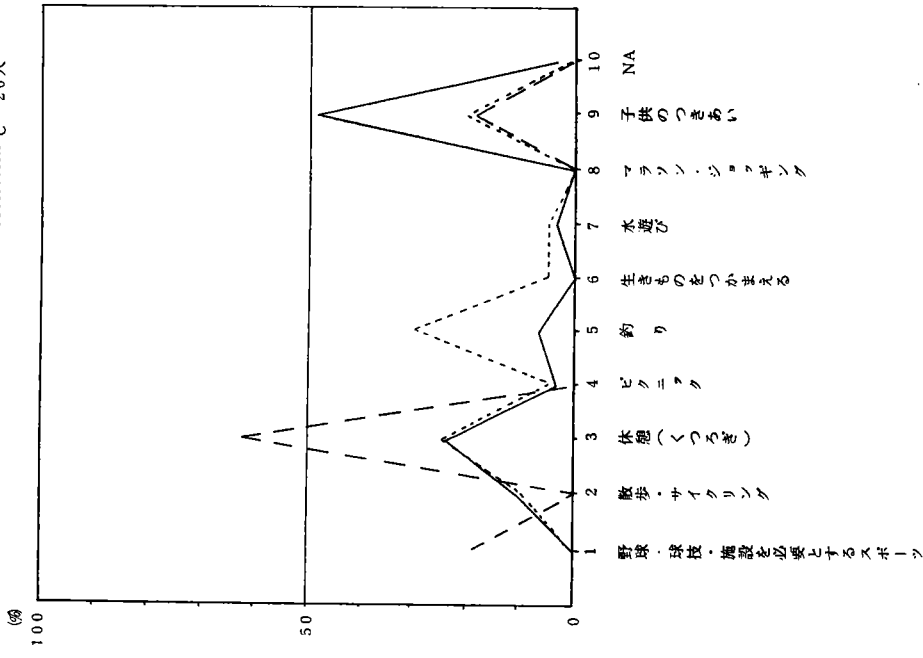
—— A 永田 21人
 - - - B 是政 28人
 —— C 二子 18人
 - - - D 丸子 36人



夏季アンケート調査結果

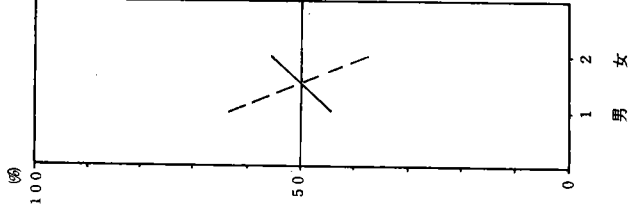
アンケート時の利用者の行動

— A 29人
- - B 16人
..... C 20人



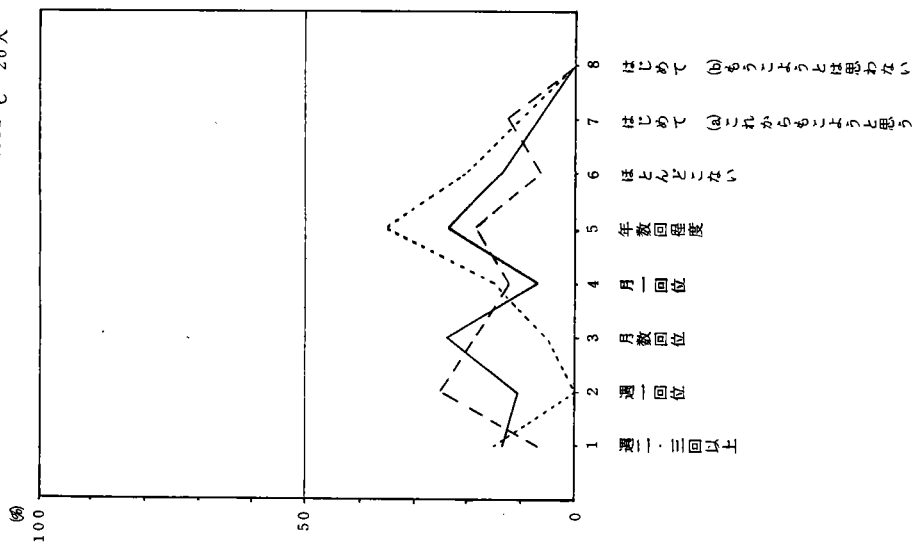
性別

— A 29人
- - B 16人
..... C 20人

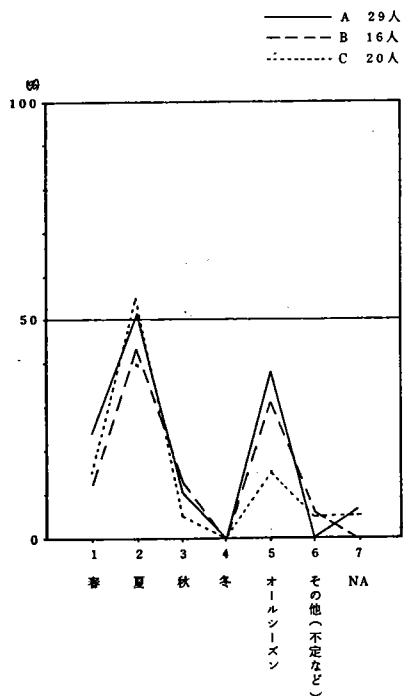


Q1 多摩川にはよくきますか

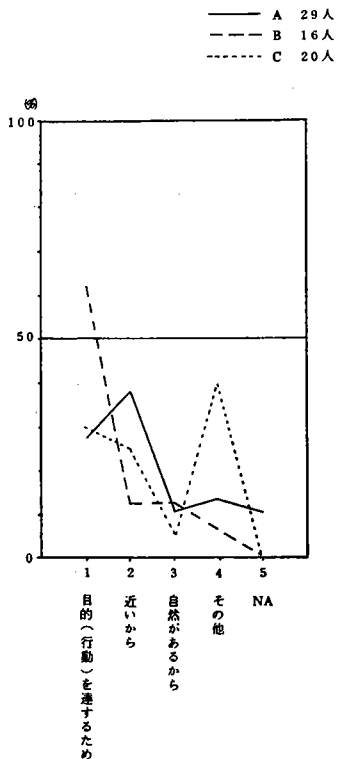
— A 29人
- - B 16人
..... C 20人



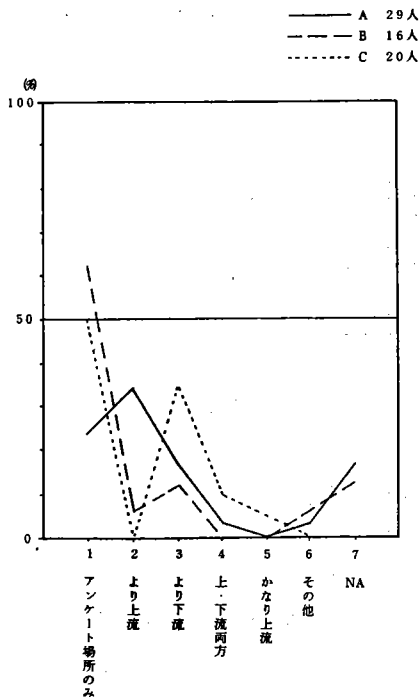
Q 2 1年のうちのどの季節に多摩川を訪れることが多いですか



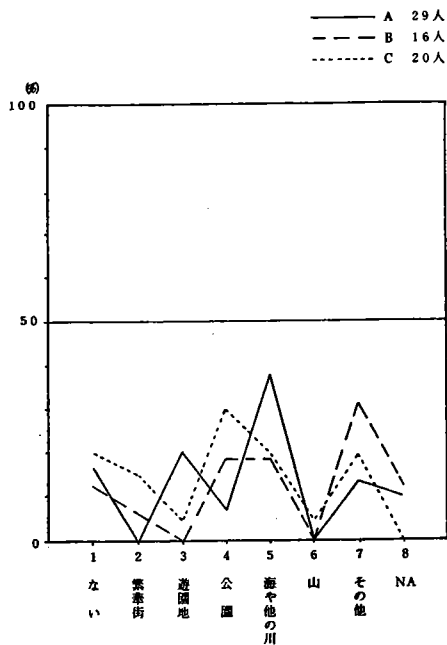
Q 3 多摩川に足を向けるきっかけは何ですか



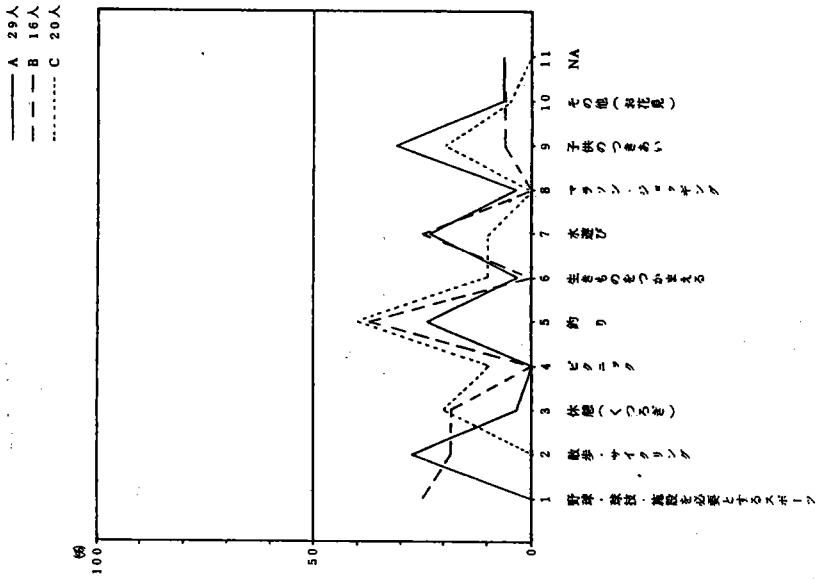
Q 4 多摩川の川原では、他にどのあたりへよくいきますか



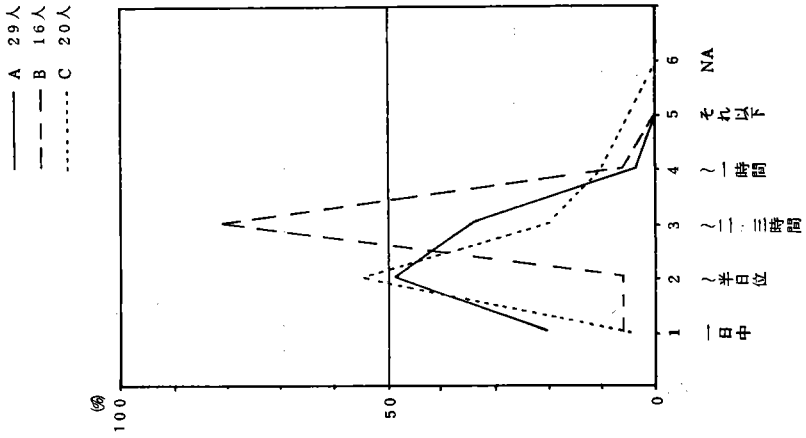
Q 5 多摩川以外によく出かける場所はどこですか



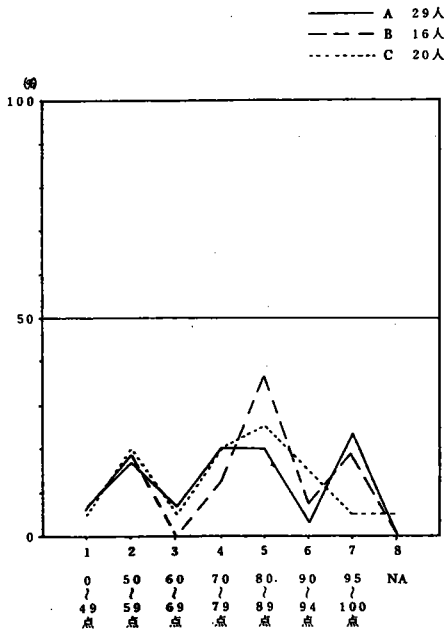
Q 6 多摩川では主に何をしていますか



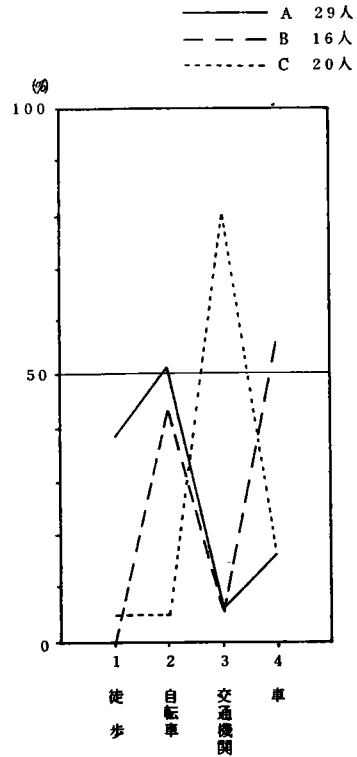
Q 7 どのくらいここで時間をすごしますか



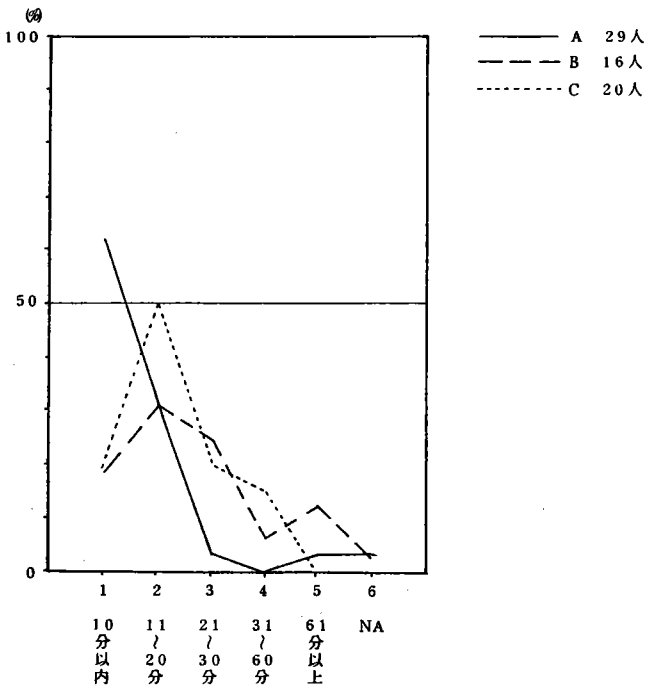
Q 8 多摩川のいごちは何点ぐらいですか



Q 9 多摩川へはどうやってきますか

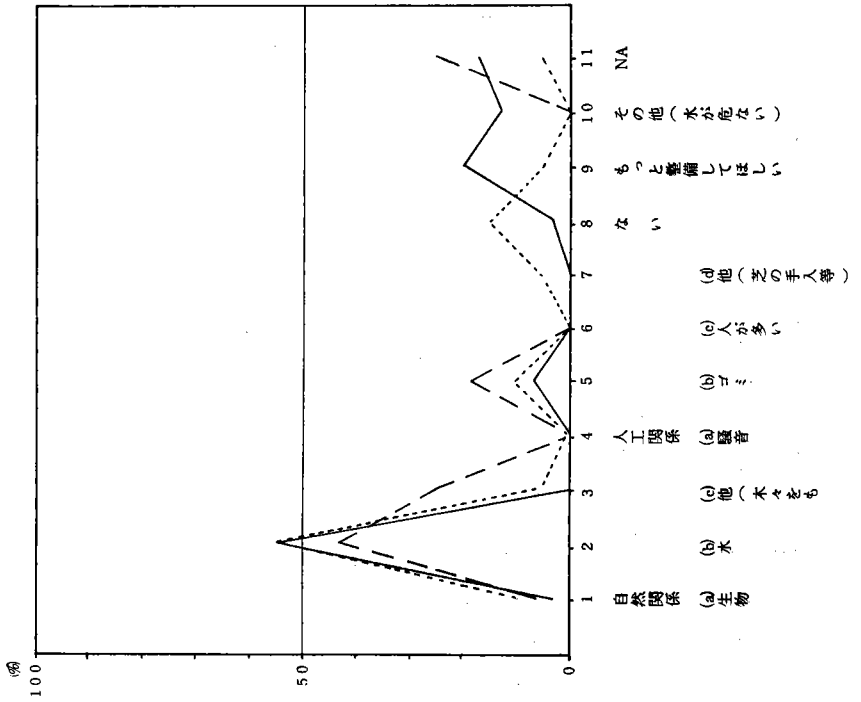


Q 10 何分ぐらいかかりますか (Q 9の手段で)



Q11 多摩川がどのようなのを望みますか

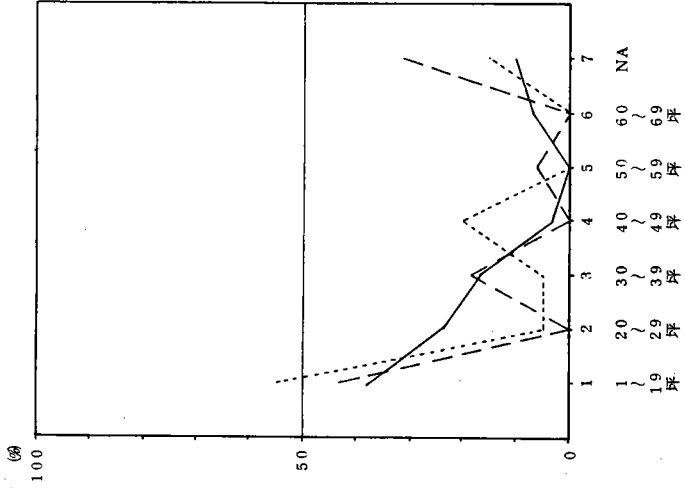
— A 29人
 - - B 16人
 ····· C 20人



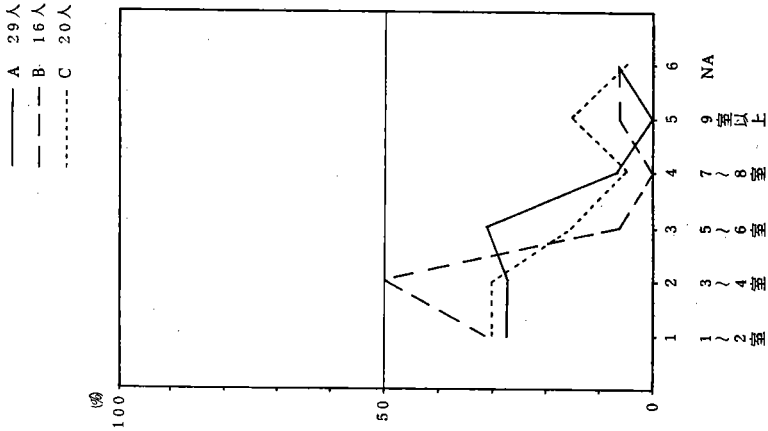
Q14 あなたのすまいについてうかがいます。

2) 床面積は？

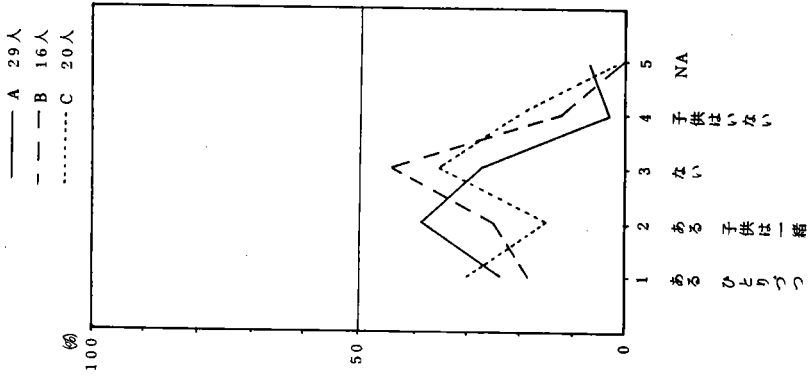
— A 29人
 - - B 16人
 ····· C 20人



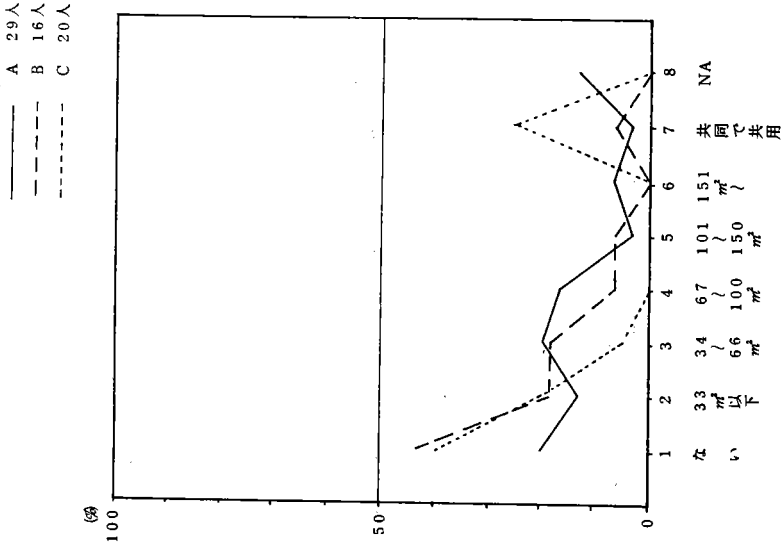
部屋数は？



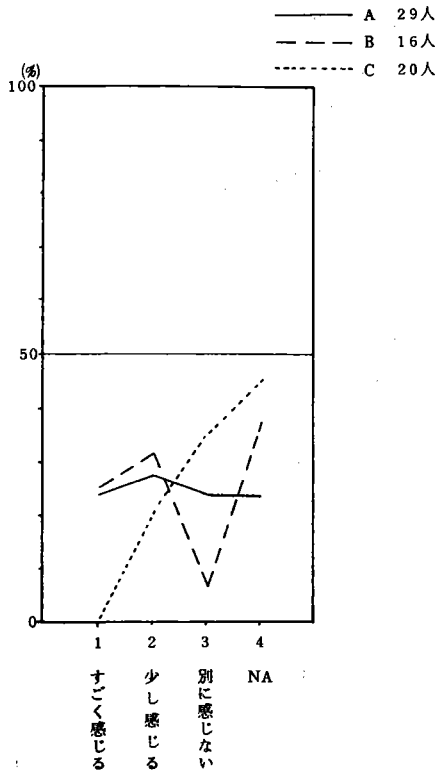
3) 子供専用の部屋はありますか



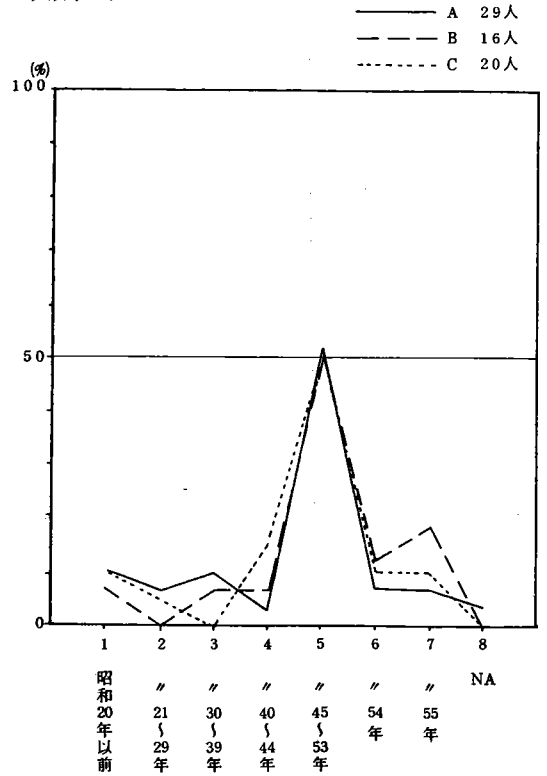
4) 庭はどれくらいありますか



5) 庭をながめてやすらぎを感じますか

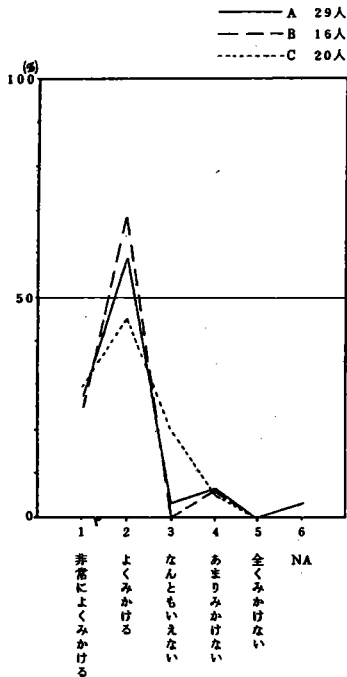


6) 居住年数は？

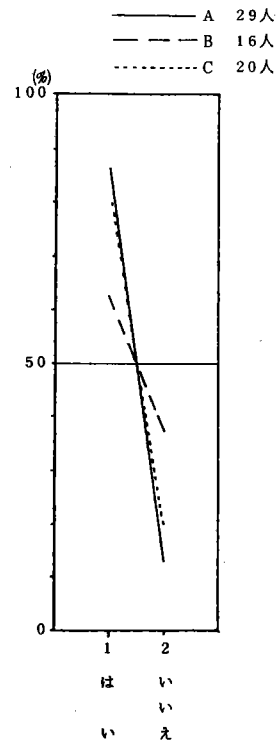


Q15 子供の遊びについてうかがいます

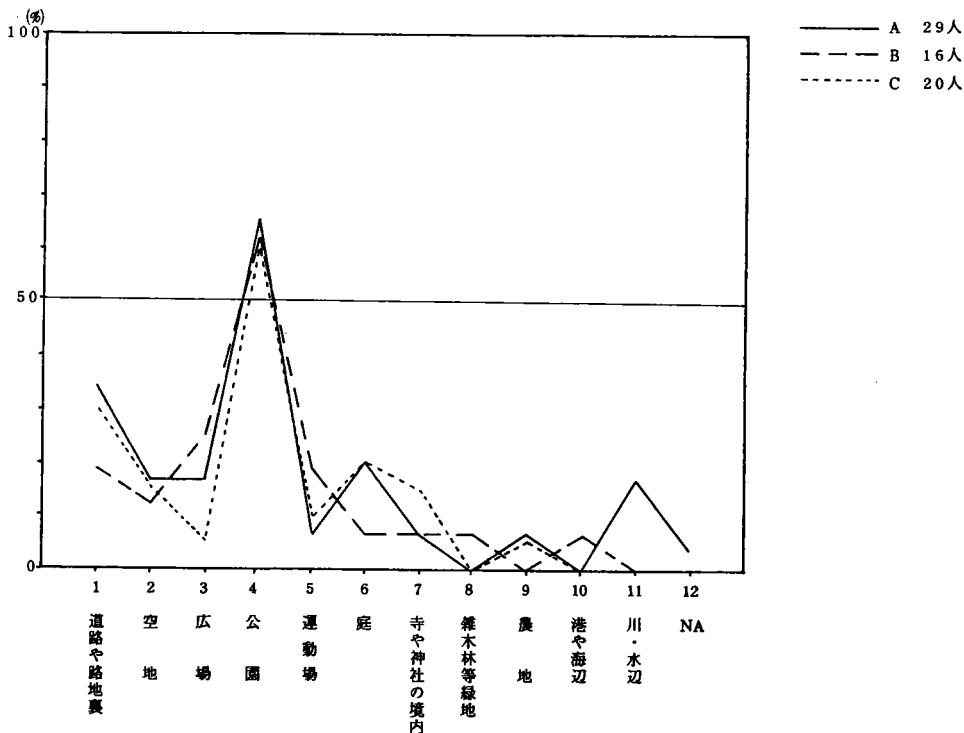
1) 戸外で遊んでいる子供をみかけることがありますか



2) 近くに子供が安全に遊べる場所がありますか



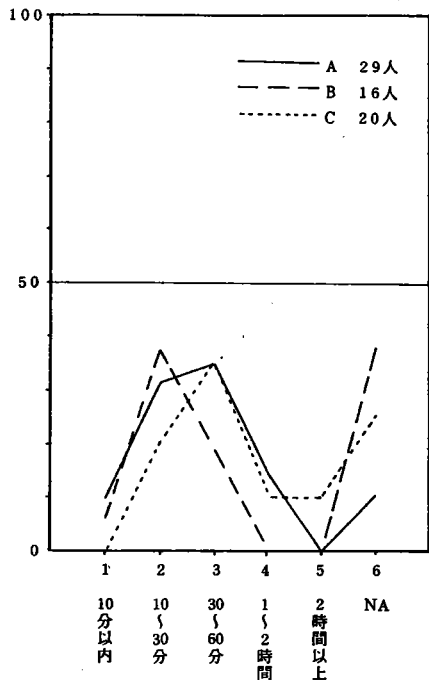
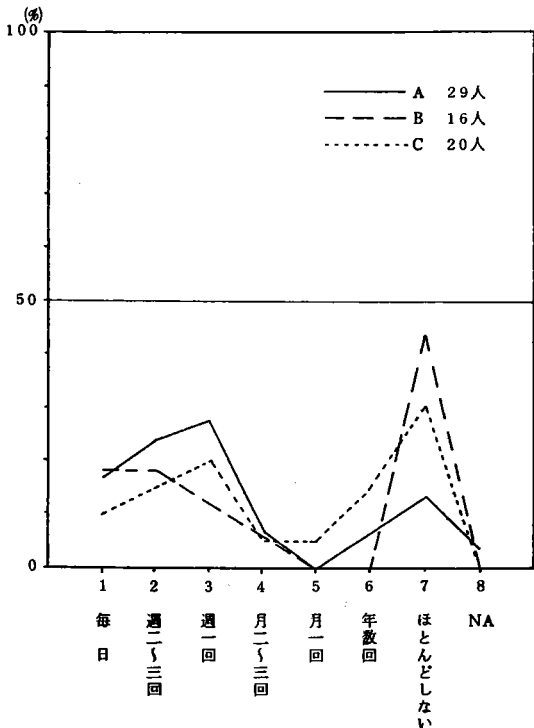
3) いつもどんなところで遊んでいますか



Q16 散歩についてうかがいます。

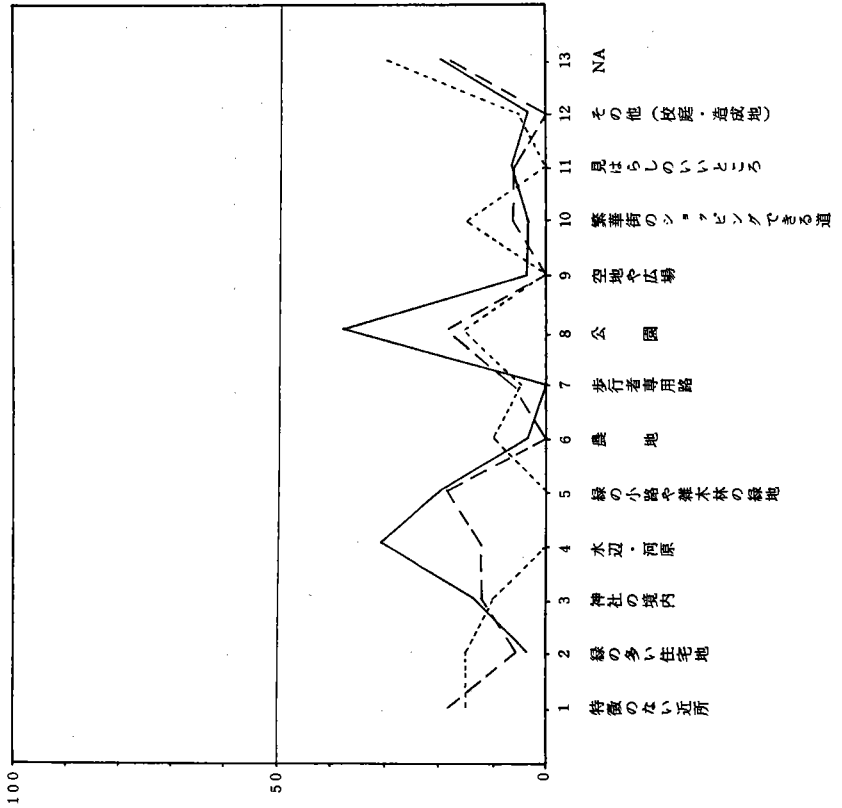
2) 時間はどれくらい？

1) 家の近くを散歩することがありますか



3) どんなところを歩きますか

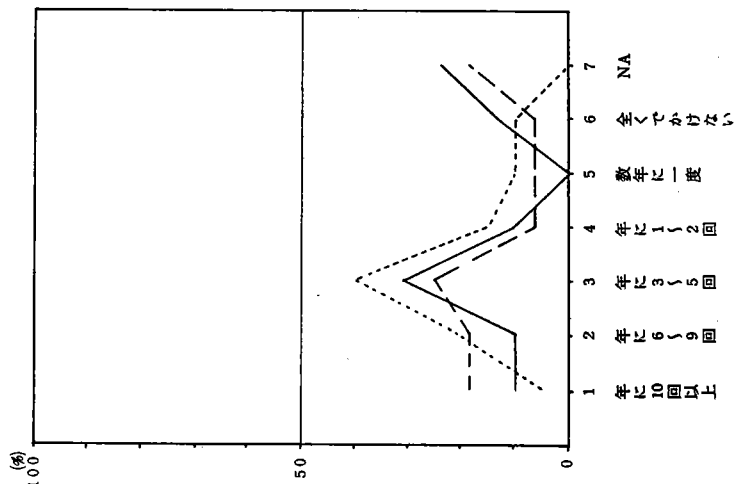
— A 29人
 - - B 16人
 ····· C 20人



Q17 行楽として年に何回位旅行しますか

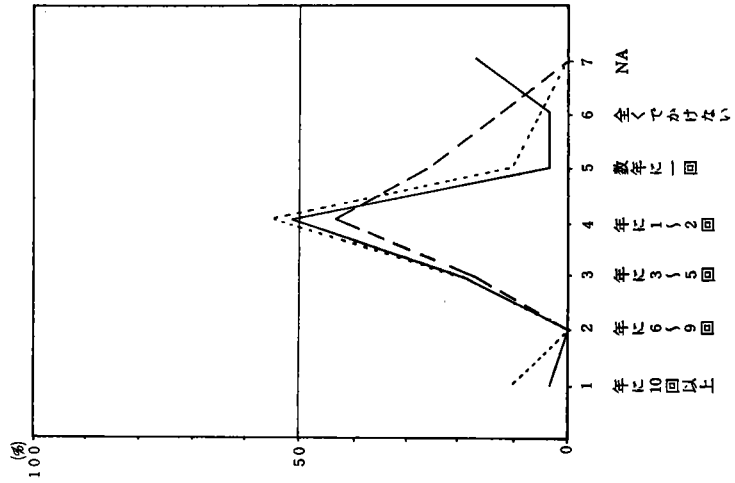
1) 日帰り旅行

— A 29人
- - B 16人
..... C 20人



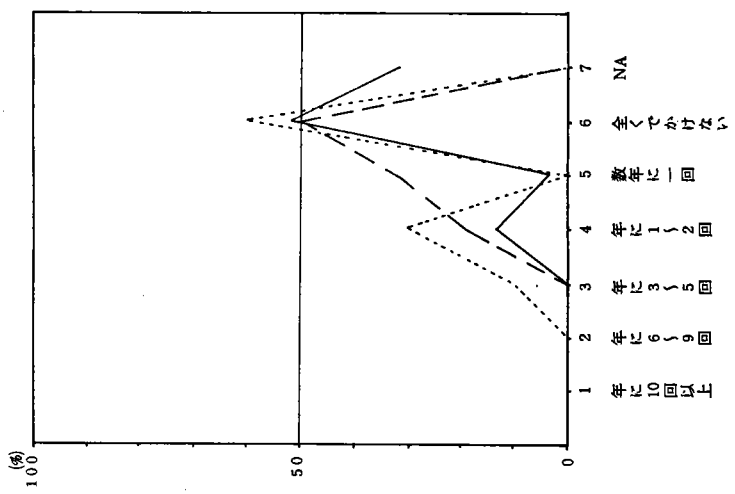
2) 泊りがけ旅行

— A 29人
- - B 16人
..... C 20人

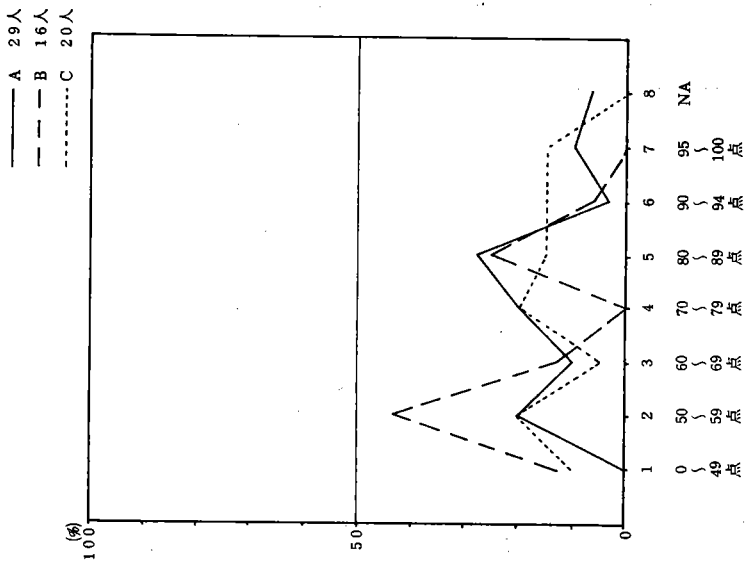


3) 長期滞在

— A 29人
- - B 16人
..... C 20人

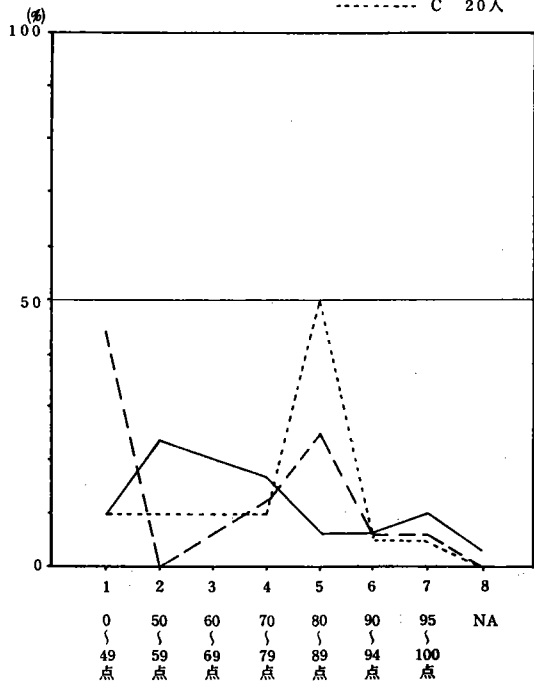


Q18 すまいにどのくらい満足していますか
 1) 今のすまいにどのくらい満足していますか



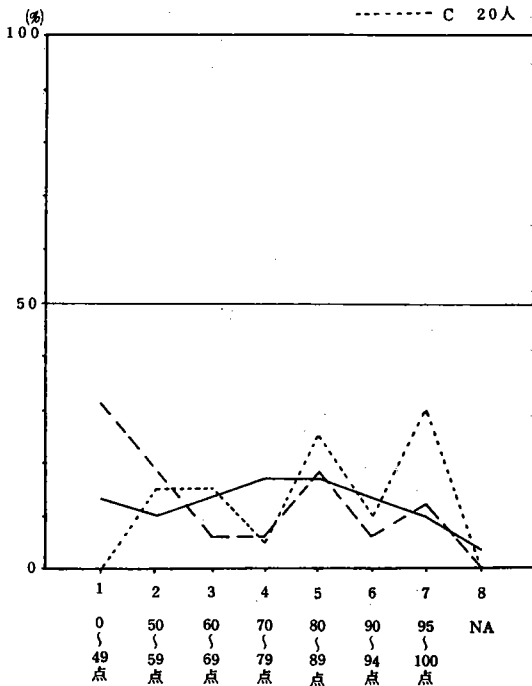
2) 今のすまいの周辺の環境はどれくらい満足
していますか

—— A 29人
- - - B 16人
- · - C 20人



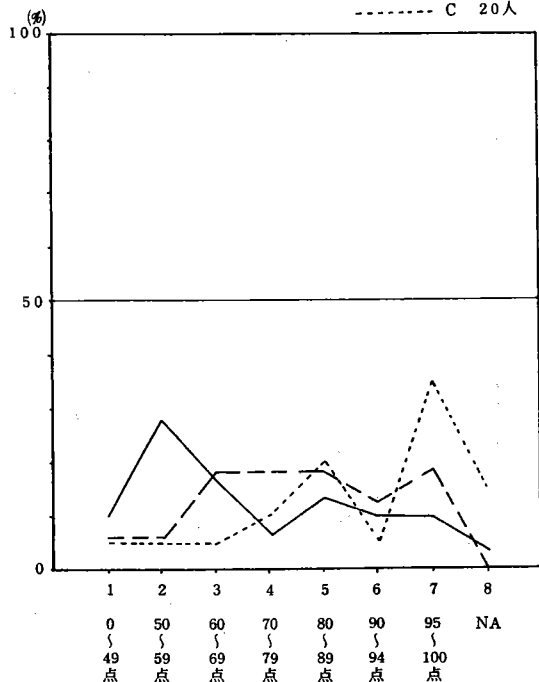
3) その地域の交通・買物の便・公共施設など
生活関連全般はどれくらい

—— A 29人
- - - B 16人
- · - C 20人



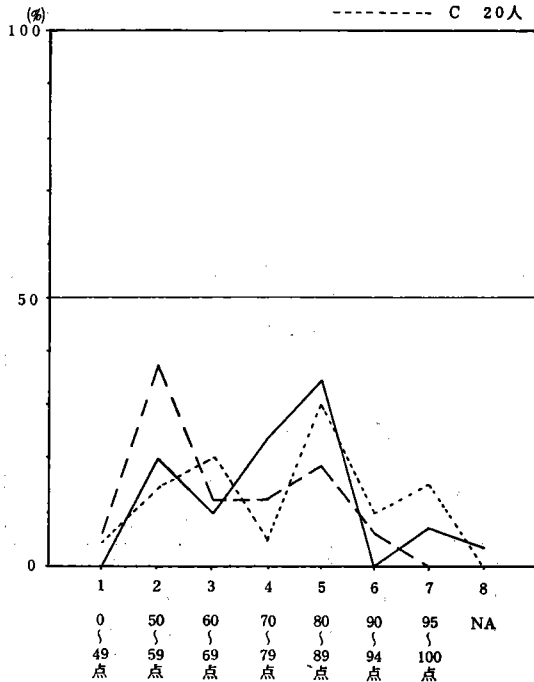
4) その地域の人間関係全般にどれくらい満足
していますか

—— A 29人
- - - B 16人
- · - C 20人

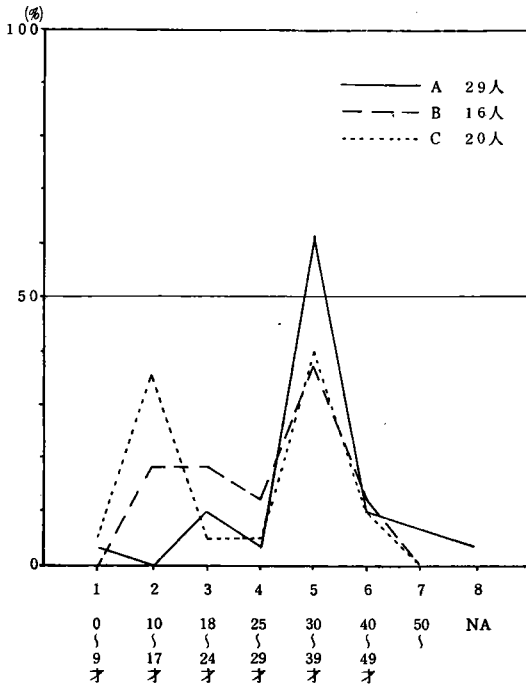


5) 今のすまいは全体としてどれくらい満足
できますか

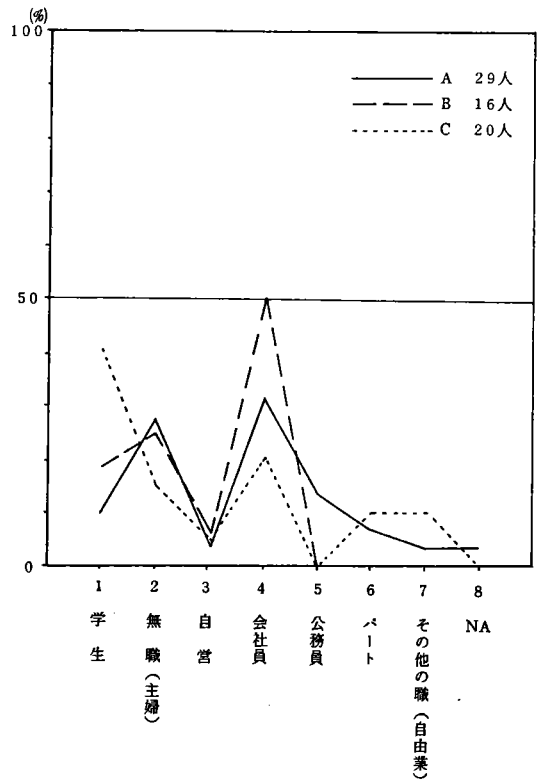
—— A 29人
- - - B 16人
- · - C 20人



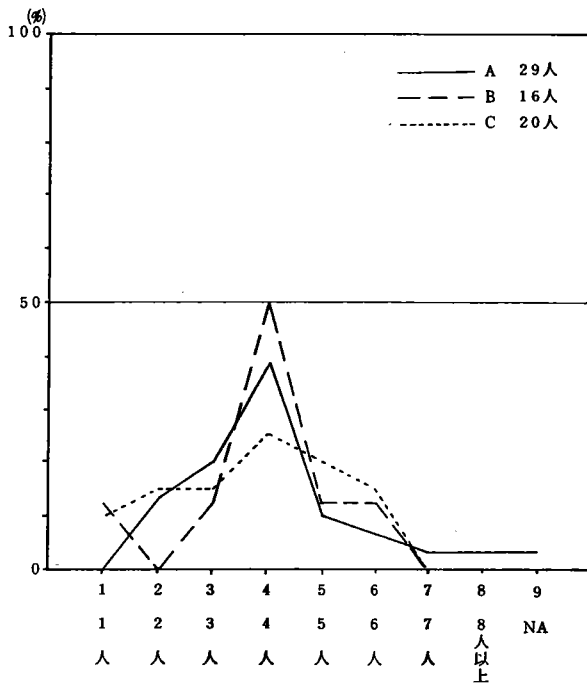
Q19 あなたの年は？



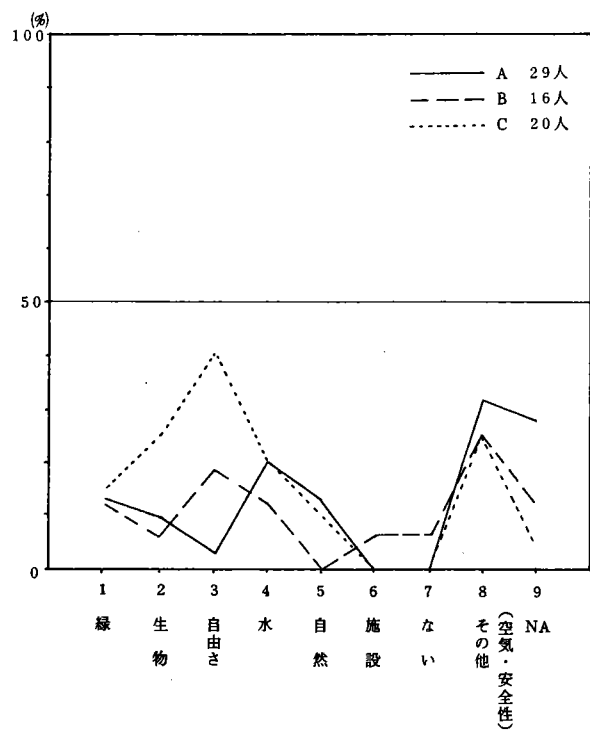
Q20 あなたの職業は？



Q21 家族構成は？



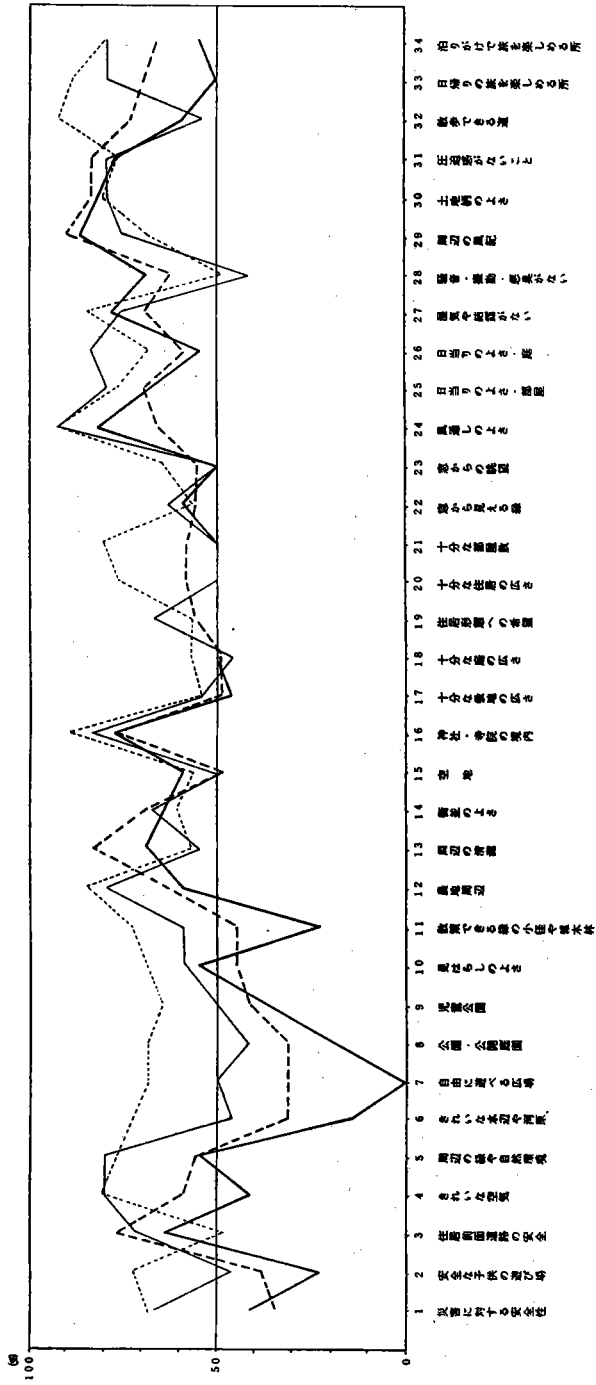
Q22 多摩川の一番いいところは？



居住地アンケート結果

Q1 現在お住まいの住宅と周辺の環境についてうかがいます。
現在のままでよい

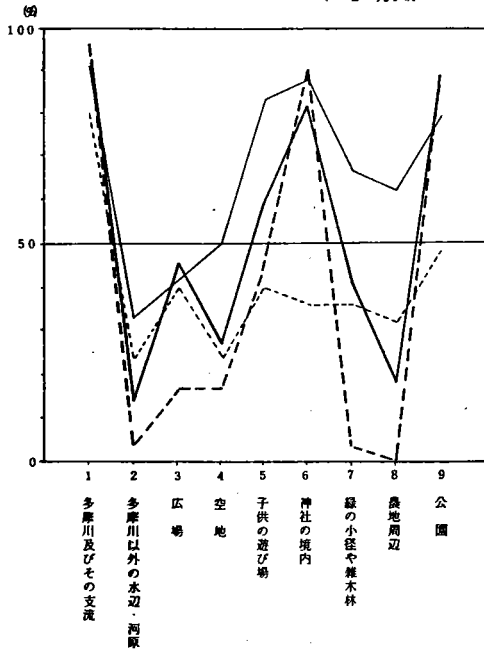
A 水田橋 24人
 B 船越橋 25人
 C 二子橋 22人
 D 大子橋 29人



Q 2 身近にある広場や公園へお出かけになることがあるでしょうか。本人と子供の場合別々

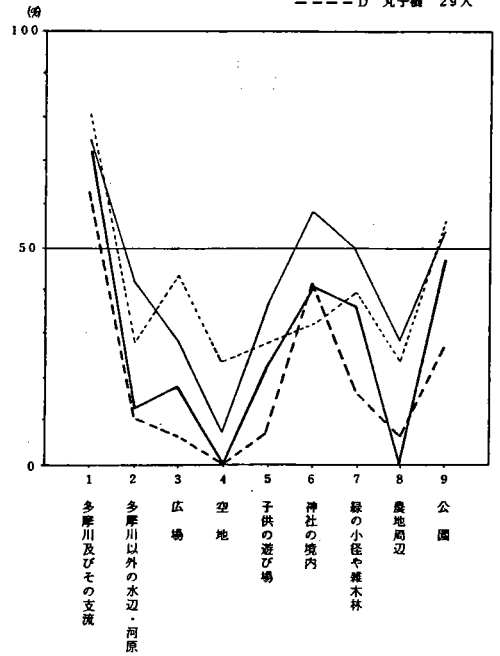
1. そのような場所はありますか(はい)

— A 永田橋 24人
 - - B 是政橋 25人
 — C 二子橋 22人
 - - D 丸子橋 29人



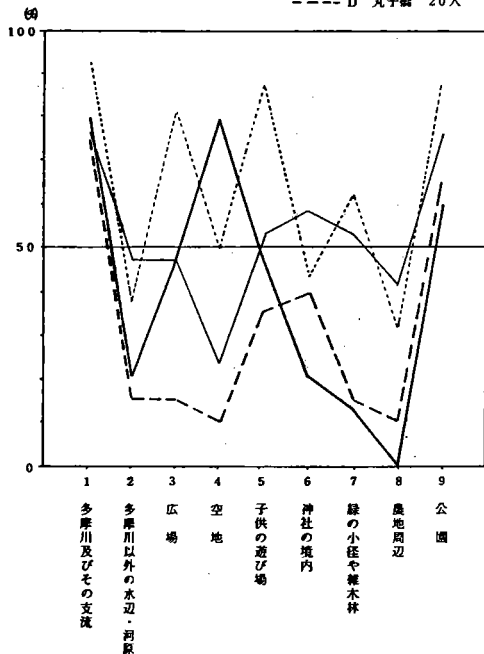
2. そこへ行きますか(あなた-はい)

— A 永田橋 24人
 - - B 是政橋 25人
 — C 二子橋 22人
 - - D 丸子橋 29人



2. そこへ行きますか(子供-はい)

— A 永田橋 17人
 - - B 是政橋 16人
 — C 二子橋 15人
 - - D 丸子橋 20人



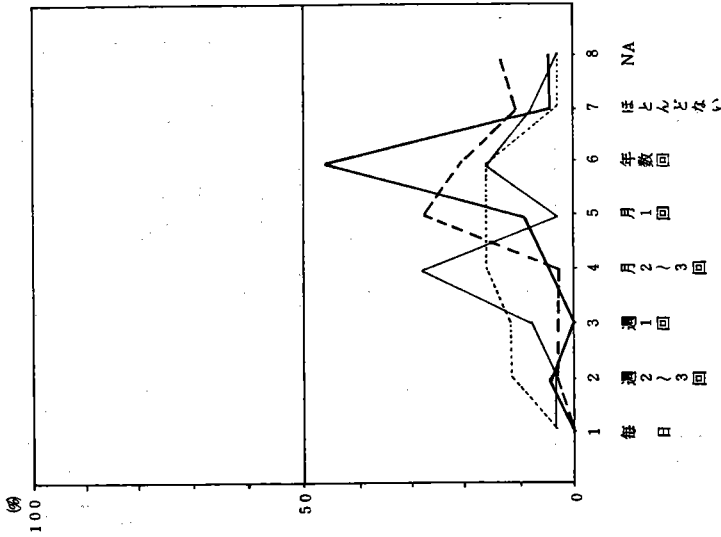
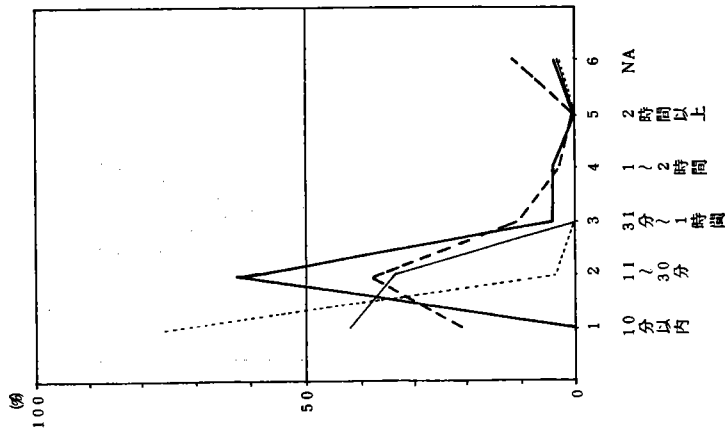
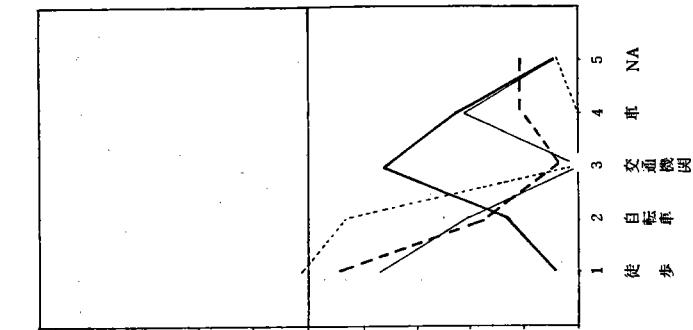
① 多摩川及びその支流

あなた

3)

4) かかる時間

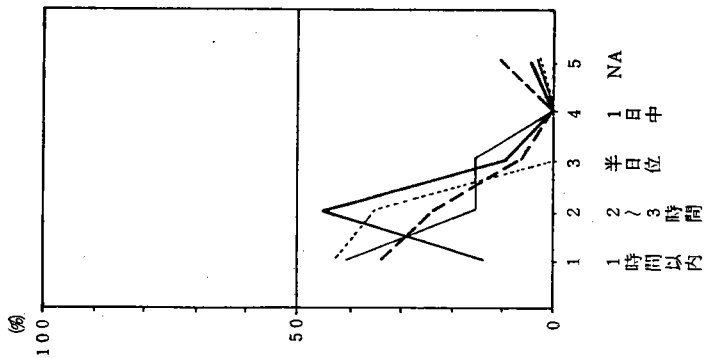
5) どの位のひん度



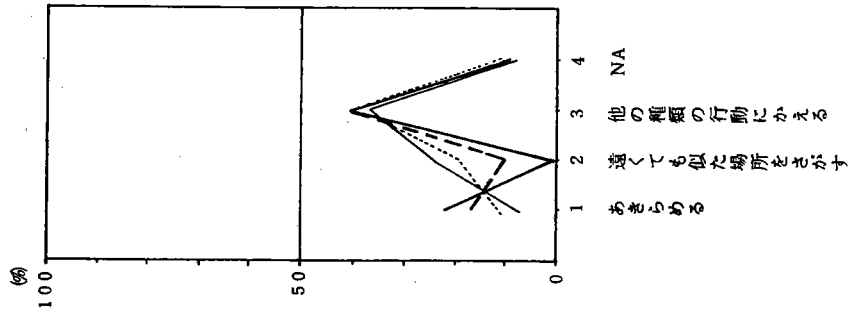
① 多摩川及びその支流

あなた

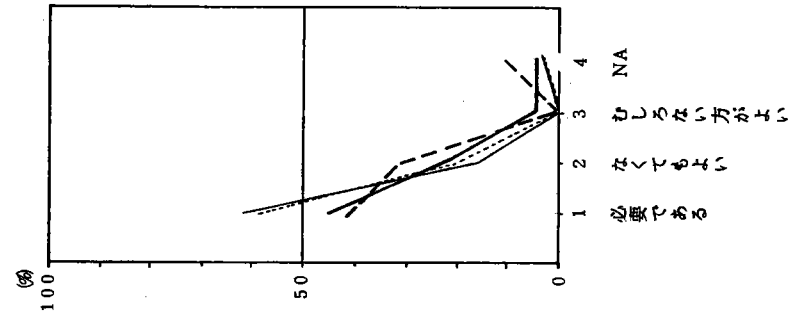
6) 滞在時間



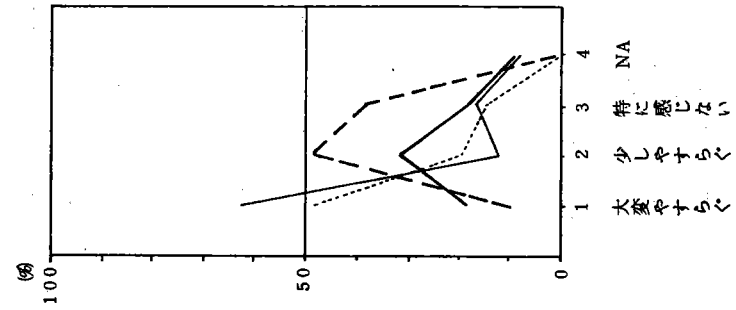
7) そのような場所がない場合



8) 必要ですか



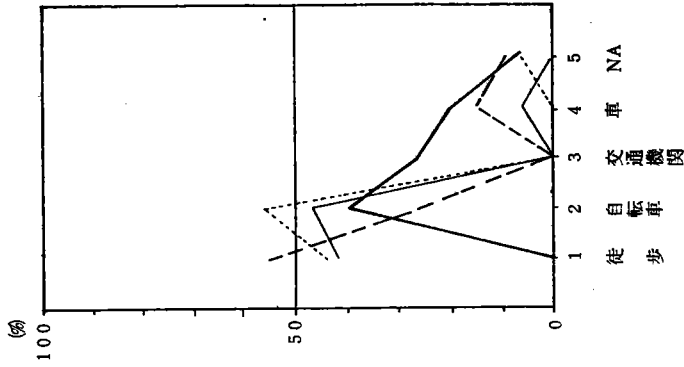
9) やすらぎますか



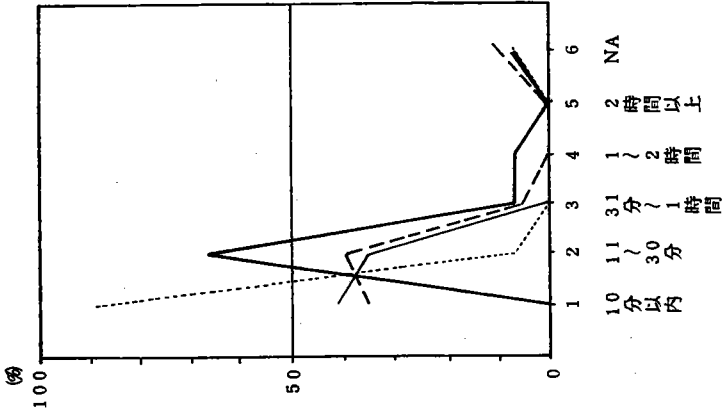
① 多摩川及びその支流

子供

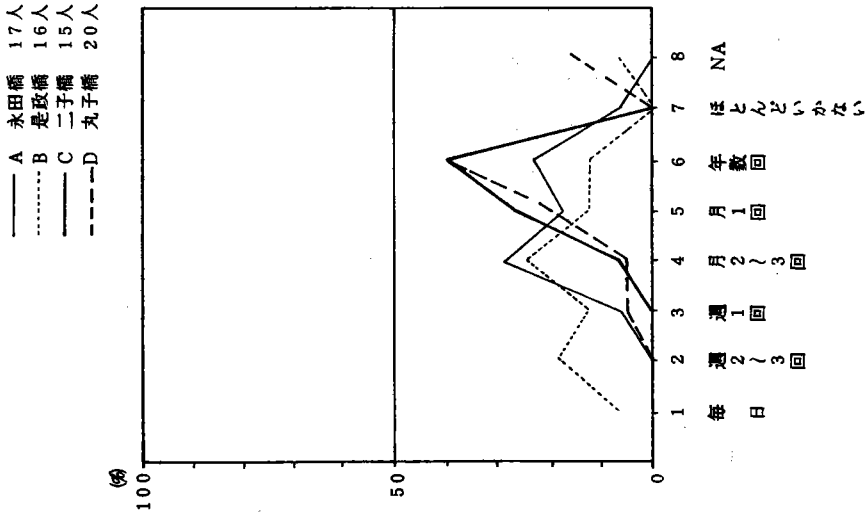
3) どういう手段で



4) かかる時間



5) どの位のひん度



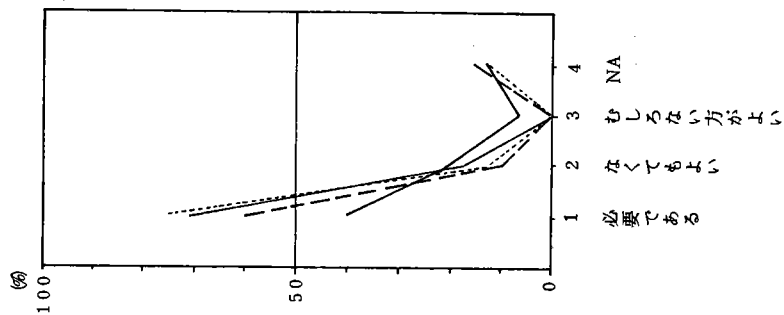
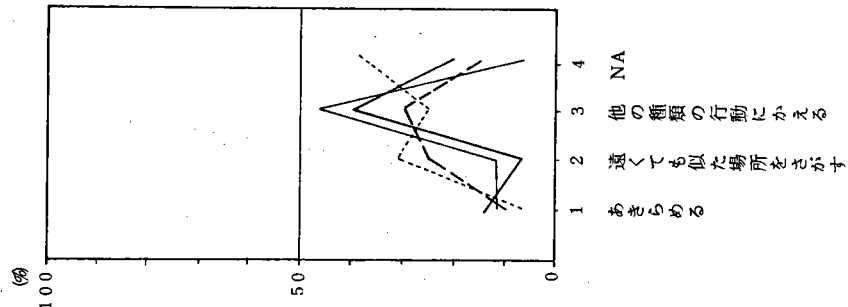
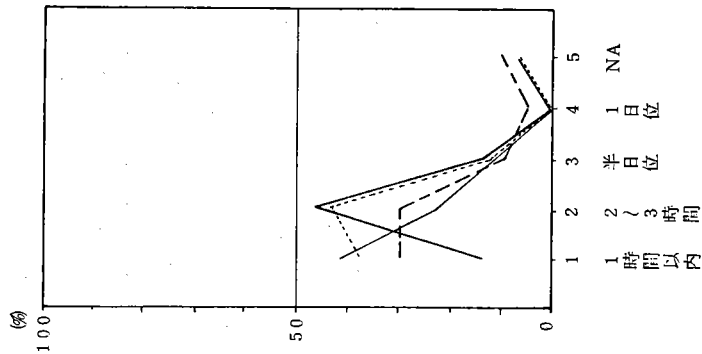
① 多摩川及びその支流

子ども

6) 滞在時間

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

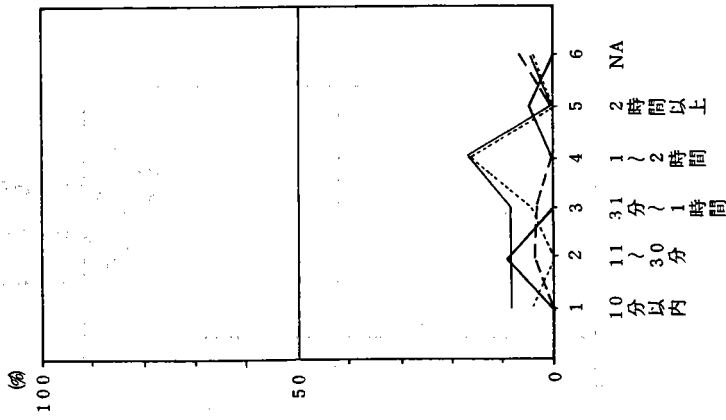
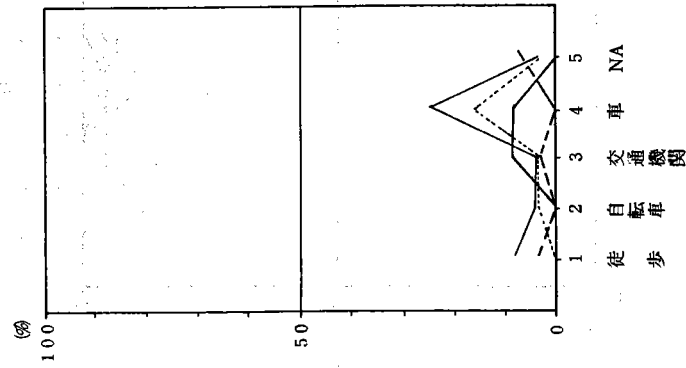


A 永田橋 17人
 B 是政橋 16人
 C 二子橋 15人
 D 丸子橋 20人

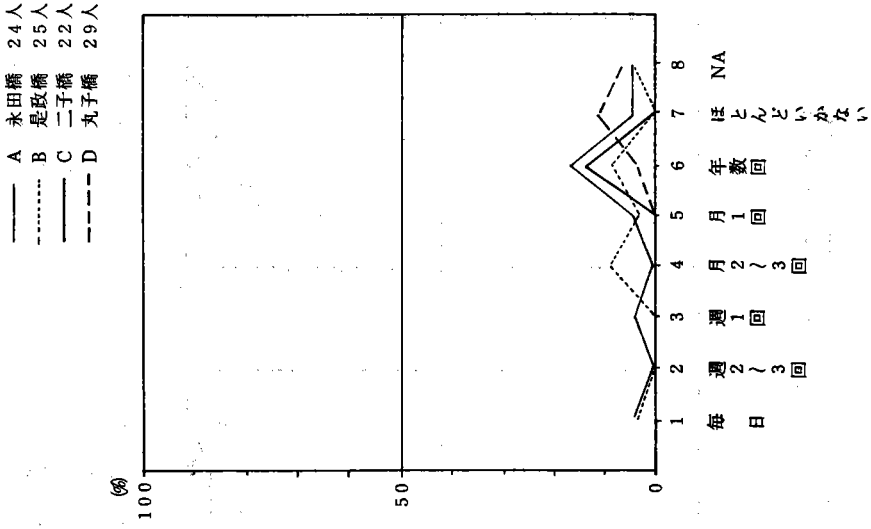
② 多摩川以外の水辺・河原
3) どういう手段

あなた

4) かかる時間



5) どの位のひん度



② 多摩川以外の水辺・河原
6) 滞在時間

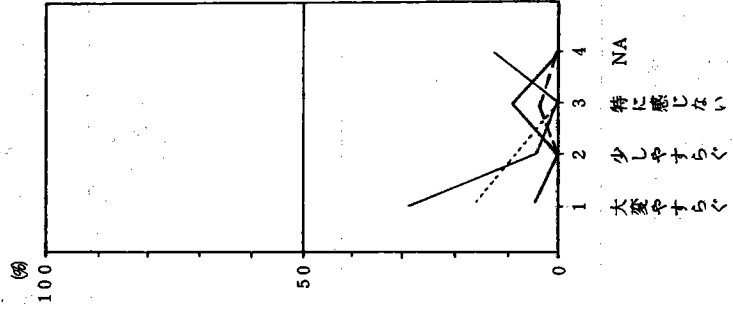
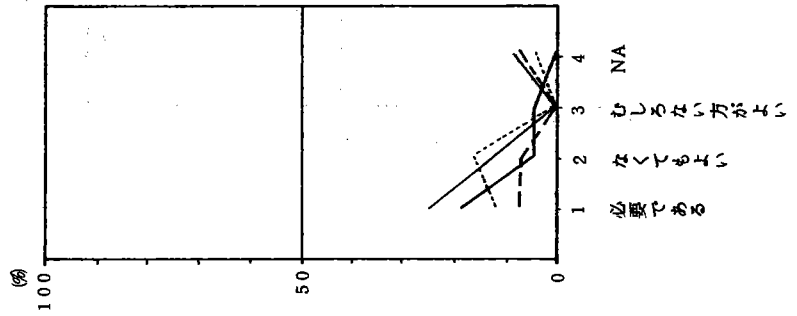
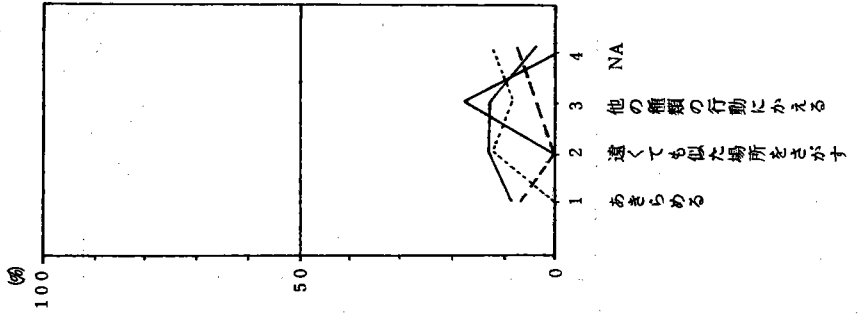
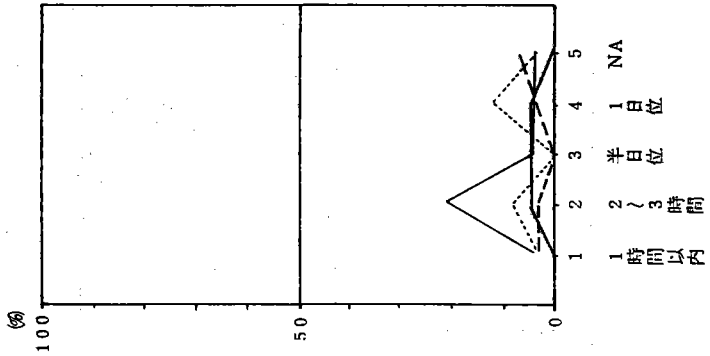
あなた

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

9) やすらぎますか

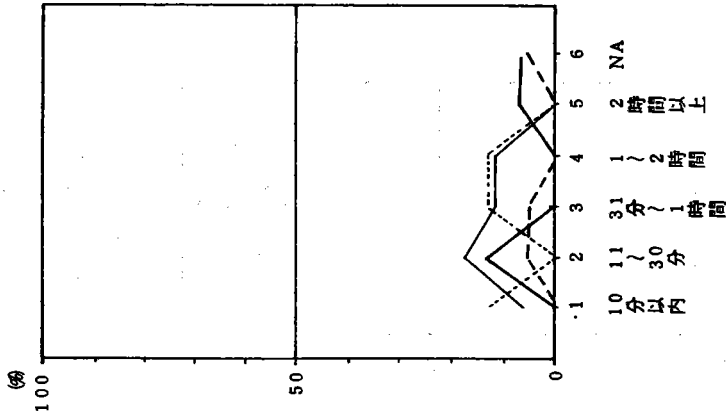
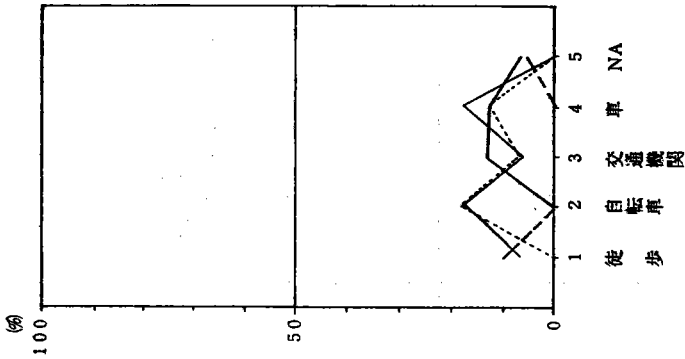
—— A 永田橋 24人 C 二子橋 22人
 - - - B 是政橋 25人 D 丸子橋 29人



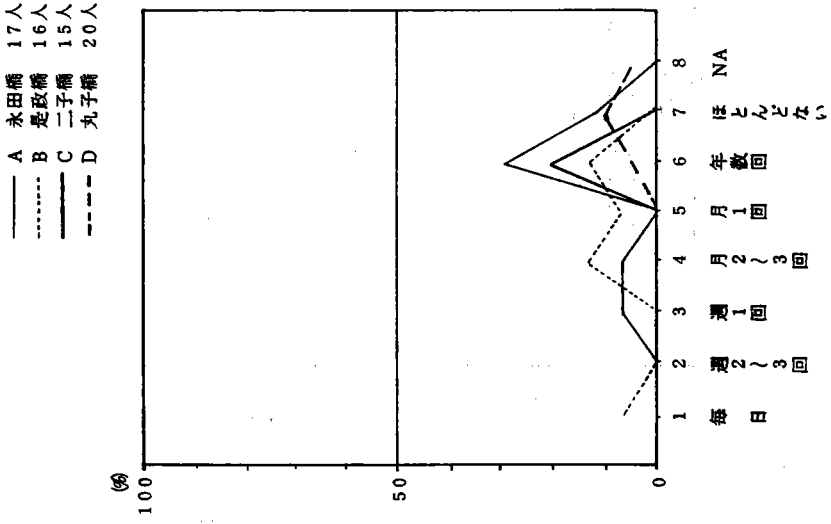
② 多摩川以外の水辺・河原
3) どういう手段

子ども

4) かかる時間



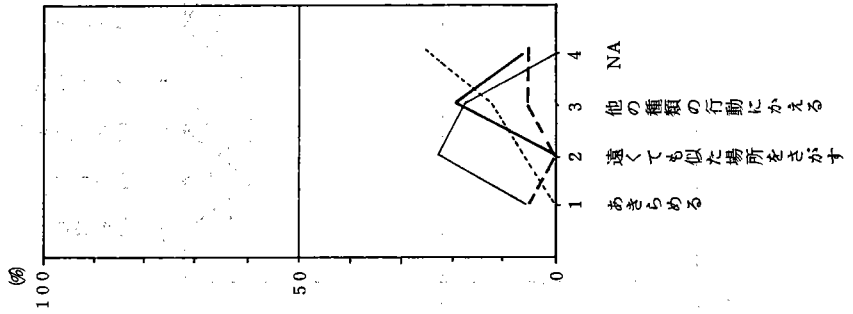
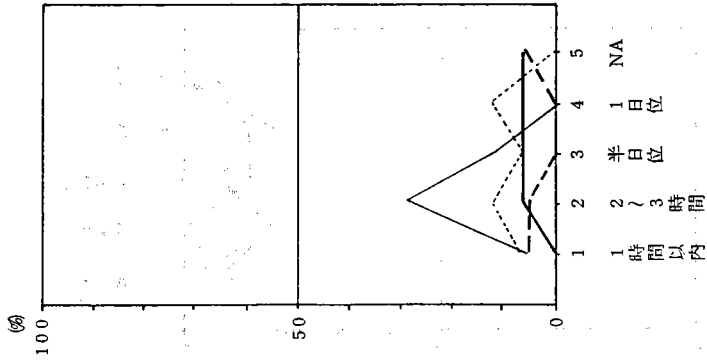
5) どの位のひん度



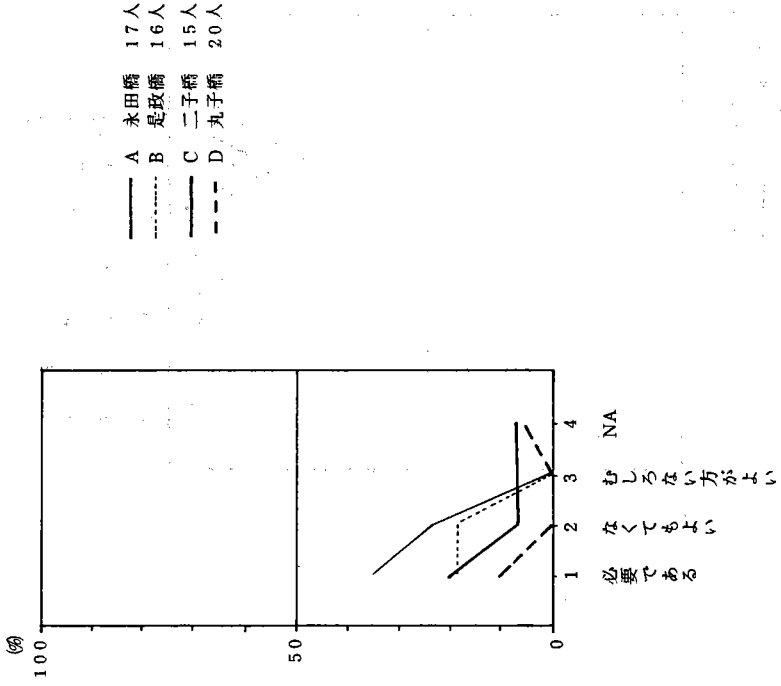
② 多摩川以外の水辺・河原

子ども

7) そのような場所がない場合

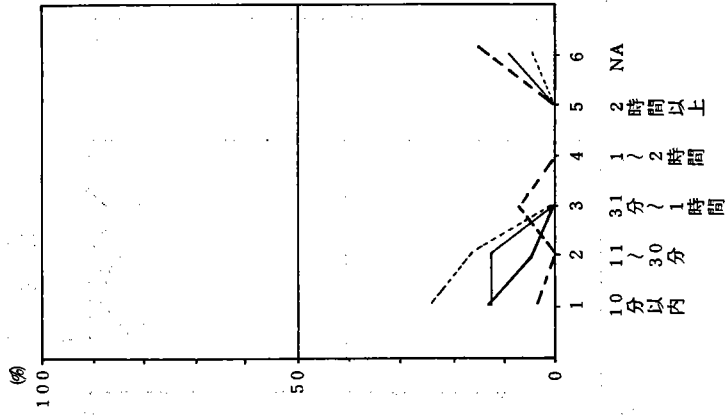
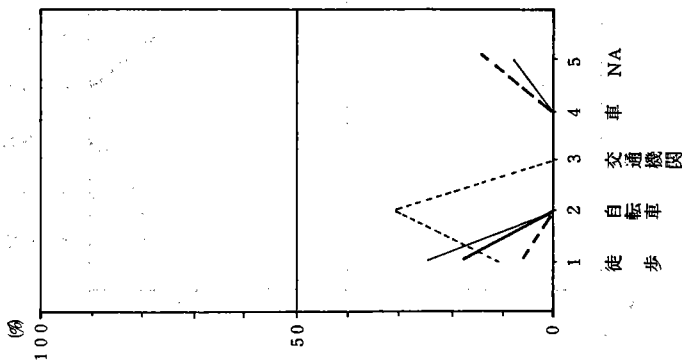


8) 必要ですか

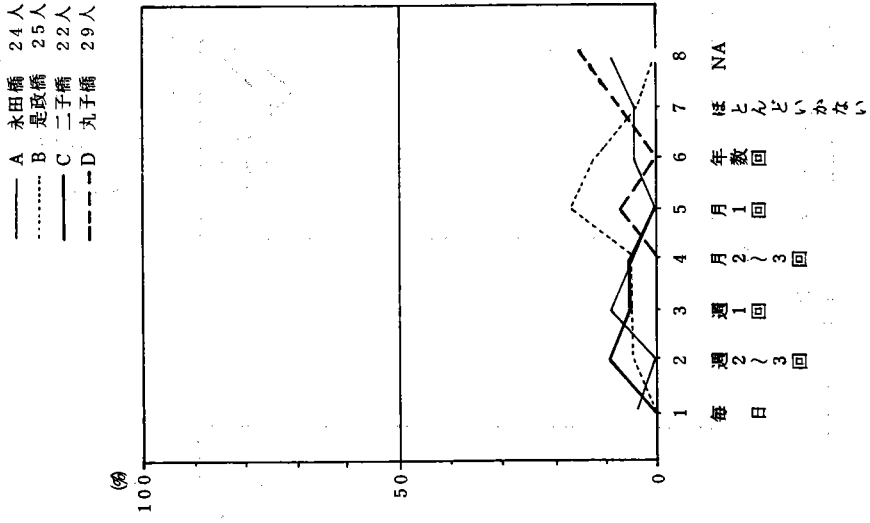


③ 広場 あなた
3) どういう手段

4) かかる時間



5) どの位のひん度



③ 広場
あなた

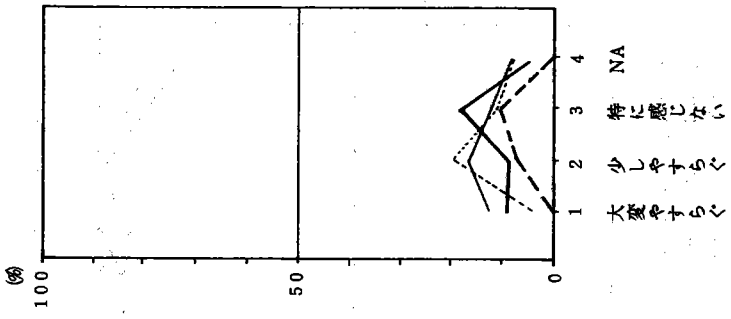
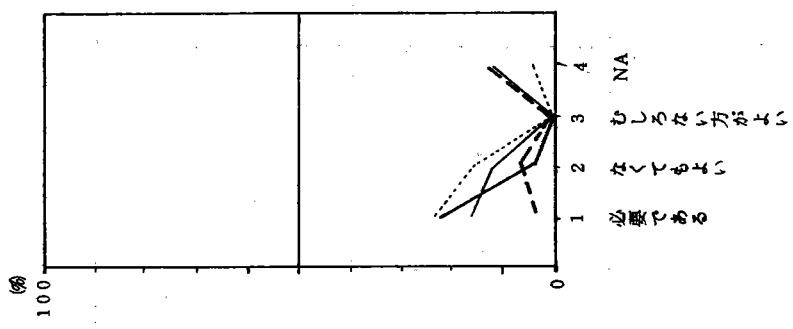
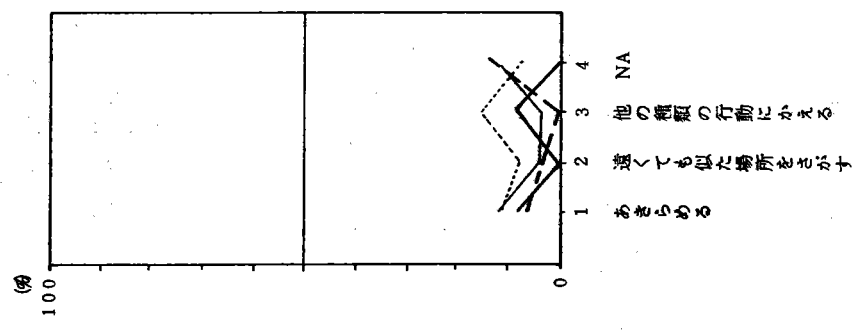
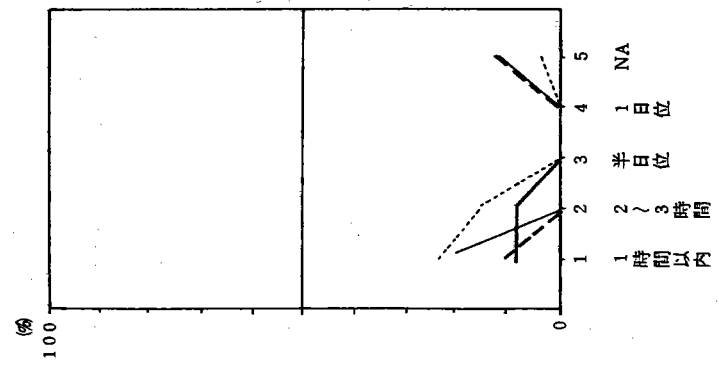
6) 滞在時間

7) そのような場所がない場合

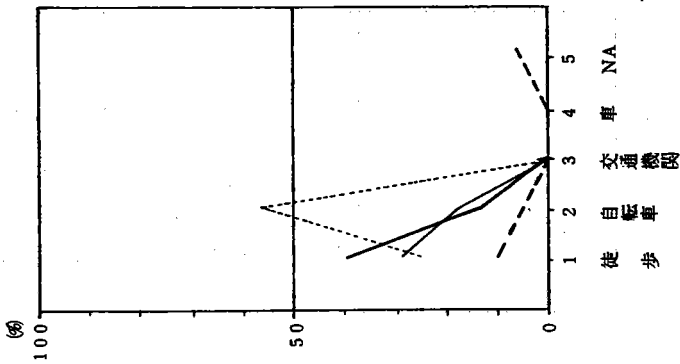
8) 必要ですか

9) やすらぎますか

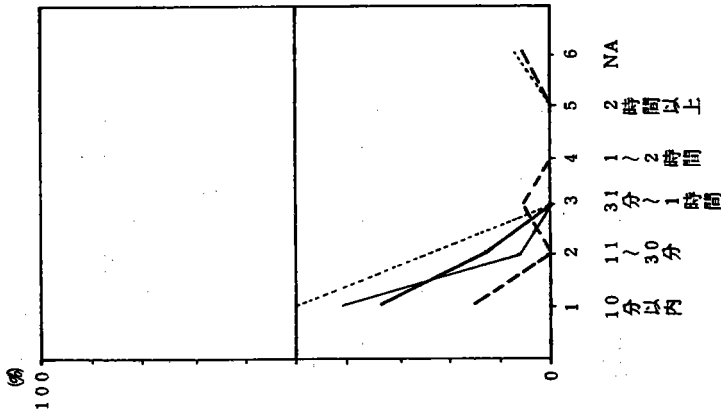
A 永田橋 24人 C 二子橋 22人
B 是政橋 25人 D 丸子橋 29人



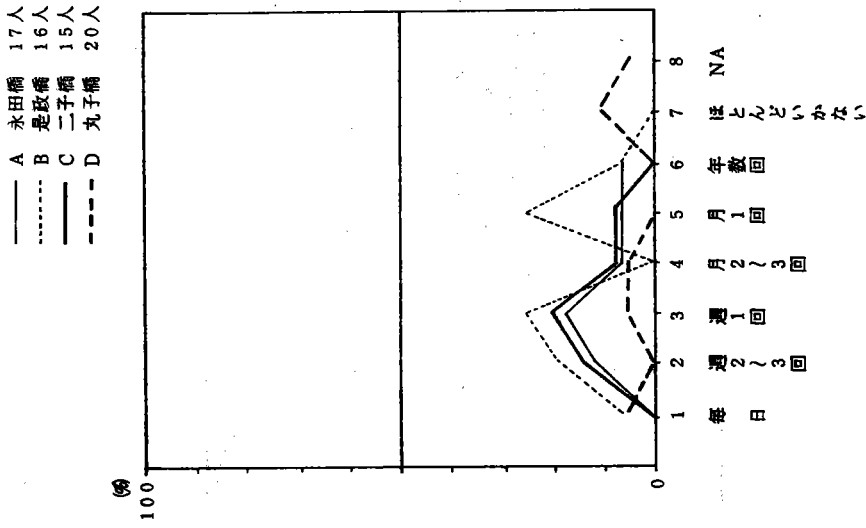
③ 広 揚 子 ども
3) どういう手段



4) かかる時間

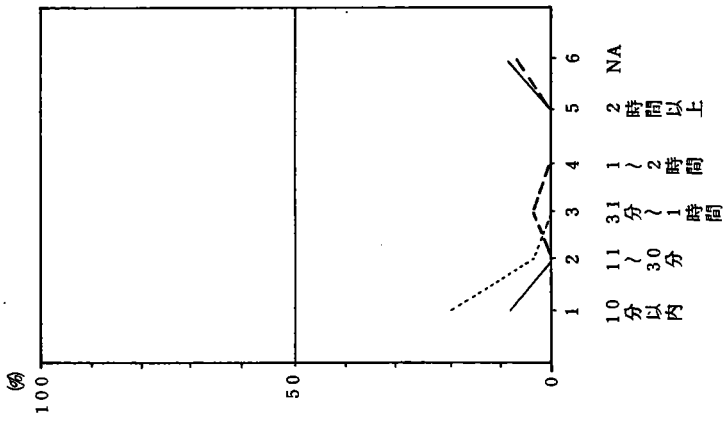
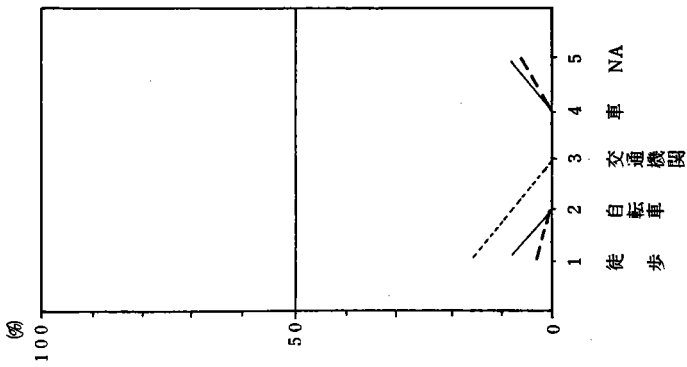


5) どの位のひん度

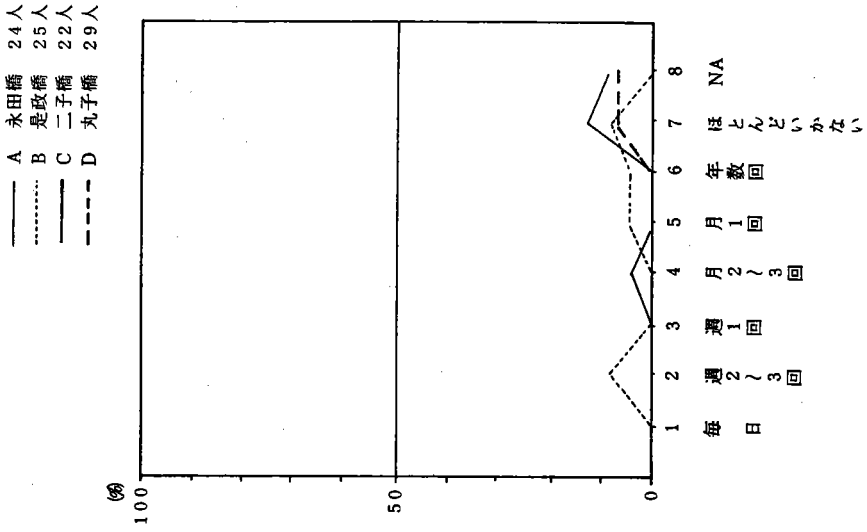


④ 空地 3) どういう手段

4) かかる時間



5) どの位のひん度



④ 空地滞在時間

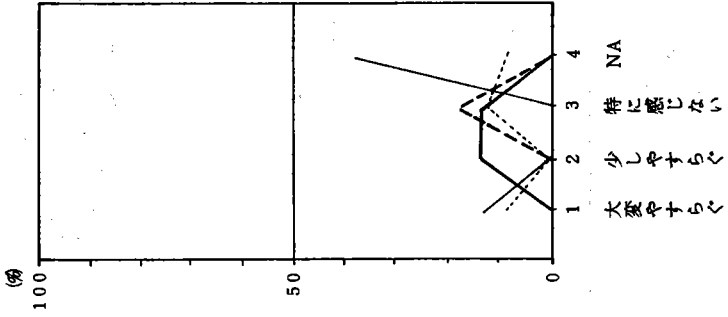
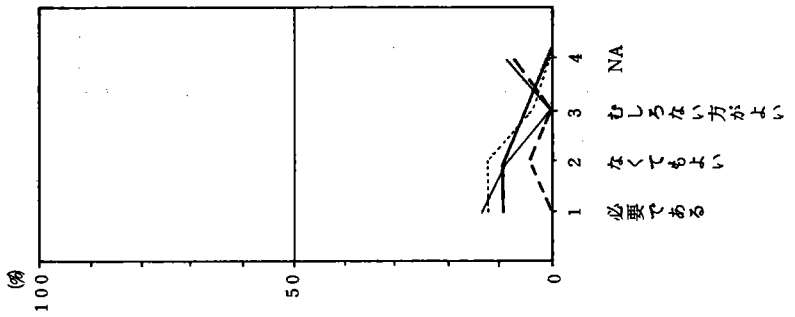
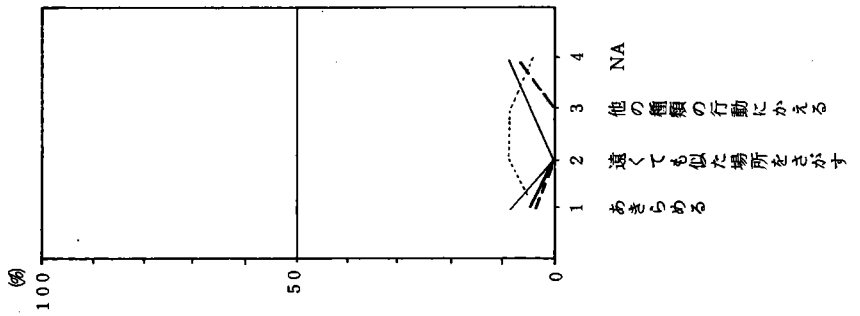
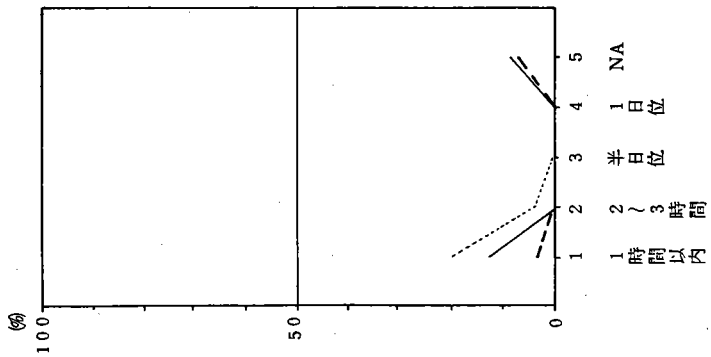
6) あなた

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

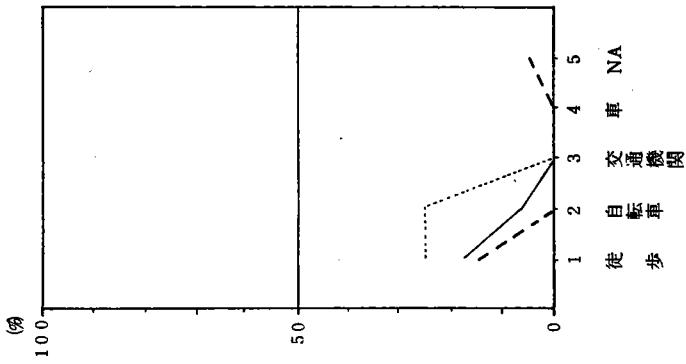
9) やすらぎますか

— A 永田橋 24人 C 二子橋 22人
 B 是政橋 25人 - - - D 丸子橋 29人

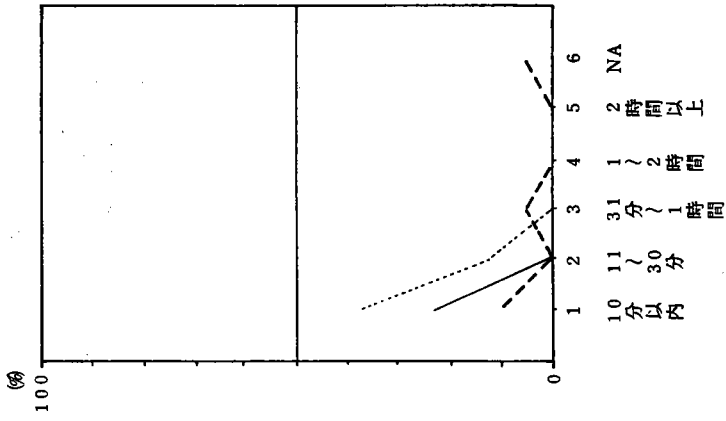


④ 空地手役

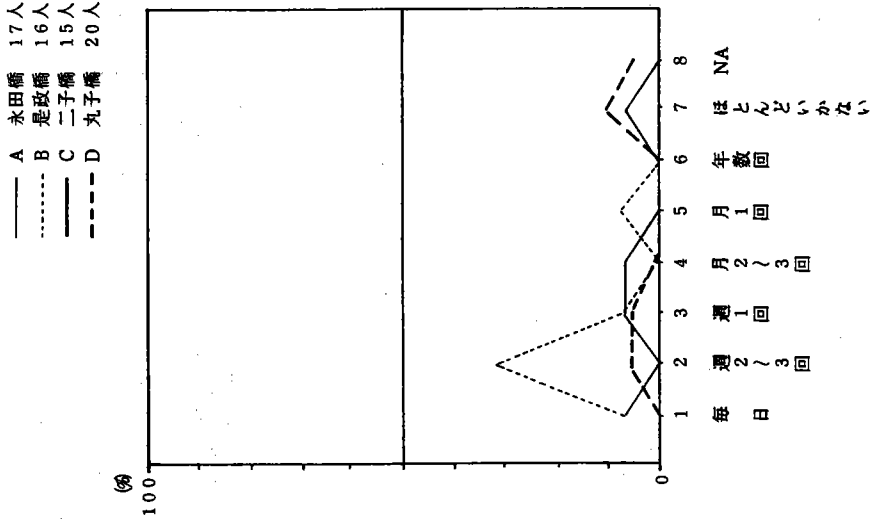
3) どういう手段



4) かかる時間



5) どの位のひん度



A 永田橋 17人
 B 堤球場 16人
 C 二子橋 15人
 D 丸子橋 20人

子ども

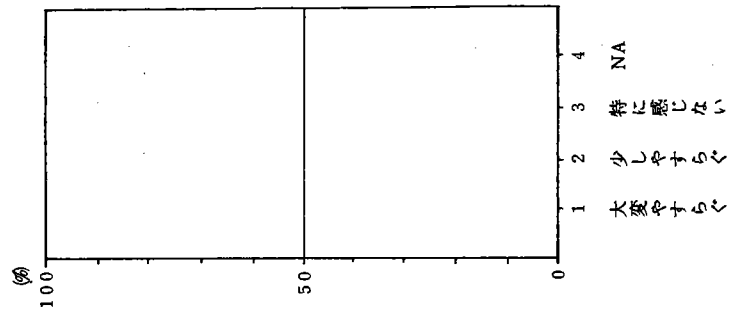
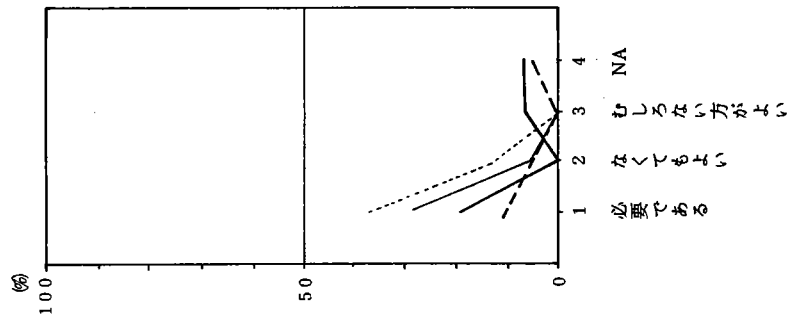
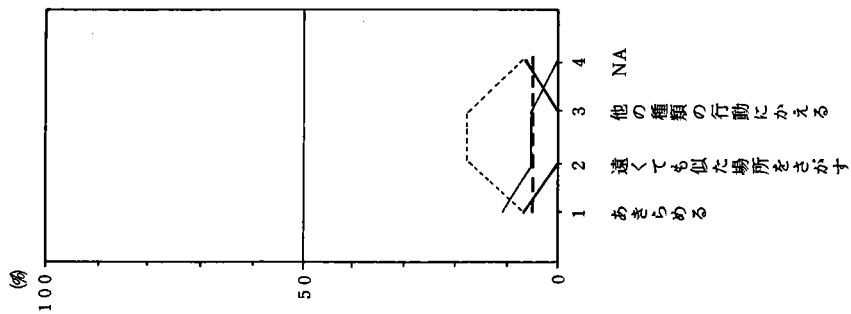
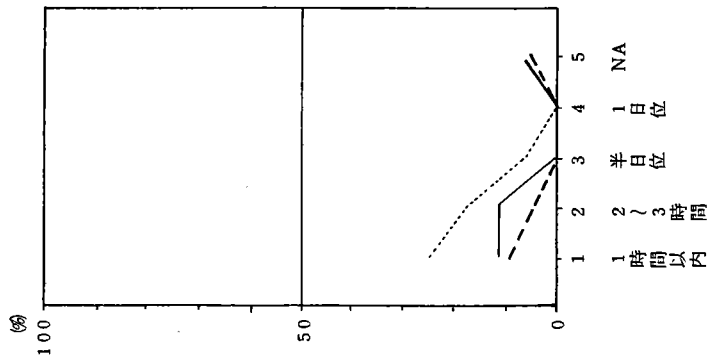
④ 空地滞在時間

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

9) やすらぎますか

A 永田橋 17人 C 二子橋 15人
 B 足政橋 16人 D 丸子橋 20人

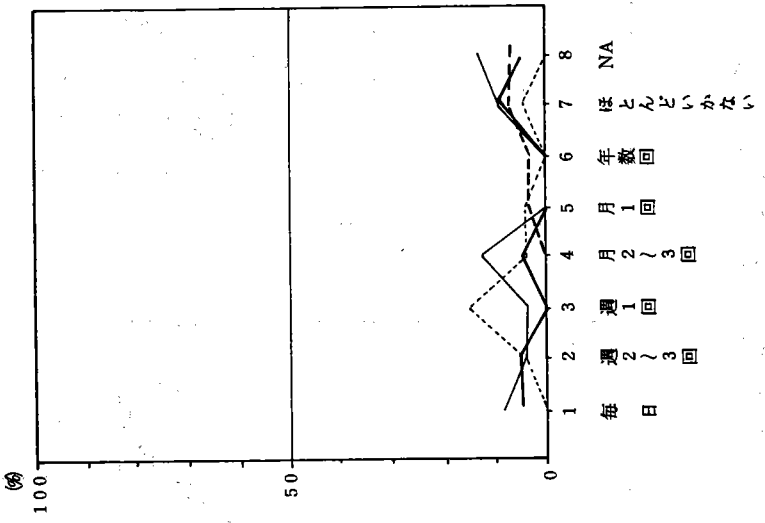
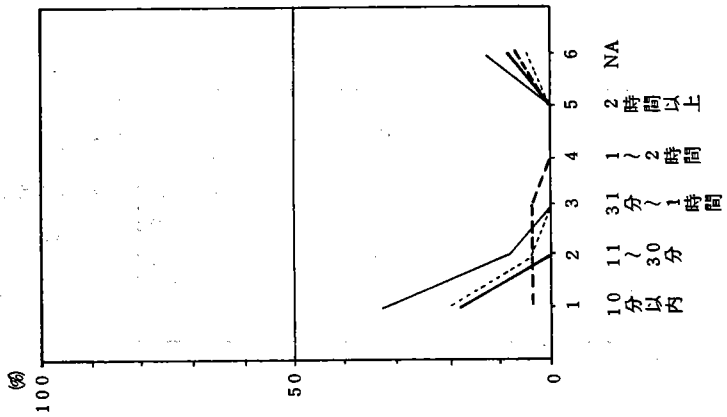
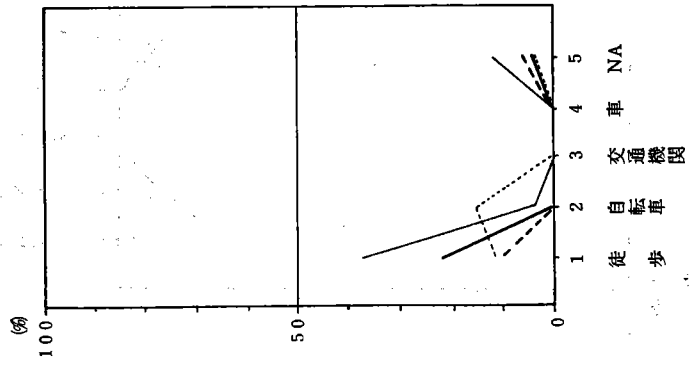


⑤ 子供の遊び場
3) どういう手段

4) かかる時間

5) どの位のひん度

- A 永田橋 24人
- B 是政橋 25人
- C 二子橋 22人
- D 丸子橋 29人



⑤ 子供の遊び場
6) 滞在時間

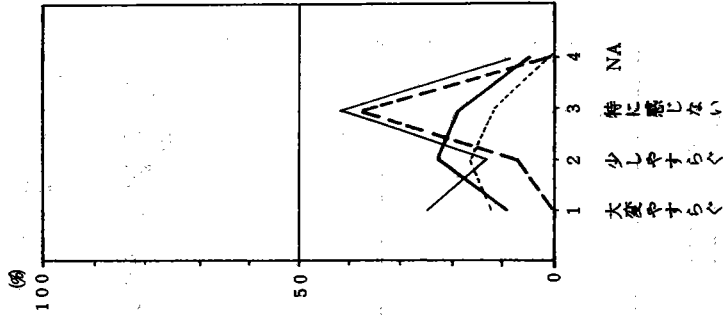
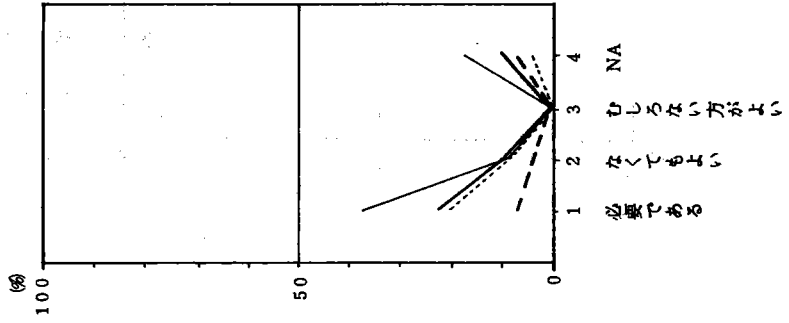
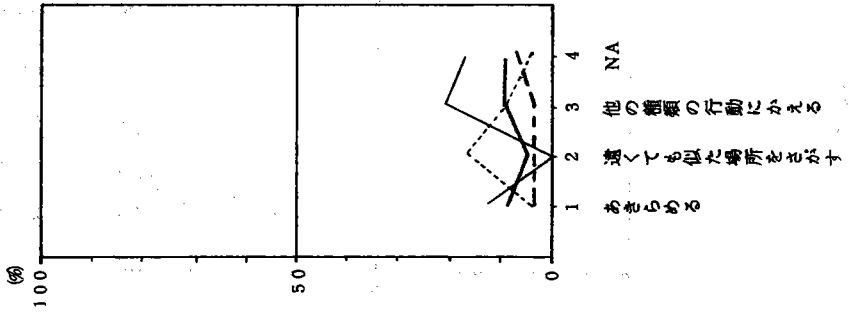
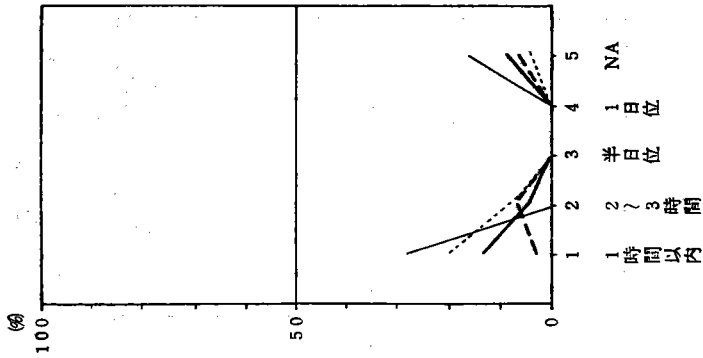
あなた

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

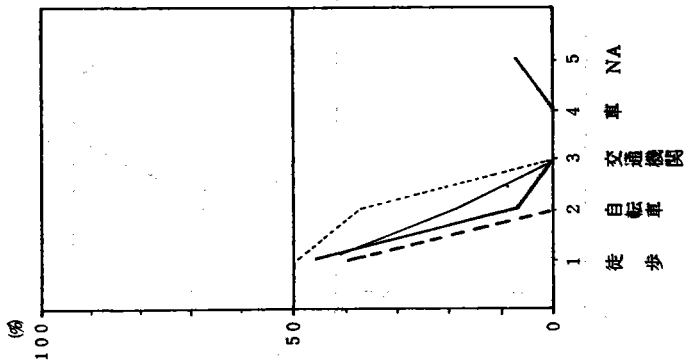
9) やすらぎますか

A 永田橋 24人 C 二子橋 22人
B 是政橋 25人 D 丸子橋 29人

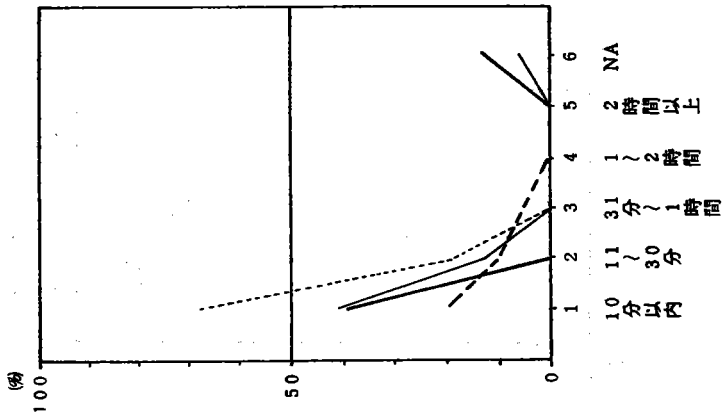


子ども

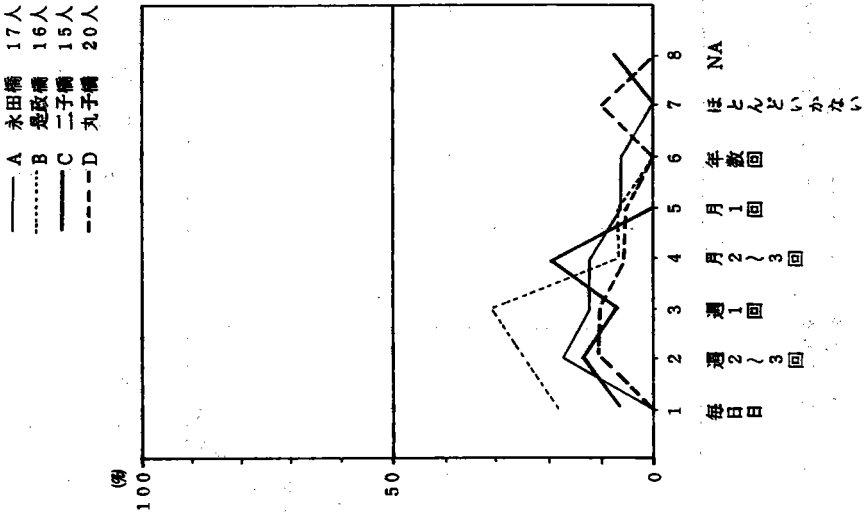
⑤ 子供の遊び場
3) どういう手段



4) かかる時間



5) どの位のひん度



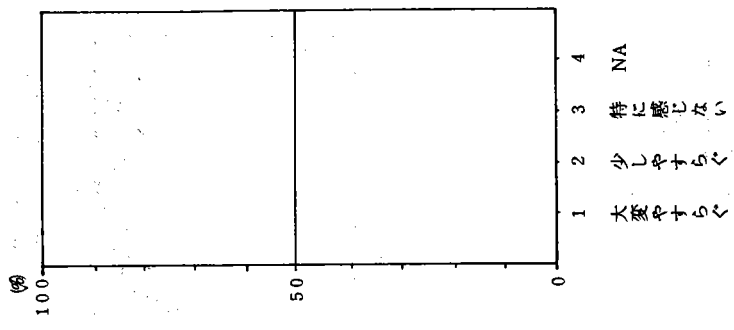
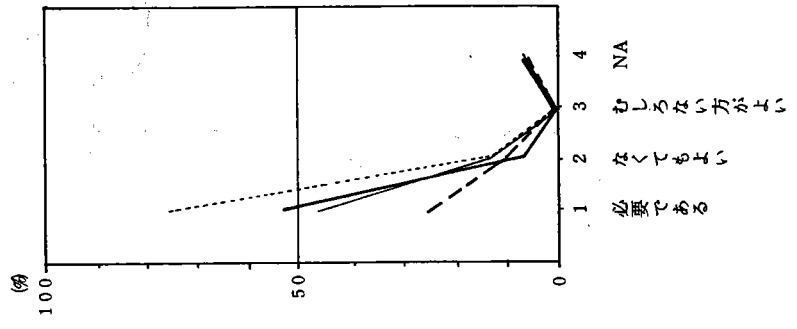
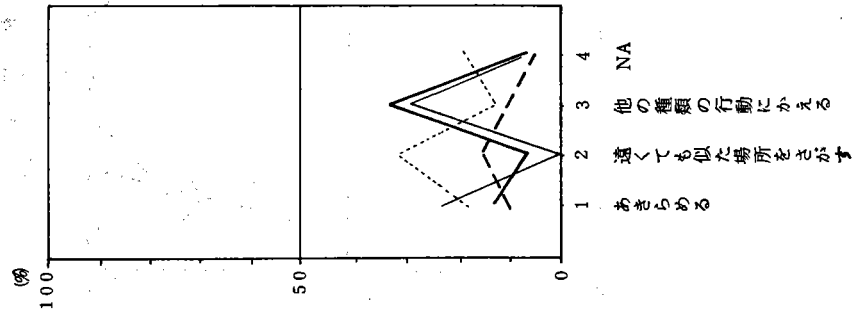
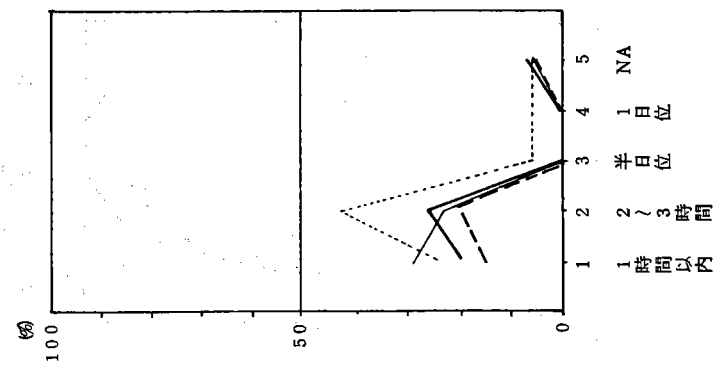
子ども

⑤ 子供の遊び場
6) 滞在時間

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

9) やすらぎますか



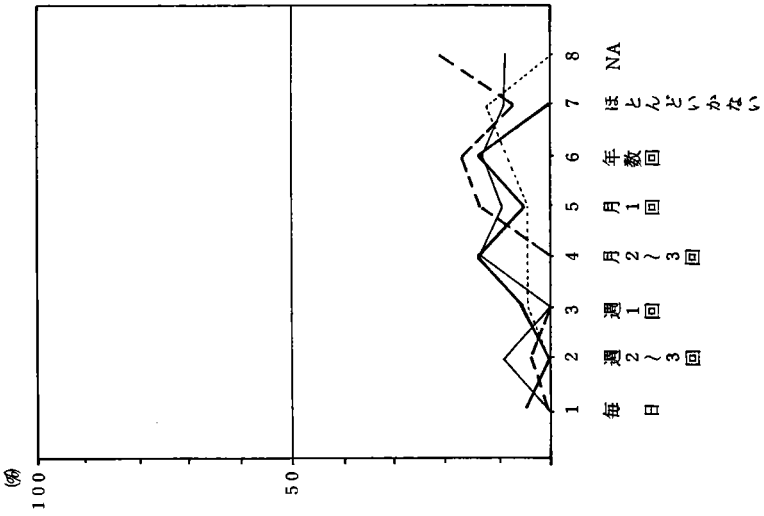
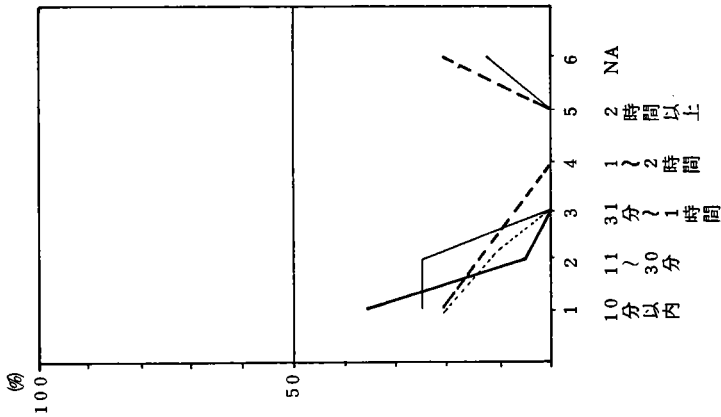
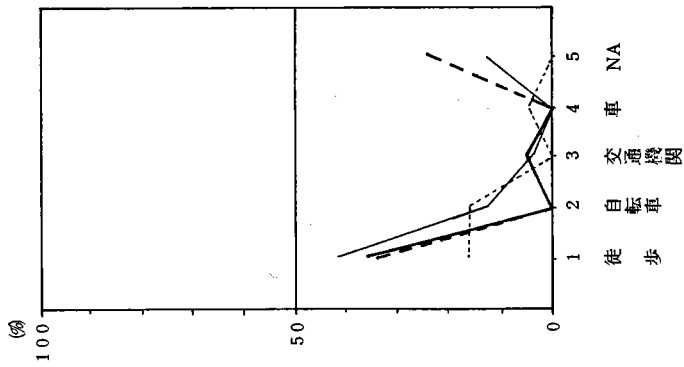
Legend for all graphs:
 A 永田橋 17人 C 二子橋 15人
 B 是政橋 16人 D 丸子橋 20人

⑥ 社内の境内
3) どういう手段

4) かかる時間

5) どの位のひん度

- A 永田橋 24人
- B 是政橋 25人
- C 二子橋 22人
- D 丸子橋 29人



⑥ 社内の滞在時間

あなた

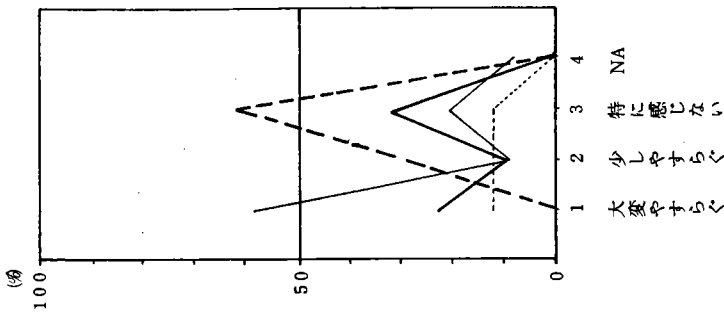
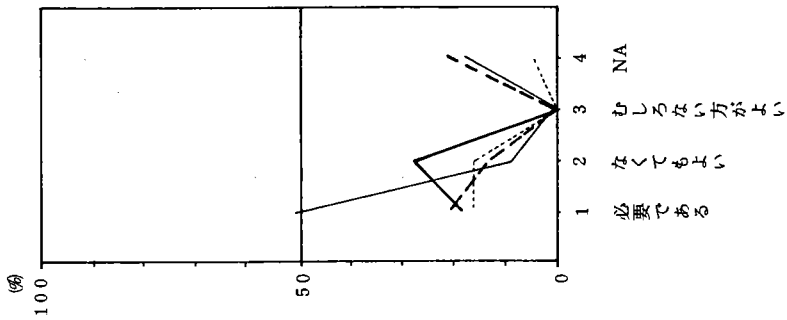
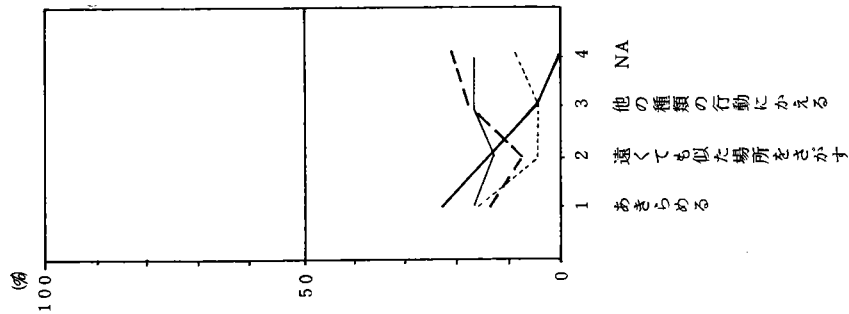
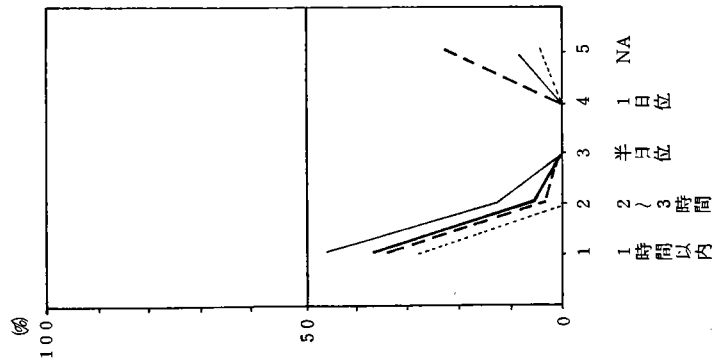
6)

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

9) やすらぎますか

—— A 永田橋 24人 ——— C 二子橋 22人
 B 是政橋 25人 - - - - D 丸子橋 29人

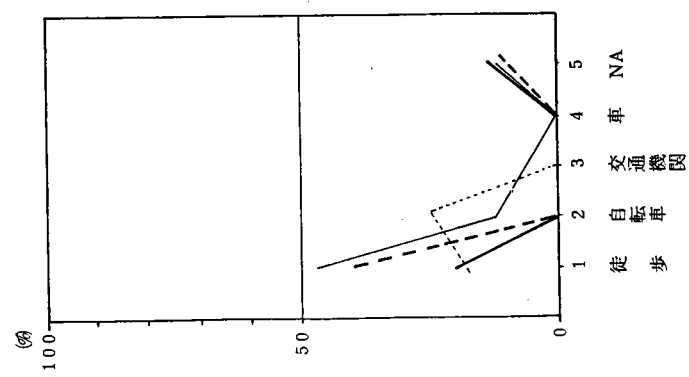
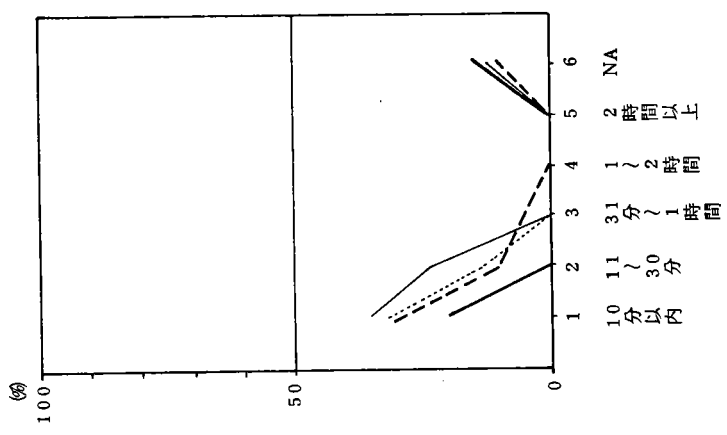
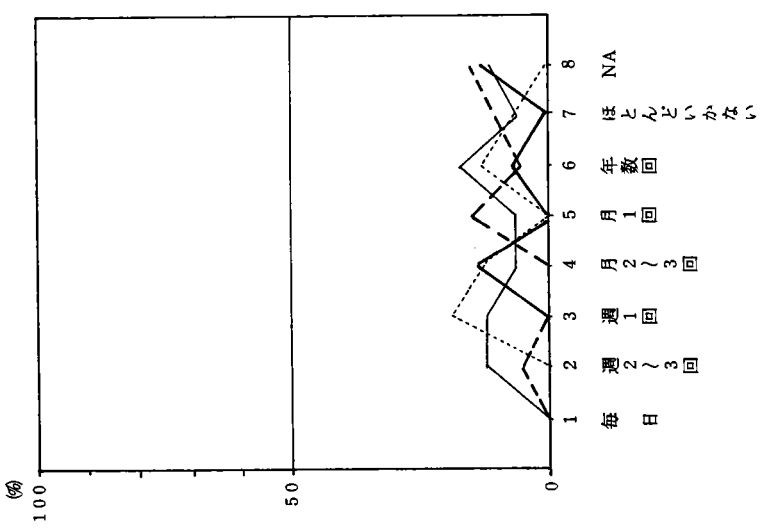


⑥ 社内の境内
3) どういう手段

4) かかる時間

5) どの位のひん度

- A 永田橋 17人
- B 虎政橋 16人
- C 二子橋 15人
- - - D 丸子橋 20人



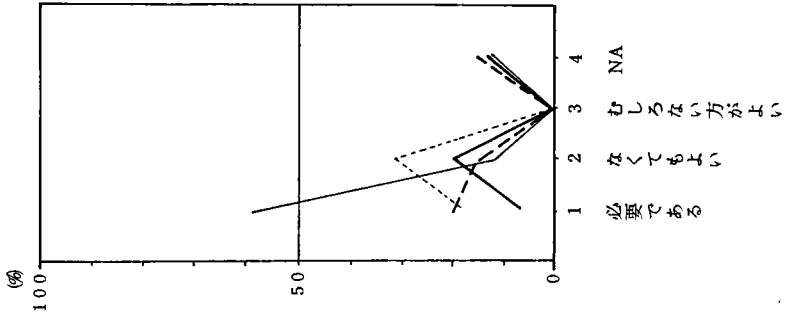
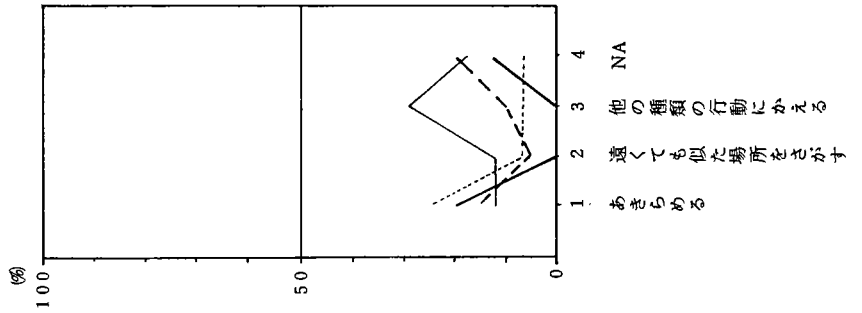
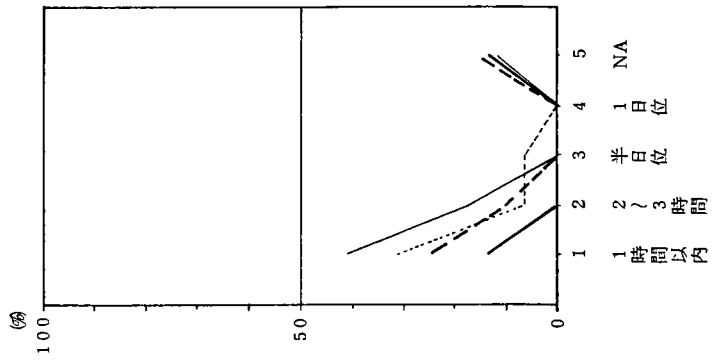
子ども

⑥ 社内の境内
6) 滞在時間

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

9) やすらぎますか

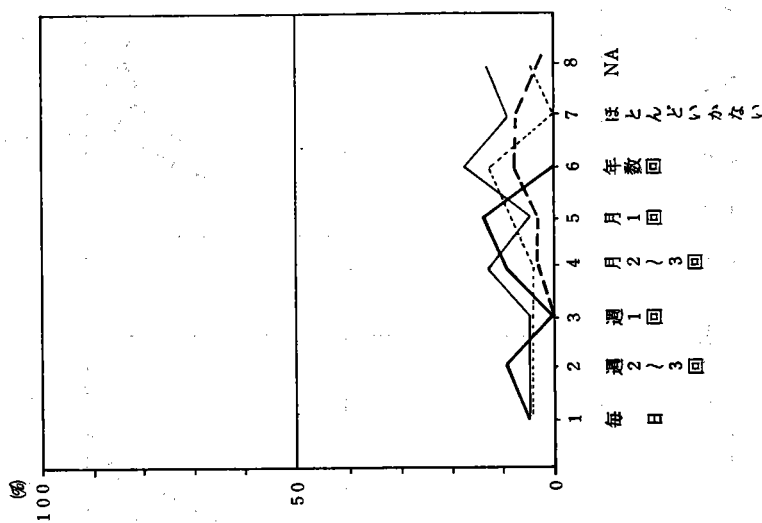
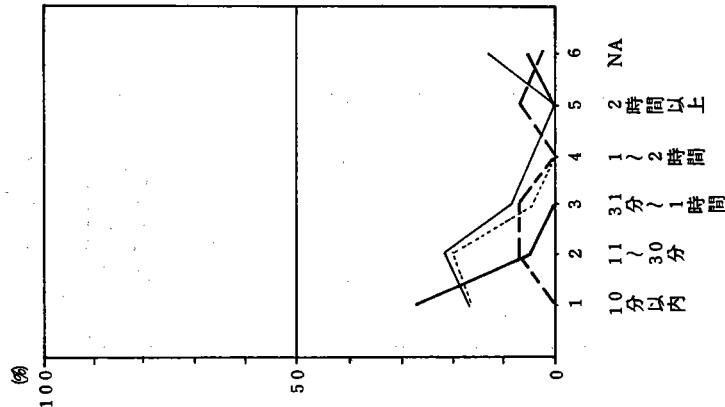
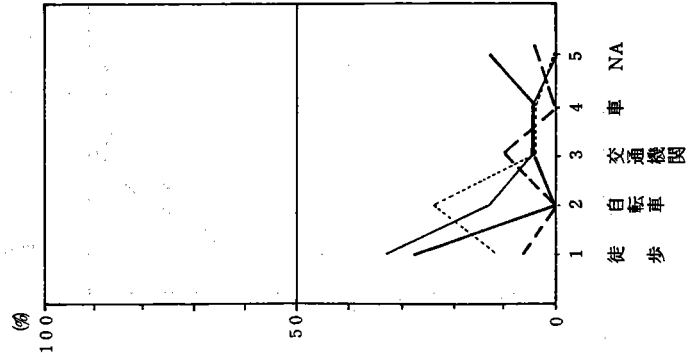


あなた

⑦ 緑の小径や雑木林
3) どういう手段

4) かかる時間

5) どの位のひん度



あなた

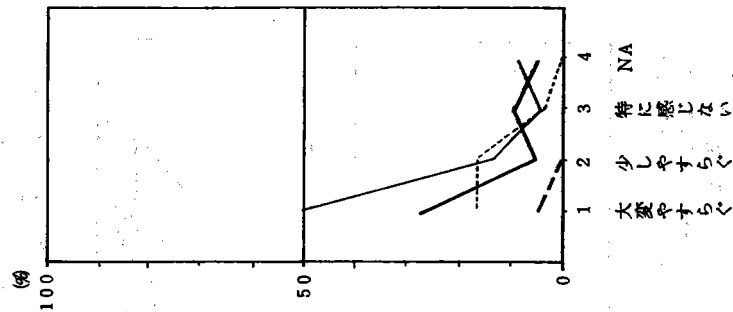
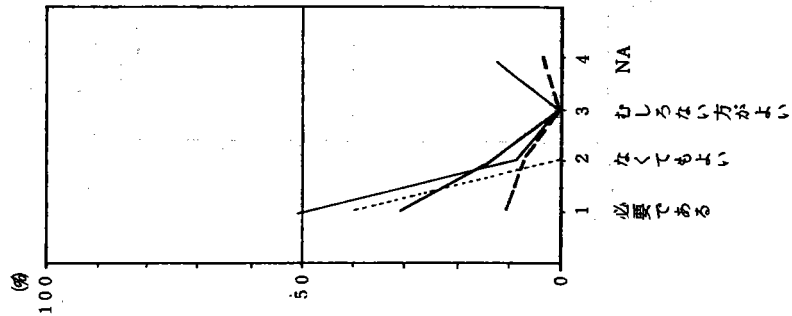
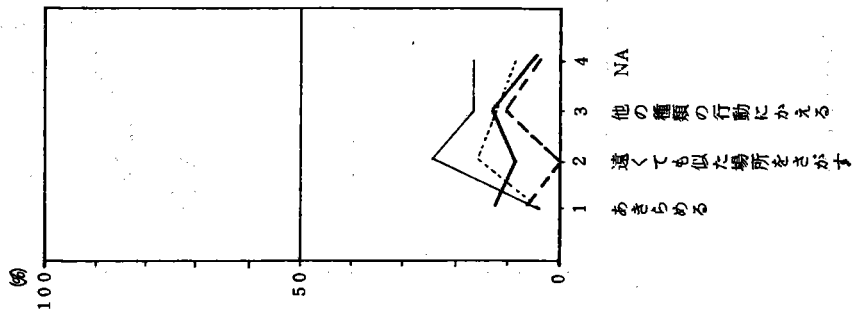
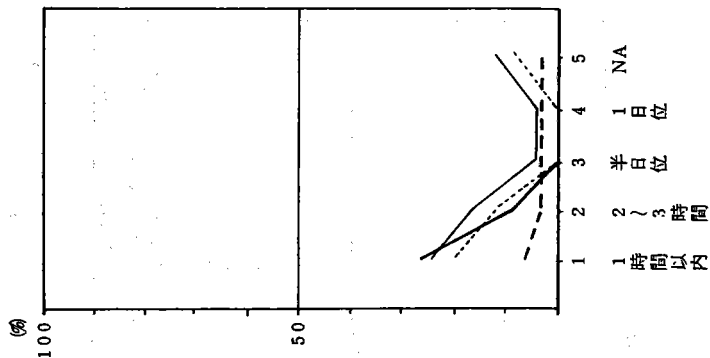
⑦ 緑の小径や雑木林
6) 滞在期間

7) そのような場所がない場合

8) 必要ですか

9) やすらぎますか

— A 永田橋 24人 C 二子橋 22人
..... B 是政橋 25人 --- D 丸子橋 29人

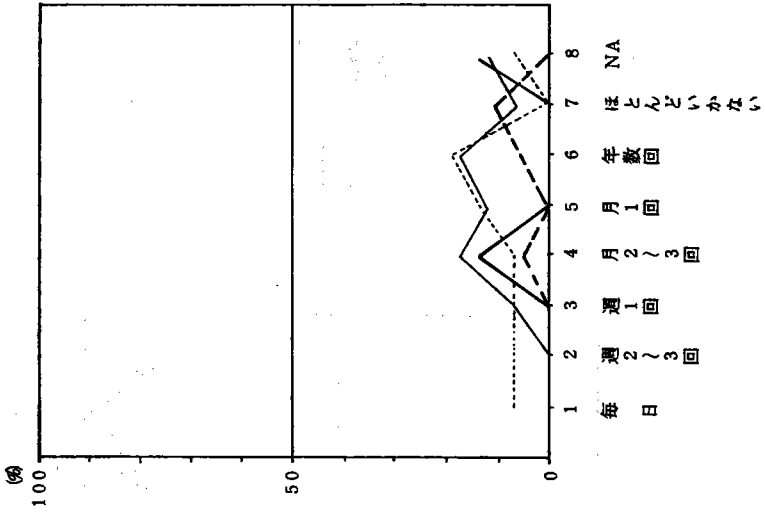
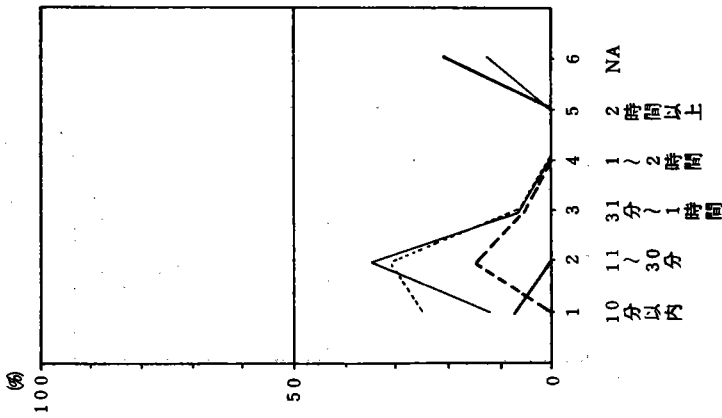
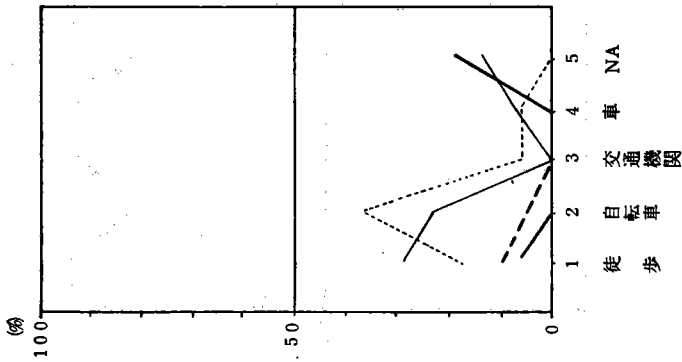


⑦ 緑の小径や雑木林
3) どういう手段

4) かかる時間

5) どの位のひん度

A 永田橋 17人
B 長政橋 16人
C 二子橋 15人
D 丸子橋 20人



⑦ 緑の小径や雑木林

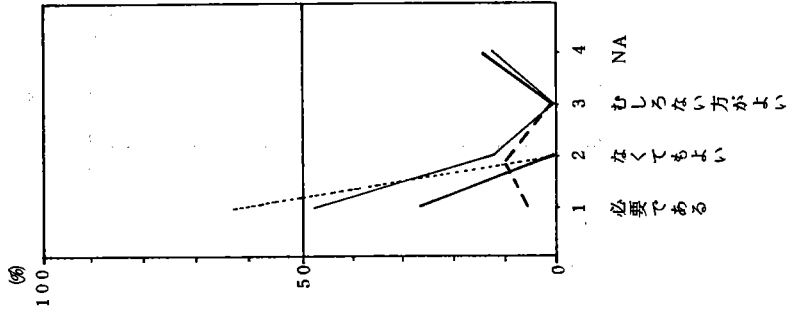
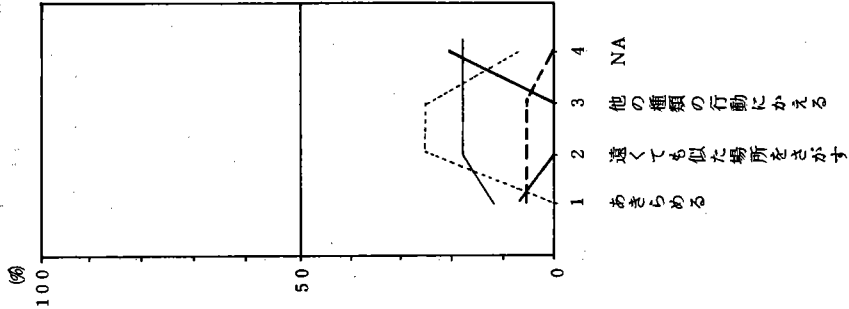
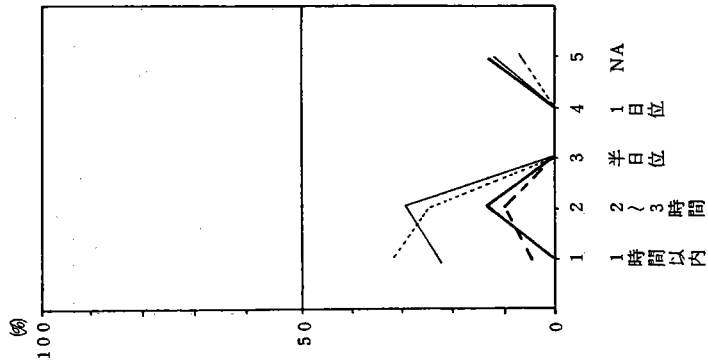
子ども

6) 滞在時間

7) そのような場所がない場合

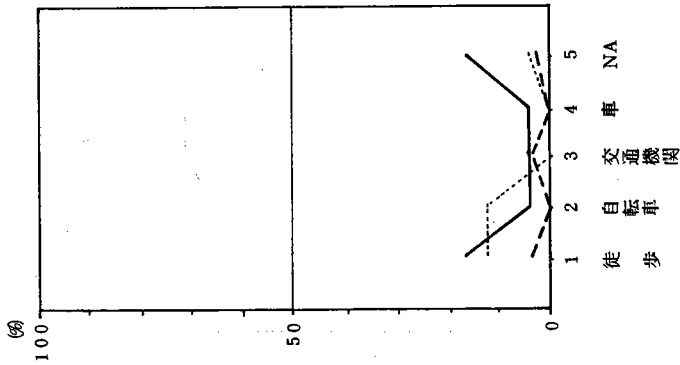
8) 必要ですか

9) やすらぎますか

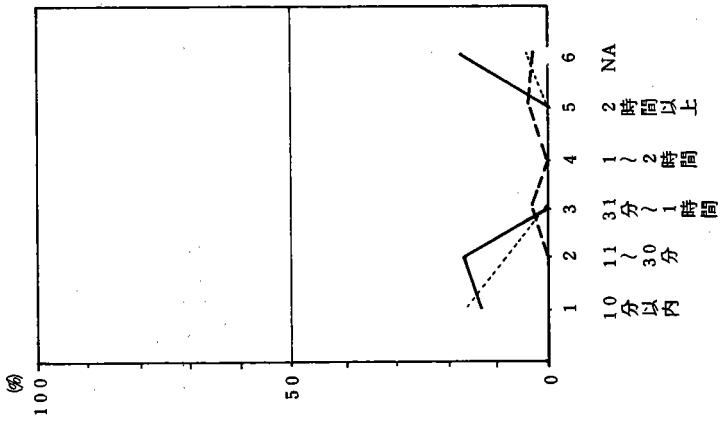


A 永田橋 17人
 B 是政橋 16人
 C 二子橋 15人
 D 丸子橋 20人

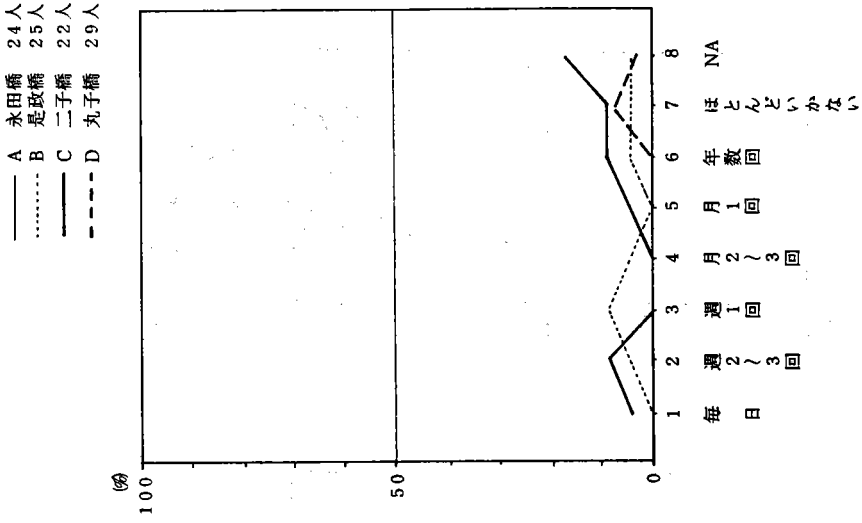
⑧ 農地周辺
3) どういう手段
あなた



4) かかる時間



5) どの位のひん度



— A 永田橋 24人
 - - - B 尾政橋 25人
 — C 二子橋 22人
 - - - D 丸子橋 29人

⑧ 農地周辺
6) 滞在時間

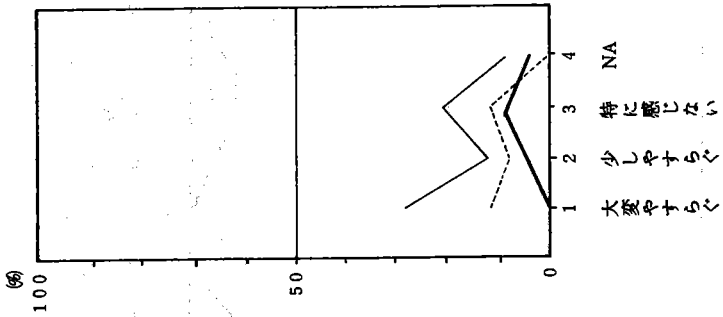
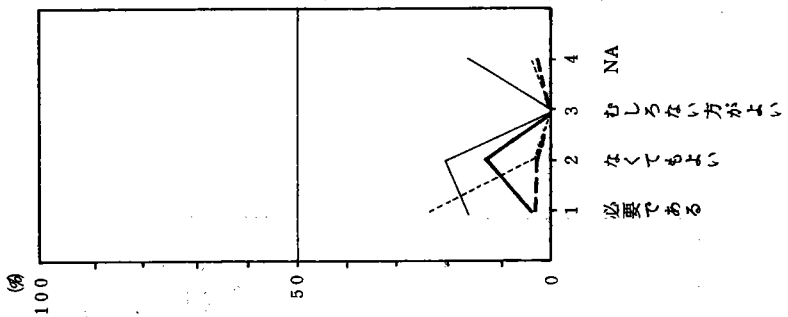
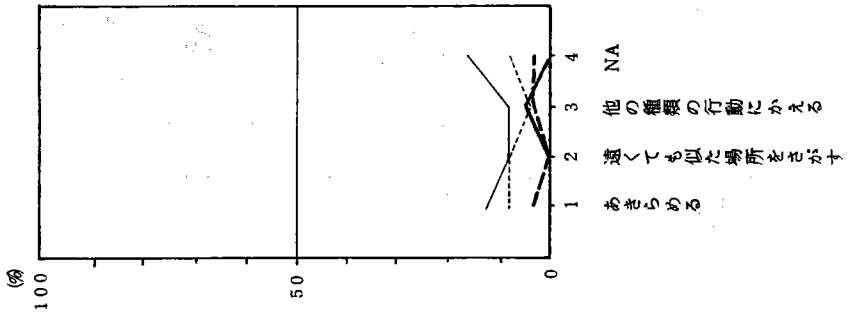
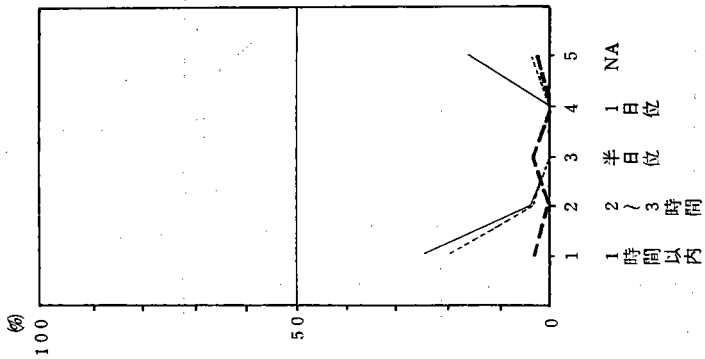
あなた

7) そのような場所がない場合

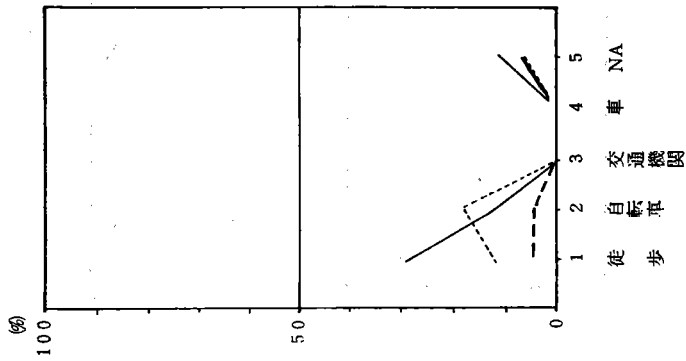
8) 必要ですか

9) やすらぎますか

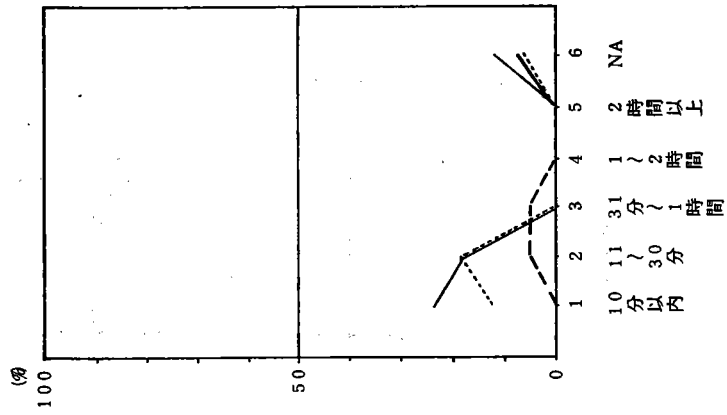
— A 永田橋 24人 C 二子橋 22人
- - - B 是政橋 25人 D 丸子橋 29人



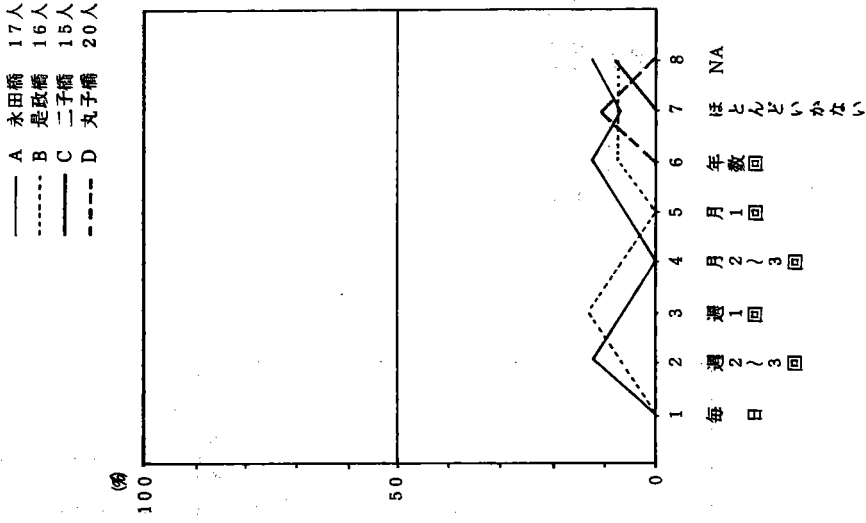
③ 農地周辺 子供も
3) どういう手段



4) かかる時間



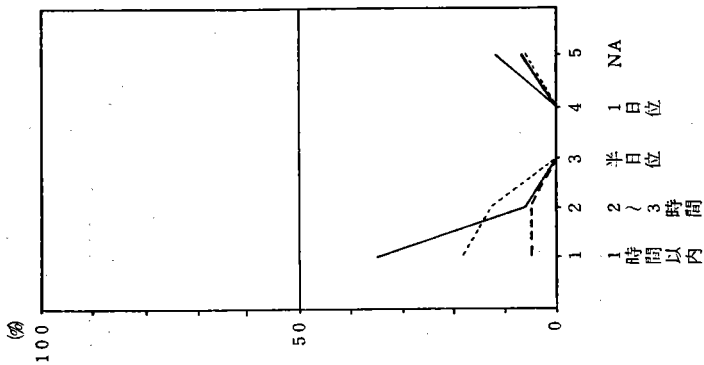
5) どの位のひん度



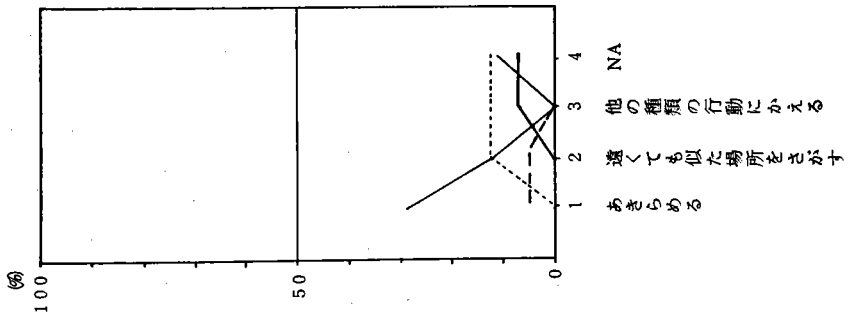
— A 永田橋 17人
 - - - B 是政橋 16人
 — C 二子橋 15人
 - - - D 丸子橋 20人

子ども

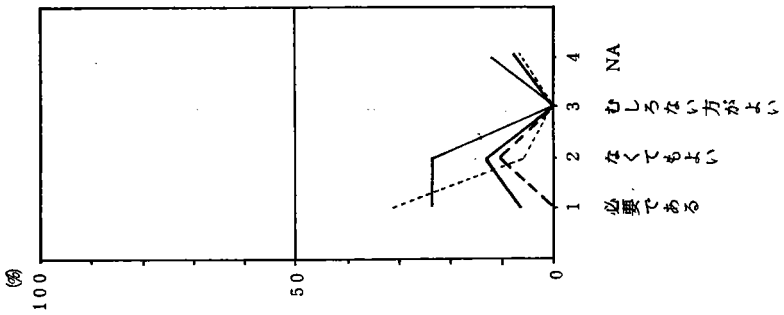
④ 農地周辺
6) 滞在時間



7) そのような場所がない場合



8) 必要ですか



9) やすらぎますか

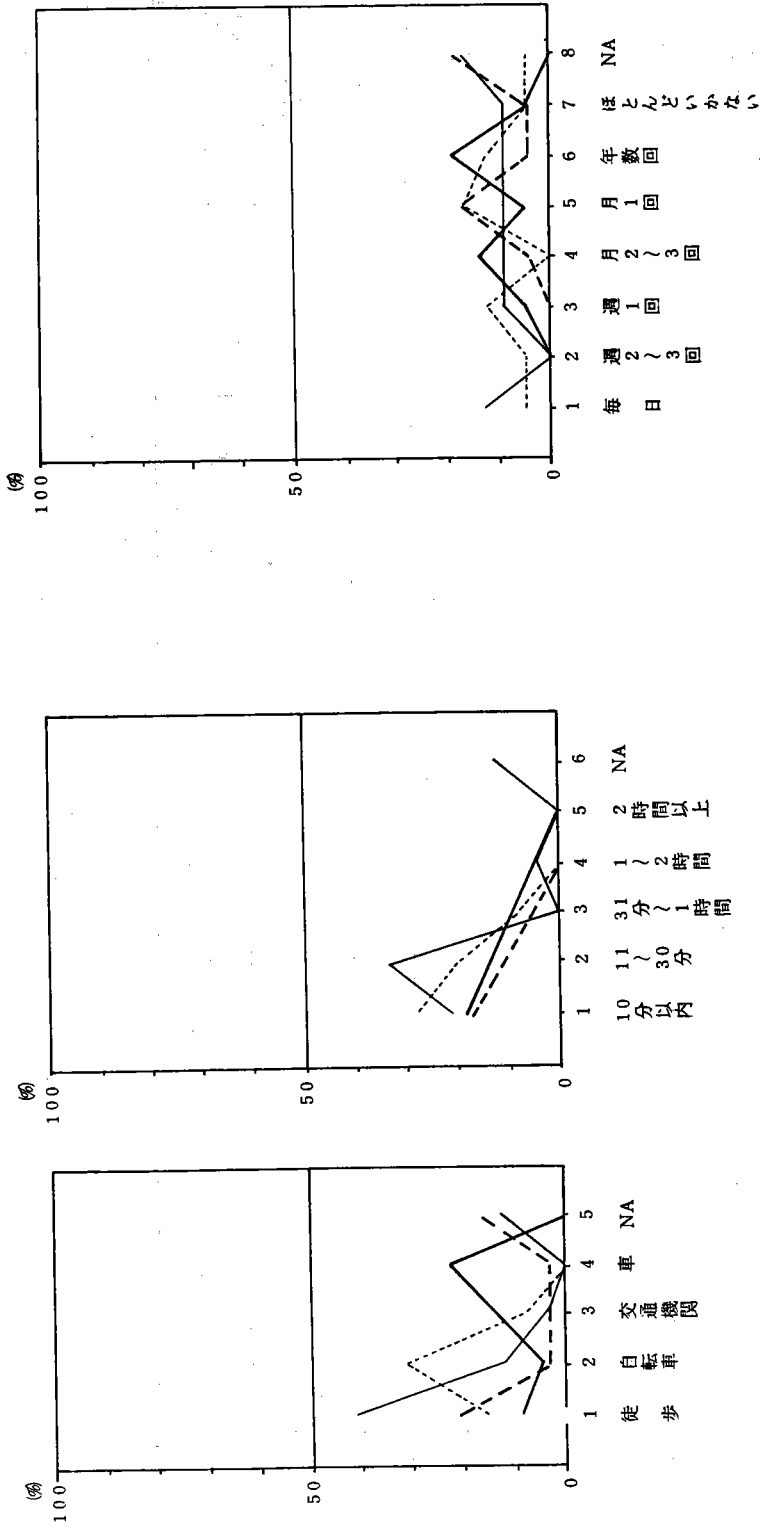
A 永田橋 17人
 B 是政橋 16人
 C 二子橋 15人
 D 丸子橋 20人

⑨ 公園 園 **あなた**
3) どういう手段

4) かかる時間

5) どの位のひん度

- A 永田橋 24人
- - - B 是政橋 25人
- C 二子橋 22人
- - - D 丸子橋 29人



④ 公園滞在時間

あなた

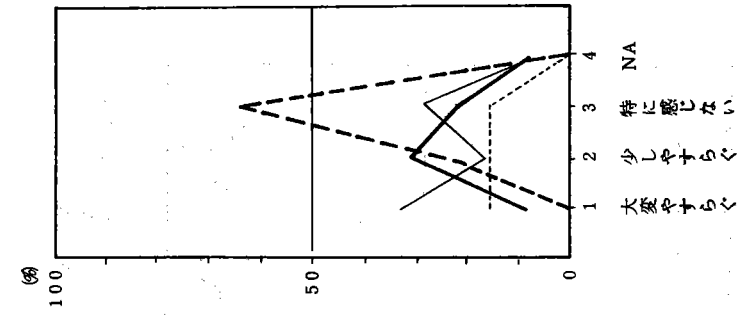
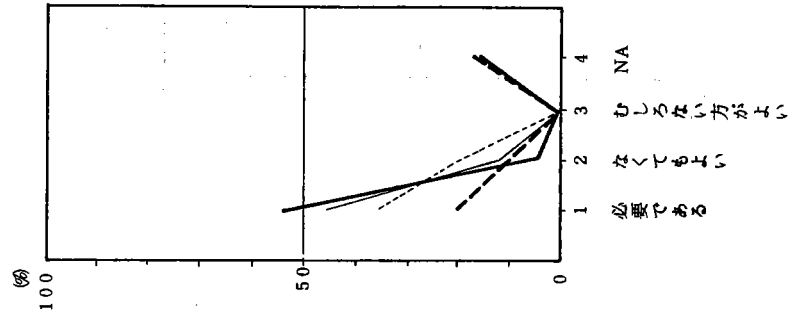
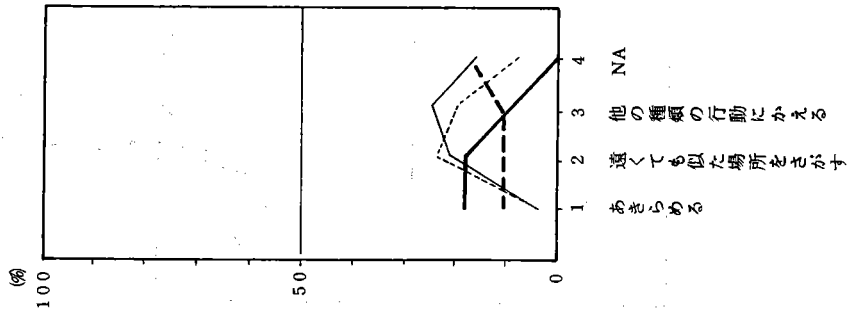
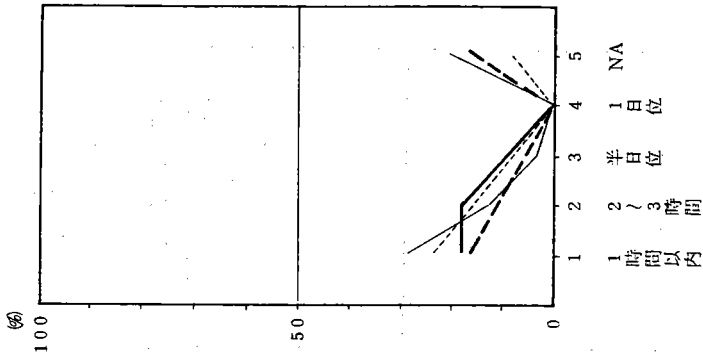
6) 滞在時間

7) そのような場所がない場合

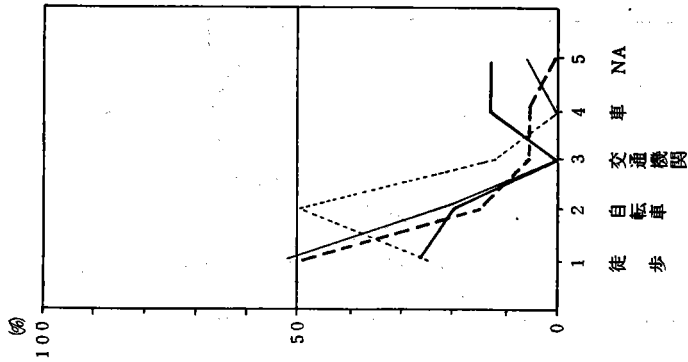
8) 必要ですか

9) やすらぎますか

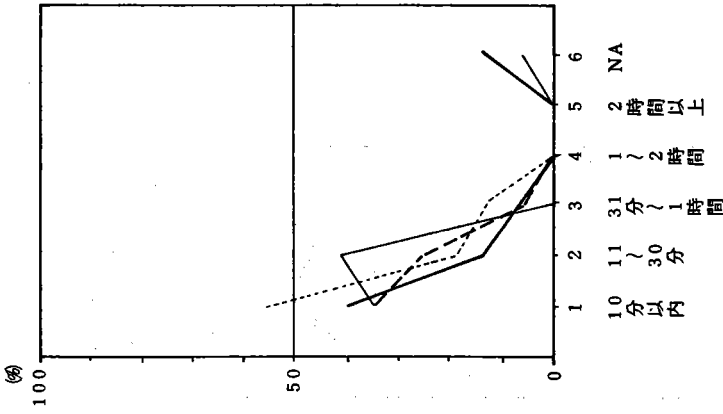
A 永田橋 24人
 B 是政橋 25人
 C 二子橋 22人
 D 丸子橋 29人



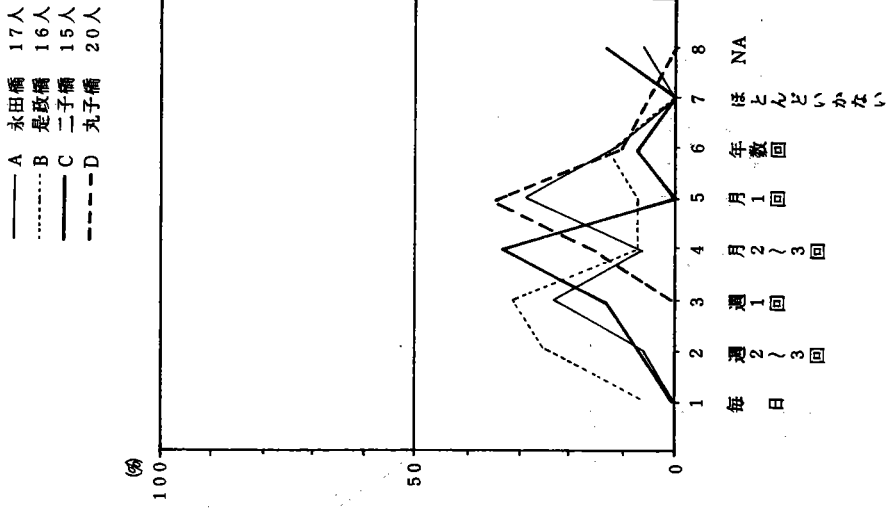
④ 公園子ども
3) どういう手段



4) かかる時間

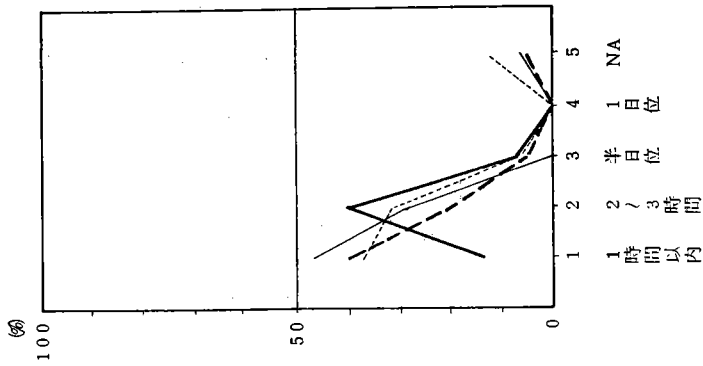


5) どの位のひん度

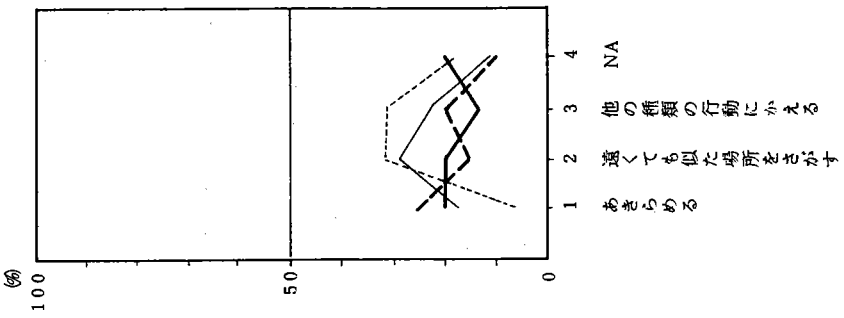


⑨ 公園 子ども

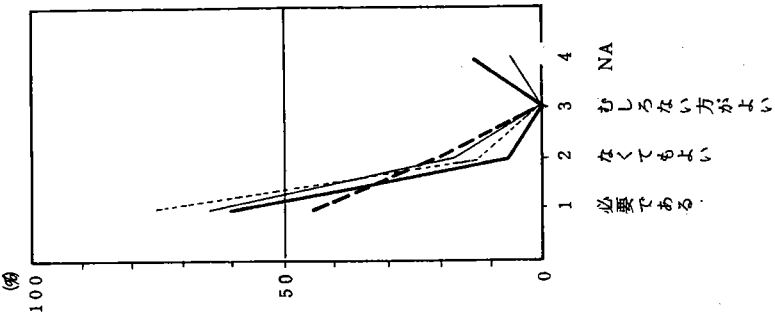
6) 滞在時間



7) そのような場所がない場合



8) 必要ですか

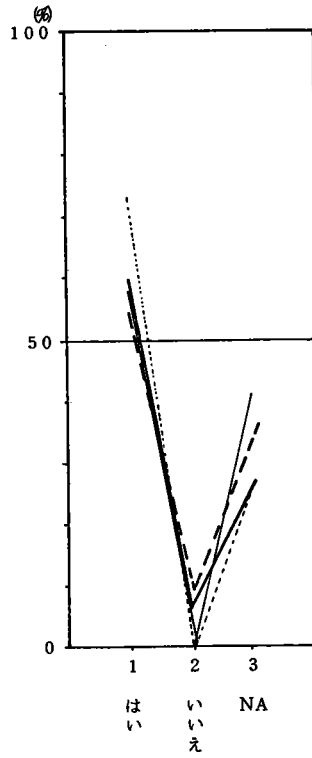
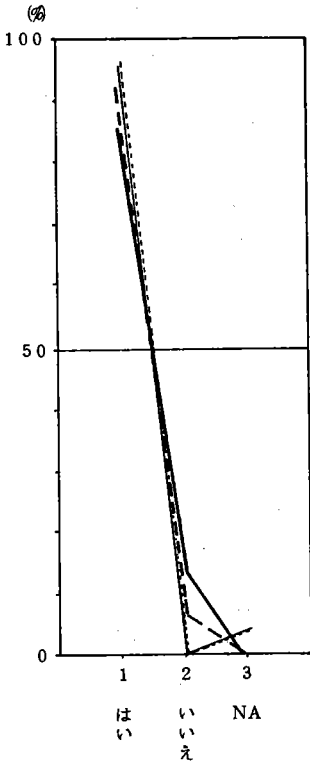


Q3 多摩川についてうかがいます。

1. 多摩川には行ったことがありますか
あなた

子ども

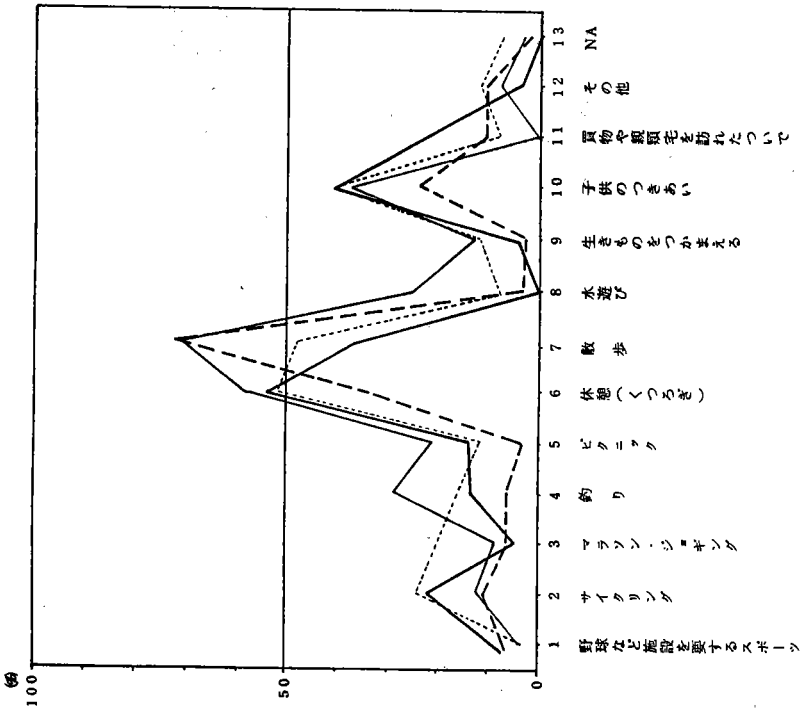
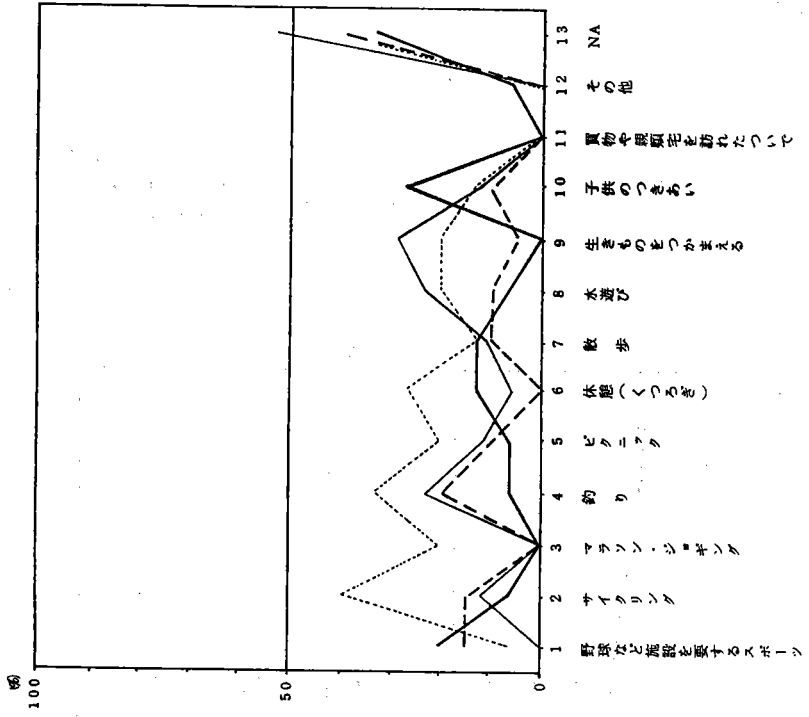
		子供	
—	A 永田橋	24人、	17人
- - - -	B 是政橋	25人、	15人
—	C 二子橋	22人、	15人
- - - -	D 丸子橋	29人、	20人



SQ1 多摩川では何をしていますか
あなた

子供

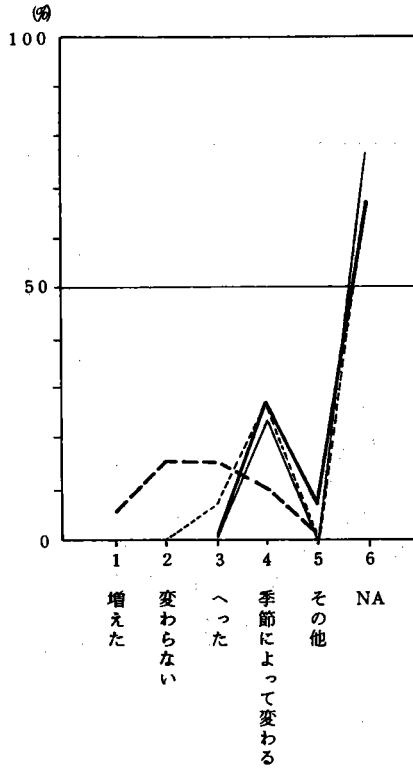
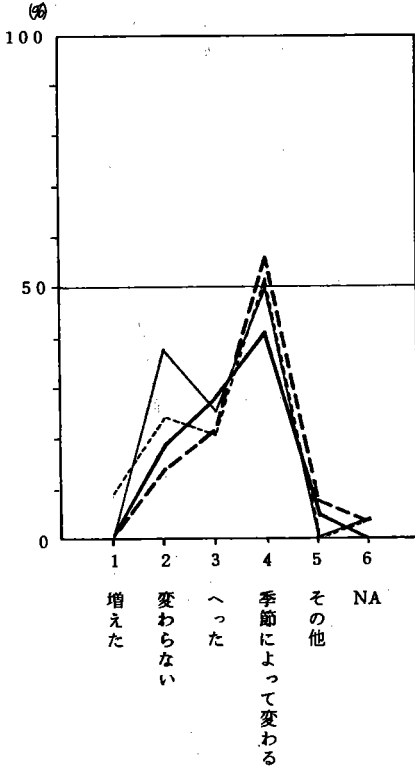
子供
A 永田橋 24人、17人
B 長政橋 25人、15人
C 二子橋 22人、15人
D 丸子橋 29人、20人



SQ2 多摩川へ行く回数に変化はありましたか
あなた

子供

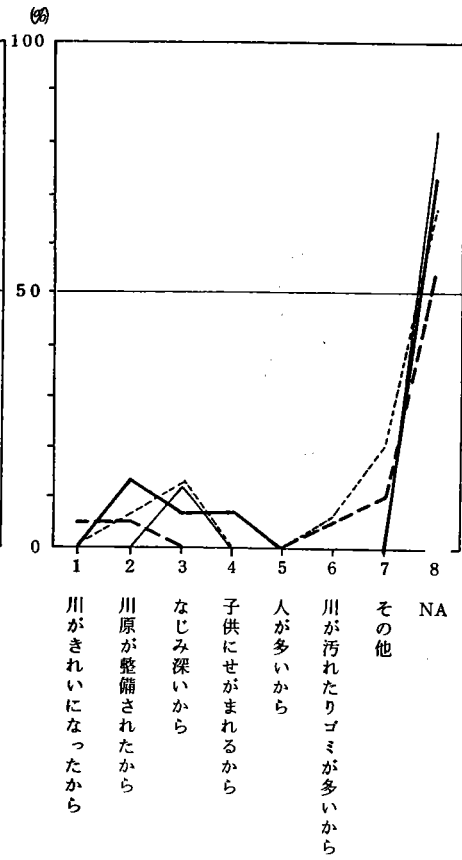
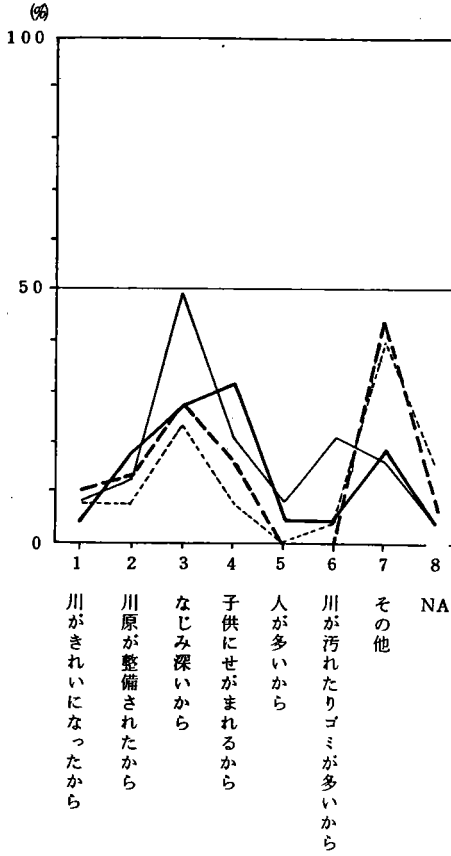
—	A 永田橋	24人、	子供 17人
- - -	B 是政橋	25人、	15人
—	C 二子橋	22人、	15人
- - -	D 丸子橋	29人、	20人



SQ3 それはなぜですか
あなた

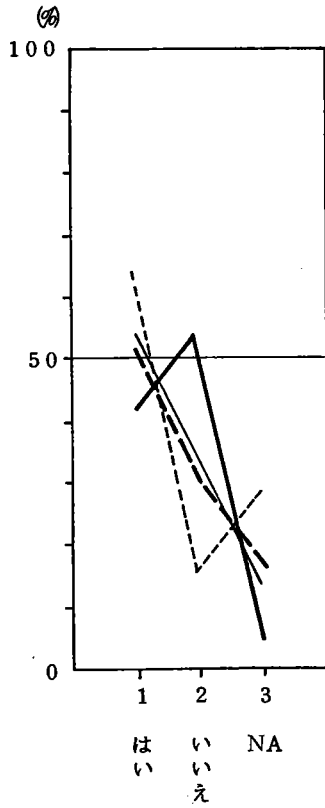
子ども

	子供
— A 永田橋	24人、17人
- - - B 是政橋	25人、15人
— C 二子橋	22人、15人
- - - D 丸子橋	29人、20人



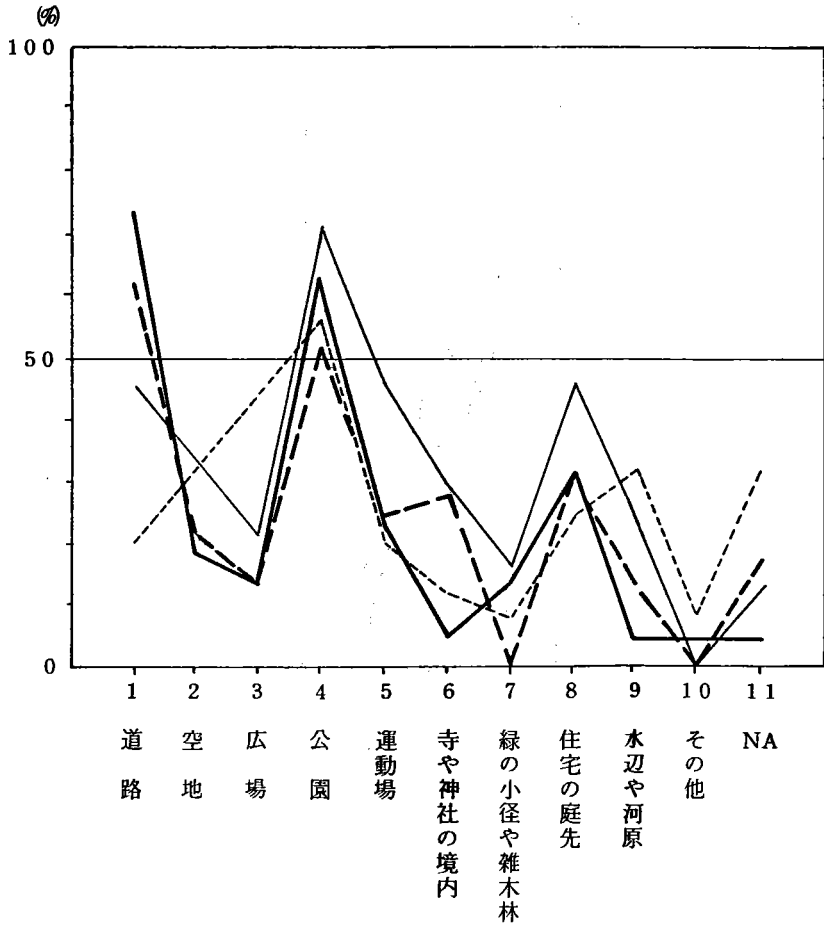
Q4. 子供の遊びについてうかがいます
 1. 安全に遊べる場所がありますか

- A 永田橋 24人
- B 是政橋 25人
- C 二子橋 22人
- D 丸子橋 29人



2. 子供はどんなところで遊んでいますか。
(いくつでも)

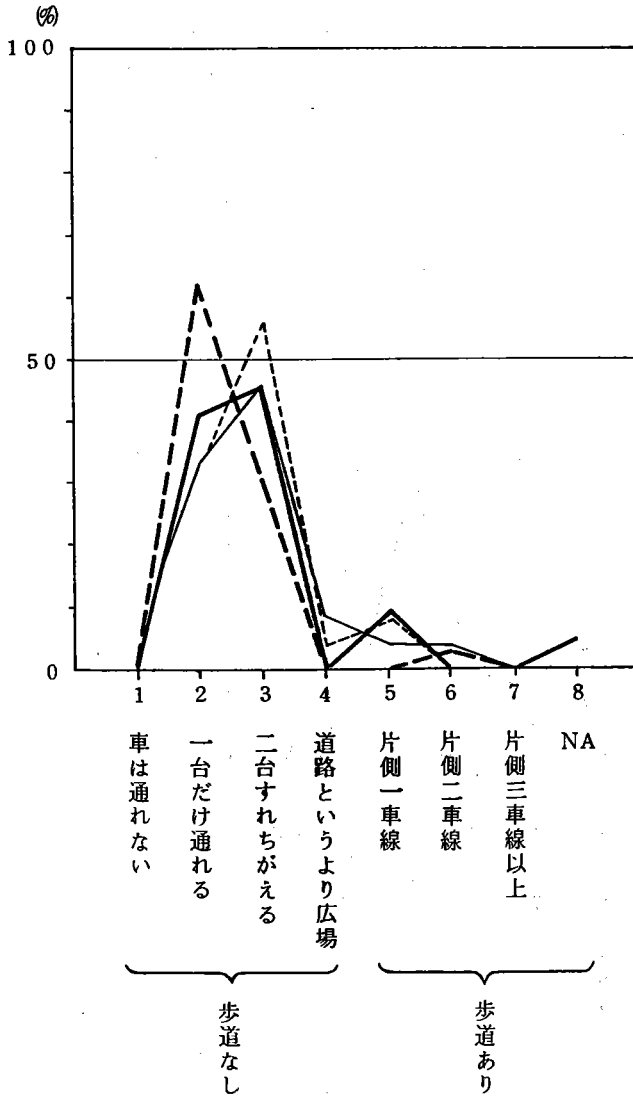
— A 永田橋 24人
 - - - B 是政橋 25人
 — C 二子橋 22人
 - - - D 丸子橋 29人



チェックリスト

1. 住宅前の道路

- A 永田橋 24人
- - - B 是政橋 25人
- C 二子橋 22人
- - - D 丸子橋 29人



4. 車の通行量

